

ニハ數通又ハ再度ノ執行文ヲ附與シタル旨ヲ記載スヘキモノトス

**第五百二十四條** 執行力アル正本ノ附與前ニ判決ノ原本ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ附與スル旨且之ヲ附與スル日時ヲ記載ス可シ

**意解** 本條ハ執行力アル正本ヲ附與スルニ付テノ手續規定ナリ而シテ正本ノ附與前ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲メニ之ヲ附與スル旨竝ニ其附與ノ日時ヲ判決原本ニ記入セシムルノ目的ハ已ニ執行力アル正本ヲ附與シタルコトヲ知ルノ便ニ供スルニ外ナラス

法文ニハ判決ノ原本ニ記載スヘキ旨ヲ規定スルモ第二審以上ノ判決アリテ其訴訟記録ヲ第一審ニ戻リタル後執行力アル正本ヲ附與スル場合ニハ判決ノ原本ナルモノ存在セサルヲ以テ其執行スヘキ判決ヲ爲シタル上級裁判所ヨリ訴訟記録ト共ニ送付シタル判決ノ認證謄本ニ之カ記入ヲ爲スヘキモノトス

**第五百二十五條** 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ附與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

**意解** 本條ハ執行力アル正本ノ效力ノ及フヘキ土地ノ範圍ヲ定メタルモノトス蓋シ一國ノ裁判權ハ唯一ノ淵源ニ出ツルモノニシテ決シテ數箇ノ裁判權存在スルモノニアラサルカ故ニ其裁判權ノ行動ノ效果トシテ發セラレタル執行力アル正本ハ敢テ其裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄内ニ限ラルヘキモノニアラサレハナリ隨テ本條ノ如キハ之ヲ置クノ必要ナキモ唯注意ノ爲メニ過キス

執行力アル正本ノ效力ノ及フヘキ區域

**第五百二十六條** 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

**意解** 本條ハ強制執行ヲ爲スノ方法ニ付テノ債權者ノ權利ヲ定メタルモノニシテ即チ債權者ノ權利巨額ナルトキハ唯債務者ノ或ル地方ニ存在スル財産ノミヲ以テハ之ヲ満足セシムルコト能ハサルコトアリ或ハ又動産ノミニテハ其債務ヲ完済スルニ足ラサルコトアリ斯ル場合ニ債權者ヲシテ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲スコトヲ得セシムルハ債權者ノ權利ヲ完全ニ保護スルニ於テ必要ナルモノナリ是レ本條ノ規定ヲ設ケテ債權者ヲシテ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ヲ以テ同時ニ強制執行ヲ爲スコトヲ得セシメタル所以ナリトス而シテ債權者カ本條ニ依リ權利ヲ行使セントスルニハ第五百二十三條ニ依リ數通ノ執行力アル正本ノ附與ヲ求ムヘキモノトス

**第五百二十七條** 債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

**意解** 本條ハ夫ノ判決手續ニ於ケル第四百三十三條ト同一趣旨ニ出ツルモノニシテ執行上ノ送達通知等ヲ受領スル所ヲ定メシムルニ外ナラス

**第五百二十八條** 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

強制執行ノ方法ニ付テハ債權者ノ權利巨額ナルトキハ唯債務者ノ或ル地方ニ存在スル財産ノミヲ以テハ之ヲ満足セシムルコト能ハサルコトアリ或ハ又動産ノミニテハ其債務ヲ完済スルニ足ラサルコトアリ斯ル場合ニ債權者ヲシテ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲スコトヲ得セシメタル所以ナリトス而シテ債權者カ本條ニ依リ權利ヲ行使セントスルニハ第五百二十三條ニ依リ數通ノ執行力アル正本ノ附與ヲ求ムヘキモノトス

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行ヲ判決ヲ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ附與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

**意解** 本條以下三條ハ強制執行著手ノ要件ヲ定メタルモノナリ強制執行ノ著手ニ付テハ既ニ説明シタル執行力アル正本アルノミヲ以テ足レリトセス債權者ト債務者トノ關係及ヒ執行ニ著手スヘキ時期ヲ確實ニシ且ツ債務者ニ其執行ヲ豫告スルノ手續ヲ盡スコトヲ必要トス蓋シ執行機關ヲシテ執行ヲ爲シ得ヘキ當事者ナリヤ否ヤ又執行ヲ爲シ得ヘキ時期ニ到達セシヤ否ヤ等ヲ調査セシメ且ツ其債務者ヲシテ其執行ヲ受クルコトヲ豫知セシムルノ必要アレハナリ故ニ此要件ヲ具備スルニアラサレハ執行機關ハ執行ニ著手スルコトヲ得サルモノトス而シテ其要件ニハ一般ノモノト特別ノ場合ニ限リ適用セラルルモノトアリ

**第一 一般ニ適用スヘキ執行着手ノ要件(本條)**

債務名義ノ何タルヲ問ハス債務者ノ何人タルヲ論セス又裁判所書記ノ附與シタル正本ナルト公證人ノ附與シタル正本ナルトニ拘ハラズ強制執行ヲ始ムルニハ左ノ條件ノ存在ヲ必要トス

一 強制執行ヲ求ムル者即チ債權者及ヒ之ヲ受クル者即チ債務者ノ氏名ヲ債務名義ニ表示シ又ハ之ニ附記シタル執行文ニ表示セラレタルコトヲ要ス 蓋シ判決ハ第三者ノ爲メ及ヒ第三者ニ對シテ效力ヲ有スルモノニアラサルカ故ニ債務名義ニ表示ナキ者ニ對シテハ之ヲ執行シ得ヘカラスアレハナリ

二 判決其他ノ債務名義ヲ既ニ債務者ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルコトヲ要ス 蓋シ債務者ヲシテ如何ナル債務名義ニ依リ強制執行ヲ實施セラルヘキヤヲ知ラシムルノ必要アレハナリ但シ假差押命令假處分命令ノ如キハ其命令自體カ直チニ執行シ得ヘキモノナルヲ以テ之ヲ送達スルコトヲ要セス(第七四九條第三項)

**第二 特別ノ場合ニ適用スヘキ執行着手ノ要件(本條)**

判決其他ノ債務名義ノ執行カ其趣旨ニ從ヒ證明書ヲ以テ證明スルコトヲ要スル事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ執行力判決ニ表示セラレタル當事者ニ承繼アル場合ニ係ルトキハ債務名義ノ送達以外ニ尙ホ之ヲ附記シタル執行文ヲ債務者ニ送達スルコトヲ必要トス尙此場合ニ於テ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ規定ニ基ク證明書ニ依リ執行文ヲ附與シタルトキハ其證明書ノ謄本ヲ亦強制執行ヲ始ムル前又ハ之ト同時ニ送達スルコトヲ必要トス蓋シ條件付ノ判決又ハ承繼アリタル場合ノ強制執行ハ債務者ヲシテ其條件ノ到來シタルコト又ハ承繼ヲ以テ權利ヲ取得シ又ハ義務ヲ受繼キタルカ故ニ之ニ依リ強制執行ヲ受クヘキモノナルコトヲ知ラシムルノ必要アレハナリ

一般ノ場合ニ適用スヘキ執行着手ノ要件

特別ノ場合ニ適用スヘキ執行着手ノ要件

第五百二十九條 請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコルトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムルコトヲ得

意解 本條ハ前條第二項ト等シク特別ノ場合ニ於ケル執行著手ノ要件ヲ規定シタルモノニシテ左ノ如シ

第一 請求ノ主張カ或日時ノ到來ニ繫ルトキ 是レ即チ判決其他ノ債務名義ニ履行ノ日時ヲ指定シ

タル場合ナリ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判所書記ハ夫等ノ事項ヲ願ミテ執行文ヲ附與スルモノナリト雖モ執行機關カ其執行ニ著手セントスルニハ必ス其日時ノ滿了後ナルコトヲ必要トスルモノナリ

第二 執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキ 是レ即チ第五百三條第一號及ヒ第五百五條

第一項等ノ如キ保證ヲ立ツルコトカ執行ノ條件ニル繫場合ナリ此場合ニ於テハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其證明書ノ謄本ヲ既ニ送達シタルカ若クハ其執行ト同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ニ著手スルコトヲ得ルモノトス  
本號ノ場合ニ於テモ保證ノ有無ハ執行文ノ附與ニハ何等ノ關係ナキモノニシテ唯執行著手ニ付テ

其二

其三

ノミニ必要條件ナルカ故ニ其保證ヲ立テタルヤ否ヤハ執行機關ニ於テ調査ヘスキモノトス

第五百三十條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上班司令官應ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

此官應ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ附與ス可シ

其四

意解 本條モ亦前條ト等シク特別ノ場合ニ適用セラルヘキ執行著手ノ條件ヲ定メタルモノニシテ現役ノ軍人軍屬ハ其一進一退嚴格ナル軍規ノ下ニ服役スルモノナルヲ以テ一般ノ手續ニ從ヒ其本人ニ對スル通知送達等ヲ以テ強制執行ニ著手スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ必ス其上班司令官應ニ通知ヲ爲シタル後ニ於テ始メテ其執行ニ著手スルコトヲ得ルモノト爲セルナリ

右ノ如ク上班司令官應ニ通知ヲ爲スハ現役ノ軍人軍屬ニ對スル執行著手ノ必要條件ナルヲ以テ債權者ハ其通知ヲ爲シタルコトヲ證明セサルヘカラス之ヲ以テ法律ハ右ノ通知ヲ受ケタル官應ニ債權者ノ請求ニ因リ其通知ノ受取證ヲ附與スヘキコトヲ命シ以テ債權者ノ證明ノ便益ニ供セシメタリ

第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り執達吏之ヲ實施ス

債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得  
裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

意解 本條ハ強制執行ノ實施機關トシテ何人カ強制執行ノ實施ヲ爲スヘキモノナリヤヲ定メタルモノニシテ強制執行ノ實施ヲ爲スモノハ原則トシテ執達吏ナリ蓋シ強制執行ノ實施ハ國家ノ裁判權行使ニ

強制執行ノ實施機關トシテ何人カ強制執行ノ實施ヲ爲スモノハ原則トシテ執達吏ナリ

民事訴訟法通義 第六編 強制執行 第一章 總則

外ナラスト雖ト多クハ他ノ判定權ト異ナリ事實上有形ニ實行スヘキ行爲ヲ盡ササルヘカラサルモノナルカ故ニ之ヲ裁判所ノ行爲ニ屬セシメス司法機關中ニ別ニ其任ニ當ルヘキ吏員ヲ設ケテ之カ職務ヲ執ラシムルヲ適當トスレハナリ但シ執行々爲中ニ於テモ有形ニ實踐スルノ行爲ヲ必要トセス單ニ無形ノ判定ノミヲ以テ實施スヘキモノハ裁判所自ラ之ヲ實施ズヘキモノニシテ區裁判所カ執行裁判所トシテ其任ニ當ルヲ通常トシ或ル特別ノ場合ニ於テハ受訴裁判所之ヲ爲スヘキモノトス是レ法文ニ別段ノ規定ナキ限りハ執達吏之ヲ實施スト規定シタル所以ナリ債權者カ執達吏ノ職權ニ屬スル強制執行ヲ求メンニハ執行力アル正本ヲ執達吏ニ交付シテ之カ委任ヲ爲スニアリ然レトモ債權者カ直接ニ執達吏ニ委任スルコトノ困難ナル場合例ヘハ甲裁判所管内ニ在ル債權者カ乙裁判所ノ管内ニ於テ強制執行ヲ爲サントスル場合ノ如キ殊ニ地方裁判所ノ管轄ヲ異ニスルトキノ如キハ至ク他管ノ執達吏ニ委任セサルヘカラサルカ故ニ斯ル場合ニ於テハ債權者ハ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得區裁判所書記ハ此求メアルトキハ他ノ區裁判所ノ執達吏ニ委任ノ媒介ヲ爲ササルヘカラス而シテ此判所書記ノ媒介ニテ委任シタル執達吏ニ對シテハ債權者カ直接ニ委任ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス

第五百三十二條

執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

本條ハ執達吏ノ職務上ノ責任ヲ規定シタルモノニシテ執達吏ハ債權者ノ委任ニ基キ強制執行ヲ

執達吏ノ職務上ノ責任

爲スモノナレハ其債權者トノ私法上ノ關係ハ總テ民法委任ノ規定ニ基キ解決セシモノニシテ若シ其委任ノ趣旨ニ違反シタルカ爲メ債權者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ其損害賠償ノ責任ヲ任セサルヘカラサルコト當然ナルモ其公法上ノ關係ニ於テ執行當事者又ハ關係人ニ對シ違法ノ處分ニヨリ損害ヲ被ラシメタルトキハ執達吏ニ於テ之カ賠償ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルヤハ一般ノ官吏公吏カ其資格ニ於テ爲シタル行爲ニ付キ賠償ノ責任ヲ負フヘキヤ否ヤハ重要ナル問題ニ屬スト雖モ執達吏ニ付テハ其職務ノ本質上損害ヲ生スルノ危険大ナルモノアルヲ以テハ法律ハ本條ニ於テ特ニ其責任ヲ負フヘキモノナルコトヲ明定シ其違法處分ニヨリ損害ヲ生セシメタルトキハ其損害ニ付キ債權者若クハ其他ニ責任ヲ負フヘキ者アルトキト雖モ先ツ第一位ニ於テ執達吏カ其損害ヲ賠償スヘキモノト爲セリ

第五百三十三條

債權者執行力アル正本ヲ交付シ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債權者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債權者ニ交付スルコトヲ得

意解 本條ハ執達吏ニ對スル委任ノ範圍ヲ定メタルモノニシテ執達吏ト債權者トノ私法上ノ關係ハ前條ニモ一言シタル如ク民法上ノ所謂委任關係ナリ故ニ執達吏ハ受任者トシテ債權者ノ爲メニ執行行爲ヲ爲スモノナリ然レトモ此關係ノ發生スルニハ債權者カ民法ノ規定ニ從フテ特ニ委任行爲ヲ爲ス

執達吏ニ對スル委任ノ範圍

コトヲ要セス單ニ債權者ヨリ強制執行ノ爲メ執行力アル正本ヲ執達吏ニ交付スレハ其執行ノ申出ト同時ニ法律上委任ノ效力ヲ生シ執達吏ハ當然左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

一 支拂其他ノ給付ヲ受クルコト

二 有效ニ受取證書ヲ作り債務者ニ之ヲ交付スルコト

三 債務者カ其義務ヲ完全ニ履行シテハリタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコト以上三箇ノ行爲ハ執達吏ヲシテ完全ニ強制執行ヲ爲サシムルカ爲メニ法律上當然委任ノ範圍ニ屬スルモノト看做サルルモノナルカ故ニ之ヲ制限スルモ單ニ執達吏ト債權者トノ間ニ於テノミ效力ヲ生シ債務ノ履行ヲ爲シタル者等ニ對シテハ其制限ヲ以テ對抗スルコトヲ得サルモノトス

**第五百三十四條**

執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

**意解**

本條ハ前條規定ノ結果トシテ執達吏ハ強制執行ヲ爲スニ付キ敢テ債權者ヨリ委任アリタルコトヲ特別ナル方法ニヨリテ證明スルコトヲ要セス單ニ執行力アル正本ヲ所持スルノミヲ以テ直チニ債務者及ヒ第三者ニ對シテ強制執行ヲ爲シ且ツ前條規定ノ三箇ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ルノ權利ヲ有スルコトヲ明定シタルモノナリ隨テ執行力アル正本ヲ所持スル執達吏カ執行ヲ實施シタルトキハ債權

執達吏ハ  
債權者ヨリ  
委任アリタル  
コトヲ特別  
ノ方法ニ  
證明スル  
コトヲ要  
セス

者ハ其委任ノ欠缺又ハ制限アリタルコトヲ主張スルコトヲ得サルハ勿論執行ヲ受ケタル者モ亦其委任ノ欠缺ヲ調査スルコトヲ要セス又其欠缺ヲ知ルモ之ニ對シテ履行ヲ爲シタルトキハ其債務ヲ免カ

ルルニ至ルモノトス  
以上ノ如ク執行力アル正本ハ執達吏ノ執行權ヲ證明スル唯一ノ材料ナルヲ以テ執達吏ハ常ニ其正本ヲ携帶シ關係人ノ請求アルトキハ之ヲ示ササルヘカラスモノトス故ニ執達吏ニ於テ若シ其正本ヲ示ササルトキハ債務者ハ其執行ヲ受クルヲ拒ムコトヲ得ヘシ

**第五百三十五條**

執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交附ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

**意解**

本條ハ執達吏ノ義務ヲ履行シタル債務者ニ對スル義務ヲ規定シタルモノナリ即チ執達吏ハ債務者(必スシモ本人ナルヲ要セス)カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本並ニ受取證書ヲ債務者ニ交付スヘク又其義務ノ一部ノミカ履行セラレタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且ツ其部分ノ受取證書ヲ債務者ニ交付セサルヘカラス法律カ執達吏ニ此義務ヲ負ハシムルノ理由ハ執行力アル正本ヲ所持スル者ハ何等ノ證明ヲ爲スコトヲ要セスシテ執行ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故

ニ既ニ全部ノ履行アリタルニ拘ハラヌ尙ホ之ヲ執達吏ニ所持セシムルハ再度ノ執行ヲ受クルノ虞アレハナリ一部ノ履行アリタル場合モ亦同一ナリ唯此場合ニハ残りノ部分ニ付キ他日再ヒ執行ヲ爲スノ必要アルヲ以テ其正本ヲ交付セシムルコト能ハサルモノナレハ單ニ其履行アリタル部分ヲ附記シテ之ヲ明確ナラシムルコトト爲シタルナリ

本條ノ規定ニ從ヒ執達吏カ正本及ヒ受取證ヲ債務者ニ交付スルモ爲メニ債務者カ債權者ニ對シテ更ニ受取證ヲ求ムルノ妨ケト爲ルモノニ非ス蓋シ債務者ノ利益ヲ確保スルカ爲メニ外ナラス

第五百三十六條

執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用キ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

意解

本條ハ執達吏カ強制執行ヲ爲スニ當リ使用スルコトヲ得ル強制力ノ範圍ヲ定メタルモノトス

(一) 執達吏ハ強制執行ヲ爲スニ付キ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫、及ヒ筐匣ヲ搜索シ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムルノ權利ヲ有ス 蓋シ執達吏ノ爲ス強制執行ハ有體動産ニ對スル執行ナルヲ以テ斯ル權力ヲ附與スルニ非サレハ能ク完全ニ其執行ヲ爲ス能ハサルニ至ルヘケレハナリ然レトモ斯ル行爲ハ個人ノ財産ノ安固ヲ害スルコト大ナルヲ以テ其必要已ムヲ得サル場合ニ限り之ヲ行フコトヲ得セシムルナリ故ニ其必要ノ程度ヲ超エテ權力ヲ濫用シタルトキハ執

執達吏ノ  
使用スル  
コトヲ得  
ヘキ強制  
力ノ範圍

達吏ハ民法上竝ニ刑法上ノ責任ヲ免カルルコトヲ得サルナリ而シテ其必要ナリヤ否ヤハ全ク事實上ノ問題ナリトス

(二) 執達吏カ執行ヲ爲スニ當リ抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ威力ヲ用ヒ且警察上ノ援助若クハ兵力ヲ藉ルコトヲ得ルモノトス而シテ此警察上ノ援助ハ執達吏ヨリ直接ニ之ヲ求ムルコトヲ得ルモ兵力ヲ藉ル場合ニハ執行裁判所ニ申立テ執行裁判所ヨリ相當官廳ニ囑託シテ其援助ヲ求ムヘキモノトス蓋シ執達吏カ正當ノ執行ヲ爲スニ當リ其身體ニ抵抗ヲ受クルトキハ之ヲ排除スルニアラサレハ完全ナル執行ヲ爲スコト能ハサルヘケレハナリ隨テ此強制力モ亦其執行ノ目的ヲ達スルニ必要ナル程度ヲ超スヘカラサルヤ勿論ナリ

第五百三十七條

執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

意解 本條ハ執達吏カ執行ヲ爲スニ付キ立會證人ヲ要スヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ執達吏ノ權力濫用ノ弊ヲ防キ債務者ノ利益ヲ保護スルノ主旨ニ出テタルモノナリ而シテ其場合ハ左ノ如シ

(一) 執達吏カ執行ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ即チ前條第二項ニ依リ威力ヲ使用スル場合ナリ斯ル場合ハ權力濫用ノ虞アレハナリ

執達吏ノ  
執行行爲  
ニ立會證  
人ヲ要ス  
ヘキ場合

(二) 債務者ノ住所ニ於テ執行ヲ爲スニ際シ債務者又ハ其成長シタル家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキ 斯ル場合ハ全ク事理ヲ辨スヘキ者ナキ所ニ於テ強制執行ヲ爲スモノナレハ執達吏ハ如何ナル不正ノ所爲ヲ爲スモ知ルヘカラサレハナリ

以上二箇ノ場合ニ於テハ近隣ノ成年者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會セシメサルヘカラス茲ニ所謂證人トハ訴訟上ノ證人トハ異ナリ第二百九十九條第三號ノ場合ト同一義ナリトス

**第五百三十八條**

強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ附與スルコトヲ要ス

意解 本條ハ強制執行ニ付キ執達吏ハ利害關人ノ執行記録ノ閲覽竝ニ之ニ存スル書類ノ謄本附與ノ請求ニ應スヘキ義務アルコトヲ規定シタルモノニシテ第二百二十四條ノ訴訟記録ノ閲覽竝ニ其謄本ノ附與ニ付テノ規定ト同一ノ趣旨ニ出テタルモノトス

**第五百三十九條**

夜間及ヒ日曜日竝ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行爲ヲ爲スコトヲ得

右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示ス可シ

意解 本條ハ強制執行ニ於ケル執行行爲ノ時ヲ定ムルモノニシテ一般ノ場合ニハ夜間又ハ日曜日其他一般ノ祝祭日ニハ之ヲ執行シ得サルヲ本則トシ唯事最モ急速ヲ要シテ猶豫スルニ於テハ債權者ノ損害ト爲ルカ如キ場合ニ於テハ執行裁判所ノ許可ヲ得タルトキニ限り夜間、日曜日、祝祭日等ニ於テモ執行ヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シテ此場合ニ於テハ其執行ヲ爲スニ際シ必ズ其許可ノ命令ヲ示ササルヘカラサルモノトス

執行行爲  
ヲ爲スヘ  
キ時ニ關  
スル制限

害ト爲ルカ如キ場合ニ於テハ執行裁判所ノ許可ヲ得タルトキニ限り夜間、日曜日、祝祭日等ニ於テモ執行ヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シテ此場合ニ於テハ其執行ヲ爲スニ際シ必ズ其許可ノ命令ヲ示ササルヘカラサルモノトス

本條ノ許可ヲ要スルコトハ新ニ執行ニ著手スルトキト既ニ著手シタル執行力其時期ニ繼續スヘキ場合ナルヲ問ハサルカ故ニ晝間著手シタル執行行爲ニシテ其事終ラス日没ニ至ルトキハ直チニ之ヲ停止シテ其翌日之ヲ繼續スヘキモノトス故ニ斯ル虞アルトキハ最初ヨリ許可命令ヲ携行スルヲ適當トス

**第五百四十條**

執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可シ

此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 調書ヲ作リタル場所、年月日
- 第二 執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記
- 第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示
- 第四 右各人ノ署名捺印
- 第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閲覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示
- 第六 執達吏ノ署名捺印

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

意解 本條ハ執行調書ノ作成ニ關スル規定ニシテ執達吏ハ假令一強制執行中ト雖モ各個ノ執行行爲ニ

執行調書  
ニ具備ス  
ヘキ要件  
如何

付キ執行調書ヲ作成セサルヘカラス例ヘハ差押ヲ爲シタルトキハ差押調書ヲ作り其差押物ヲ競賣シタルトキハ競賣調書ヲ作り又照査手續ヲシタルトキハ照査調書ヲ作成スルカ如シ此等ノ調書ハ總括シテ執行記録ト稱スルモノニシテ執行ノ情況ヲ知ルノ用ニ供スルモノトス而シテ其調書ニ記載スヘキ要件ハ法文第一號乃至第六號ニ規定スル所ニシテ特ニ説明ヲ要スルモノナシ

**第五百四十一條** 執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第三百三十九條、第四百十條及ヒ第四百十五條乃至第四百十九條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

**意解** 本條ハ執行々爲ニ屬スル催告及ヒ通知ヲ爲スノ方法ヲ定ムルモノニシテ執行々爲ニ屬スル催告トハ第六百六十三條ノ競買價額申出ノ催告ノ如キヲ謂ヒ通知トハ第五百六十六條ノ差押ノ通知第五百九十一條ノ配當要求ノアリタルコトノ通知ノ如キヲ謂フ此等ノ催告及ヒ通知ハ執達吏カ直接ニ口頭ヲ以テ本人ニ之ヲ爲スヲ本則トス然レトモ執達吏カ直接口頭ヲ以テ之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ノ二箇ノ例外方法アリ

執行々爲ニ屬スル催告其他ノ通知ヲ爲スノ方法

(一) 調書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スコト 此場合ニ於テハ第三百三十九條第四百十條及ヒ第四百十五條乃至第四百十九條ノ規定ニ準據ニシテ送達ヲ爲スヘキモノトス此際ニ若シ別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載スルヲ以テ足ルモノナリ

(二) 調書ノ謄本ヲ郵便ヲ以テ送達スルコト 即チ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ已ムヲ得ヌ第四百四十三條ニ依リ調書ノ謄本ヲ郵便ニ付シテ催告又ハ通知ヲ爲スヘキモノトス此場合ニ於テハ其郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載セサルヘカラス

**第五百四十二條** 執行行爲ノ際債務者ニ爲スコキ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

**意解** 本條ハ執行々爲ノ際債務者ニ爲スコキ送達及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セサル場合ヲ規定シタルモノニシテ特ニ説明ヲ要スルモノナシ

**第五百四十三條** 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行爲ノ處分又ハ其行爲ノ共力ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲スコキ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス  
執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

**意解** 本條ハ強制執行ニ付キ裁判所ニ屬セシメラレシル事柄ニ付テノ管轄ヲ定メタルモノトス而シテ

執行裁判所ハ如何ナル裁判所ニ以テ之ヲ充ツ



本法ニ於テ執行々爲ノ處分ヲ裁判所ニ任セタルモノハ數多アリ例ヘハ第六百二十六條以下ノ配當手續ノ如キ又第六百四十條以下ニ規定スル不動産ニ對スル強制執行ノ如シ又執行々爲ノ共力ニ付キ裁判所ニ任セタルモノハ第五百三十六條第二項ノ如キ第五百五十六條第五百五十七條ノ如キヲ謂フ此等ノ處分共力ニ付テノ事物ノ管轄ハ區裁判所ノ管轄トス

其土地ノ管轄ニ付テハ法律ニ於テ特ニ管轄裁判所ヲ指定シタルトキハ元ヨリ之ニ從フヘキモノナルモ若シ別段ノ規定ナキトキハ未タ其執行ヲ始メサル以前ニ於テハ將來其執行手續ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所又其既ニ執行ヲ始メタル後ナルトキハ其執行ヲ爲シタル地ノ區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト爲スモノトス

此執行裁判所ニ於テ執行上ニ爲ス所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得蓋シ執行上ノ事タル別段ニ事實等ノ取調ヲ爲スノ要ナキモノ多ケレバナリ

**第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス**

執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

意解 本條ハ強制執行ノ實施ニ關スル申立又ハ異議ニ付テノ規定ナリ

強制執行ノ實施ニ關スル異議ノ性質

強制執行ノ實施ニ關スル異議申立ノ時期

強制執行ノ實施ニ關スル異議申立ノ義務

強制執行實施ニ關スル異議ハ形式上ノモノニシテ強制ノ方法ニ對シ不服ヲ申立テ其不適式ナル執行ヲ除却セシムルヲ目的トスルモノナルカ故ニ強制執行ノ方法又ハ強制執行ニ際シ執達吏ノ遵守スヘキ手續ニ關シ意見アリ若クハ不服アル者ハ之ニ付キ申立ヲ爲シ又ハ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘシ而シテ此異議ハ申請ノ方式ヲ以テ執行裁判所ニ爲スヘキモノトス

此異議ノ申立ヲ爲スノ時期ニ付テハ法律ニ何等規定スル所ナシト雖モ此異議ノ目的ハ不適式ナル執行ヲ除却スルニアルヲ以テ其執行著手以前ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得サルモ苟クモ其執行ノ開始後ハ其完結ニ至ル迄何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス又執行完結後ニ於テハ執達吏ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ル場合アルヘキモ此異議ヲ主張スルコトヲ得ス蓋シ此ノ異議ハ執行ノ實施ニ對スル形式上ノモノナレハナリ

此異議ノ申立ヲ爲スモ強制執行ノ實施ヲ停止スルノ效力ヲ有スルモノニアラス然レトモ執行裁判所ハ假リノ處分トシテ執行文附與ニ對スル異議ノ場合ニ於テ裁判長カ爲ス命令ト同一ノ命令ヲ發スルコトヲ得ルモノナリ

債權者カ執達吏ニ對シ強制執行ノ委任上ニ關スル異議即チ執行委任ヲ受クルヲ拒ミタルニ付テノ異議、委任ニ從ヒ執行々爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルニ付テノ異議、或ハ執達吏ノ計算セシ手数料ノ適當ナルコトニ付テノ異議等ハ強制執行其モノノ方法又ハ手續等ニ關スル異議トハ其趣キヲ異ニスルモ法律ハ便宜ニ從ヒ等シク執行裁判所ニ於テ之ヲ裁判スヘキモノト爲セリ

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遅クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口強辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限り之ヲ許ス  
債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

意解 本條ハ債務名義ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル異議ニ付テノ規定ナリ

此請求ニ關スル債務者ノ異議ハ債務名義ニ依リテ確定シタル請求ニ對シ其債務名義成立以外ノ事由ニ因リ實體上其執行ヲ受クヘカラサルモノナルトキ其執行權ヲ排除スルタメ債務者ヨリ債權者ニ對シテ訴ヲ以テ主張スルノ異議ナリトス而シテ此訴ハ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ爲スヘキモノトス  
此債務者ノ異議ノ原因ハ判決後ニ債務ヲ辨濟シ又ハ相殺、拋棄、和解若クハ延期ノ承諾アリタル場合ニシテ全ク民法上ニ於テ決スヘキモノナリ然レトモ此原因ニ依リ異議ヲ主張スルニハ其原因カ遅クトモ本法ノ規定ニ從ヒ異議ヲ主張シ得ヘカリシ口頭辯論ノ終結後ニ生シ且故障ヲ以テ其原因ヲ主張スルコトヲ得サリシトキニ限ルモノトス蓋シ本條ノ異議ハ訴訟中ニ主張スルコトヲ得ヘキ防禦方法ヲ再ヒ提出スルコトヲ許スモノニアラスシテ債務名義ノ成立以外ノ原因ニ出ツルトキニ限り之ヲ許スヘキモノナレハナリ但シ執行命令及ヒ公正證書ニ依ルモノニ付テハ特別ノ規定アリ(第五六一條) 茲ニ所謂異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結トハ第二百九條ノ規定ニ於ケル裁判ニ接著ス

確定シタル請求ニ關スル異議

異議ノ原因

請求ニ關スル異議ノ提起時期

口頭辯論ノ終結ヲ意味スルモノトス

本條ニ依リ主張スルコトヲ得ヘキ異議ノ原因數箇存在スル場合ニハ債務者ハ同時ニ其總テヲ主張スルコトヲ要スルモノトス

請求ニ關スル異議ノ提起ノ時期ニ付テハ法文何等ノ規定ヲ設ケサルヲ以テ其始期ニ付キ學者ノ見解ニ派ニ岐レ或者ハ此異議ノ訴ハ執行ノ排除ヲ目的トスルモノナルカ故ニ執行ニ著手シタル後ナルコトヲ要ストシ或者ハ既ニ執行文ノ附與アリタル後ハ敢テ執行ノ開始セラレタルコトヲ要セスト論ス余輩モ亦執行開始ヲ要件トセサルモノト解ス如何トナレハ此異議ノ訴ハ具體的ニ開始セラレタル執行ノ排除ヲ目的トスルモノニアラスシテ抽象的ニ執行力アル正本ノ效力ヲ失ハシムルヲ目的トスルモノナレハナリ而シテ其終期ニ至リテハ其執行ノ終了前ナルコトヲ要スルハ學者ノ見解一致スル所ナリ蓋シ執行既ニ終了スレハ最早排除スヘキ目的物ヲ排除スルニ至ルヘケレハナリ

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文附與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ爭フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ附與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラルコト無シ

意解 本條ハ第五百十八條第二項ニ依リ條件附ノ判決ノ場合ニ於テ債權者カ其條件ノ到來シタルコトヲ證明シ裁判長モ亦之ヲ認メテ執行文附與ノ命令ヲ爲シ之ニ因テ執行ヲ爲スニ至リタル場合ニ債務

第五百十八條及第五百十九條ノ場合

ニ於テモ  
亦請求ニ  
關スル異  
議ヲ規定  
適用セテ

者カ其條件ノ到來セサルコトヲ主張シテ異議ヲ爲ストキ又第五百十九條ニ依リ承繼アリタルモノト認メテ裁判長カ其承繼人ノ爲メ若クハ其承繼人ニ對シテ執行文附與ノ命令ヲ爲シ之ニ基キ執行ヲ爲スニ至リタルニ債務者カ其承繼ナキコトヲ主張シテ異議ヲ爲ストキハ亦前條ノ規定ヲ準用シ新ナル訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ異議ノ主張ヲ爲スヘキモノト爲セリ蓋シ其條件ノ到否又ハ承繼ノ有無ヲ爭フハ強制執行ニ付キ請求其モノヲ爭フモノニハ非スト雖モ而カモ實體上ニ關スル異議ナルヲ以テ前條ト同一ノ手續ニ依ラシムルヲ便宜トスレハナリ

本條ニ依ル異議ノ訴ハ實體上ノモノニシテ第五百二十二條ニ依ル執行文附與ニ關スル異議ノ申立ハ形式上ノモノナルカ故ニ債務者ハ彼此雙方ノ異議ヲ同時ニ申立ツルコトヲ得ルモノトス

第五百四十七條

強制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リ妨ケラルルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得  
急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債

權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス

請求ニ關  
スル異議  
ヲ提起ス  
ルニ効力

意解

本條ハ確定シタル請求ニ關スル異議ノ訴提起ノ效力ヲ定メタルモノトス  
確定シタル請求ニ對シ債務者カ前二條ノ規定ニ基キ異議ノ訴ヲ提起スルモ其既ニ開始セシ強制執行ハ之カ爲メニ其續行ヲ停止セラルヘキモノニアラス然レトモ受訴裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ其異議カ法律上理由アリト見エ且其實質ニ付テモ疏明アリタルトキハ其異議ニ對スル判決ヲ爲ス迄強制執行ノ停止ヲ命シ又ハ債務者ニ保證ヲ立ツヘキ條件ヲ以テ強制執行ノ續行ヲ許ス命令ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ其停止ノ命令ハ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ執行ヲ停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ其既ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ命スルコトヲ得ルモノトス但シ債務者ノ申立テアルトキハ必ス此命令ヲ爲ササルヘカラサルニアラス其之ヲ爲スト否トハ全ク受訴裁判所ノ意見ニ依リテ決セラルルモノトス

右ノ命令ハ其異議ヲ裁判スヘキ第一審ノ受訴裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スヘキモノナルモ事急迫ナル場合ニ於テハ其裁判長モ亦之ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス尙ホ急迫ナルトキハ執行裁判所モ亦此命令ヲ爲ズノ權利ヲ行使スルコトヲ得ヘシ然レトモ執行裁判所カ此命令ヲ爲スハ眞ニ急迫ナル危険ヲ免カレシムルノ便宜法ニ過キサレハ其效力モ亦受訴裁判所ノ爲ス命令ト同一ナラス即チ執行裁判所ニ於テハ其命令ヲ爲スト同時ニ本條第二項ノ正式ナル受訴裁判所ノ命令ヲ受ケ之ヲ提出セシムル爲メニ相當ナル期間ヲ定メ若シ其期間内ニ該命令ヲ提出セサルトキハ債權者ノ申立ニ

因リ強制執行ヲ續行スヘキモノトス要スルニ執行裁判所ノ爲ニ此命令ハ一箇ノ解除條件ニ繋ルモノニシテ受訴裁判所ノ命令ヲ受クル迄其效力ヲ持續スルニ過キス

第五百四十八條

受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命令ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命令ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得  
判決中前項ニ掲ケル事項ニ限リ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ  
右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用ス

意解

本條ハ確定シタル請求ニ關スル異議ニ付テ受訴裁判所カ其訴ニ付テ口頭辯論ヲ終ヘタル後其當否ニ付キ裁判ヲ爲スノ際之ト共ニ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノトス即チ受訴裁判所カ右ノ異議ヲ正當ト認メタルトキ先ニ前條第二項ノ命令ヲ爲シアラサルトキハ其判決ニ於テ強制執行ヲ停止シ若クハ制限スル命令ヲ發スルヲ得又前條第三項ニ依リ裁判長カ此命令ヲ發シタル如キトキハ其判決ニ於テ之ヲ認可スルヲ得ヘシ若シ又其異議ノ訴ヲ不當ト認メタルトキハ先ニ前條ニ依リ爲シタル命令ハ其判決ニ於テ之ヲ取消又ハ變更スルコトヲ得ルモノトス

以上ノ場合ニ於テ強制執行ヲ停止シ又ハ制限スルノ命令ヲ掲ケ又ハ其已ニ發シタル命令ヲ取消シ又ハ變更スルノ裁判ヲ掲ケタルトキハ其事項ニ限リ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノトス而シテ此裁判ニ對シ不服ヲ申立テタルトキハ第五百十一條ノ規定ヲ準用スヘキモノナルカ故ニ其本案ノ辯論ニ先チ假執行ニ付テノ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘキモノナリ

第五百四十九條

第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ  
右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

意解

本條ハ第三者カ強制執行ニ對スル異議ヲ主張スル場合ノ規定ナリ元來判決ノ效力ハ當事者間ニノミ及フヘキモノニシテ強制執行ハ其基本タル債務名義ニ表示セラレタル債務者ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナリ然ルニ時トシテハ債權者ノ故意又ハ執行機關ノ過誤ニ依リテ第三者ノ財產ニ對シ強制執行ヲ爲スコトナキニ非ス此場合ニ於テ第三者ハ其目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クルノ權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ト爲ササルトキハ其債務者及ヒ債權者ヲ共同被告トシテ異議ヲ主張スヘキモノトス而シテ此第三者ノ異議ハ實體上ノ異議ニ屬スルヲ以テ訴ノ形式ヲ以テ之ヲ主張セサルヘカラズ

此第三者ノ異議ノ訴ハ其訴訟物カ裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルトキハ執行裁判所ノ管轄ニ屬シ

第三者ノ異議ノ性質及ヒ其爲スヘキ場合

第三者ノ異議ノ訴ノ管轄

第三者ノ  
異議ノ効  
力

若シ其訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ於テ之ヲ管轄スルモノナリ

此異議ノ訴アルトキト雖モ當然強制執行ノ續行ヲ停止スルノ効力ヲ生スルモノニ非ス然レトモ其情況ニ於テ強制執行ヲ續行スルニ於テハ第三者ノ利益ヲ害スルノ虞アルトキハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用シテ其執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得又已ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ命スルコトヲ得ルモノナリ但シ第五百四十七條第二項ニ於テ債務者ノ申立ニ因リ已ニ爲シタル執行處分ヲ取消ス場合ニハ債務者ヲシテ保證ヲ立テシムルモノナルモ第三者ノ申立ニ因ル場合ハ保證ヲ立テシメスシテ其取消ヲ命スルモノナリ是レ第三者ハ故ラニ債權者ヲ害スルカ爲メニ其財産ヲ隱匿スル等ノ虞ナカルヘク且ツ第三者ハ本訴訟ニ關係ナキモノナルヲ以テナリ

### 第五百五十條

強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

- 第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本
- 第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本
- 第三 執行ヲ免カルル爲ノ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書
- 第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

意解 本條ハ強制執行ヲ停止シ又ハ之ヲ制限スヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ

抑モ強制執行ナルモノハ執行力アル正本ニ基キ之ヲ爲スニ於テハ債權者ノ申出又破産手續開始ノ如キ原因ノ存スル場合ノ外ハ之ヲ遮斷セサルヲ本則トス然レトモ本條第一號乃至第四號ノ事項アルトキハ強制執行ヲ爲スヘカラサルニ至ルヲ以テ債務者又ハ第三者カ此等ノ書面ヲ提出シタルトキハ執行機關ハ其強制執行ヲ停止又ハ制限セサルヘカラス茲ニ所謂強制執行ノ停止トハ其強制執行ノ全部ヲ停止スルモノヲ謂ヒ制限トハ強制執行ノ一部ヲ停止スルヲ謂フ而シテ此停止ニハ一時的ノモノト終局的ノモノトアリ

第一 執行スヘキ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキハ執行機關ハ其強制執行ヲ終局的ニ停止スヘキモノトス今本號ニ掲クル所ノ裁判ヲ細別スレハ  
(イ) 執行スヘキ判決ヲ取消スヘキ旨ヲ記載シタル裁判 即チ再審ニ因リ執行スヘキ確定判決ヲ取消シ又故障又ハ上訴ニ因リ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ヲ取消ス裁判ヲ爲シタルトキヲ謂フ

(ロ) 假執行ノ宣告ヲ取消ス旨ノ裁判 即チ上訴又ハ故障ノ結果其本案ニ付テハ前判決ヲ維持シ單ニ假執行ノ宣言ノミヲ取消ス場合及ヒ上訴審ニ於テ假執行ノミニ付キ其當否ヲ判斷スル場合ニ生ス

強制執行  
ノ停止又  
ハ制限ヲ  
爲スヘキ  
場合

其一

(ハ) 強制執行ヲ許サストスル裁判若クハ強制執行ノ停止ヲ命シタル裁判 強制執行ノ異議ニ付テノ裁判ハ其執行ヲ許サヌ又ハ其執行ヲ停止スル旨ヲ宣言スルモノナレハ此種ノ裁判ハ各種ノ強制執行ニ關スル異議ノ申立又ハ異議ノ訴ノ場合ニ生ス

以上ノ裁判アルトキハ執行機關ニ執行力アル裁判ノ正本ヲ提出シテ其執行ヲ停止スヘキコトヲ請求スルコトヲ得ルモノトス茲ニ所謂執行力アル正本トハ敢テ執行文ヲ付シタル正本タルコトヲ要セス唯執行シ得ヘキ裁判ノ正本タルヲ以テ足レリトス蓋シ是レ執行シタル行爲ヲ遮斷スルノ證據ニ過キサレハナリ

**第二** 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキハ其強制執行ヲ一時停止スヘキモノトス而シテ此執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命スル裁判ヲ爲スヘキ場合ハ第五百條、第五百十二條、第五百二十二條、第五百四十四條、第五百四十七條、第五百四十九條等ナリトス

**第三** 強制執行ヲ免カルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書ヲ提出シタルトキハ其強制執行ヲ終局的ニ停止スヘキモノトス 是即チ保證ヲ立テテ強制執行ヲ免カルルコトヲ得ヘキ條件付ノ假執行ノ宣言ヲ付シタル場合ニ於テ其執行中債務者カ保證ヲ立テタルトキ若クハ供託ヲ爲シタルトキヲ謂フ茲ニ所謂公正ノ證明書ナルモノハ裁判所書記ノ證明書又ハ供託法ニ依ル供託證書ヲ謂フ

其二

其三

其四

**第四** 執行スヘキ判決ノ後ニ於テ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ債務ノ履行ヲ猶豫スヘキ承諾ヲ爲シタル旨ヲ記載セシ證書ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ一時停止スヘキモノトス 即チ判決ノ言渡シアリテ未タ強制執行ヲ受ケサル前ニ於テ債務者カ債務ヲ辨濟シタルトキ債權者カ其辨濟ヲ受ケタルコトヲ證スヘキ受取證書ノ如キモノヲ提出シ若シ履行猶豫ヲ承諾シタルトキハ其承諾證書ヲ提出シタルトキノ如キヲ謂フ此如キ場合ニ於テハ執行ヲ終局的ニ停止スヘキカ如キモ執行機關力單ニ一片ノ證明書ノミニ基キ全然其執行ヲ解クハ時ニ過チナキヲ保シ難ケレハナリ

**第五百五十一條** 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ従前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限り既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

前條ニ依  
ル停止若  
クハ制限  
ノ效果

意解

本條ハ前條ノ規定ニ從ヒ強制執行ノ停止又ハ制限ノ效果ニ付キ其限度ヲ定ムルモノトス

(一) 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ハ終局的ノ停止ナルカ故ニ爾後ノ執行々爲ヲ全然停止スヘキハ勿論其既ニ爲シタル執行處分ヲモ總テ之ヲ取消ササルヘカラス例ヘハ目的物ヲ差押又ハ管保若クハ供託等ヲ爲シタルモノナルトキハ其差押、保管、供託等ヲ解除シテ舊ニ復スルカ如シ  
(二) 前條第四號ノ場合ニ於テハ一時ノ停止ニ過キサカ故ニ爾後ノ執行々爲ヲ停止スヘキノミニシテ債權者ヨリ申出テアル迄ハ既ニ爲シタル執行處分ハ之ヲ其儘ニ保持スヘキモノトス

(三) 前條第二號ノ場合モ亦一時的ノ停止ナルカ故ニ爾後ノ執行々爲ヲ止メ其訴ノ結果タル裁判ノアル迄ハ其既ニ爲シタル執行處分ヲ其儘ニ保持スヘキモノトス但シ此ノ場合ト雖モ裁判所ノ執行停止命令ニ特別ノ裁判アルトキハ其裁判ニ從ヒ其既ニ爲シタル執行處分ヲモ亦取消スコトアルモノナリ

**第五百五十二條** 強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シテ之ヲ續行ス可シ

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

**意解** 本條及ヒ次條ハ強制執行ノ開始後債務者ニ一般ノ承繼アリタルトキニ關スル規定ナリ

強制執行ハ執行力アル正本ニ表示セラレタル者ニ對シテノミ爲スヘキモノニシテ第三者ニ之ヲ強要スヘキモノニアラサルコトハ既ニ度々説明シタル所ノ如シ故ニ若シ此承繼人ニ對シテ執行ヲ爲サントスルトキハ**第五百十九條**ニ依リ其承繼人ニ對シテ執行文ノ附與ヲ求メ之ニ依リ強制執行ヲ爲ササルヘカラサルヲ本則トス隨テ強制執行ノ中途ニ於テ債務者カ死亡シタルニ因リ承繼ヲ生シタル場合ニ於テモ亦右ノ法則ニ從ハサルヘカラサルカ如シ然レトモ既ニ強制執行ヲ開始シタル後ハ其財産ハ債務者ノ財産ナリト雖モ隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ス即チ真正ニ債務者ノ財産タルコトヲ得ス

強制執行ノ開始後債務者ノ死亡アリタルトキ

シテ全ク強制執行ニ拘束セラルルモノナリ殊ニ斯ル場合ニ右ノ原則ヲ適用シテ既ニ爲シタル強制執行ヲ解キ新ニ承繼人ニ對シテ執行文ノ附與ヲ求ムヘキモノト爲ストキハ其手續ノ煩雜ナルト同時ニ往々其財産ヲ脱漏スルノ恐レアリ故ニ此場合ニ於テハ法律ハ便宜ヲ旨トシテ承繼人ニ對スル執行文ノ附與ヲ求ムルコトヲ要セス其遺産ニ對シ強制執行ヲ續行スルコトヲ得ルモノト爲セリ

此遺産ニ對シ強制執行ヲ續行スルニ際シ其相續人アラザルカ又ハ其所在明カナラサルトキハ**第五百六十六條****第五百九十八條**ノ通知ノ如キ或ハ立會ヲ爲スカ如キ債務者ノ知ルコトヲ要スル執行々爲ヲ實施スル場合ニハ大ニ不便ヲ生スヘシ故ニ法律ハ斯ル場合ニ處スル爲メ本條第二項ニ於テ一ノ便宜法ヲ設ケ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ニ於テ遺産又ハ相續人ノ爲メニ特別代理人ヲ選任シ之ニ通知又ハ立會セシメテ以テ其執行々爲ヲ續行スヘキモノト爲セリ而シテ此特別代理人ハ如何ナル者ヲ任スヘキヤハ裁判所ノ意見ニ依ルヘキモノナルモ債務者ノ利益ノ爲メニ設クルモノナレハ其親族等ニ任スルモ可ナルヘク又辯護士等ニ任スルモ可ナルヘシ

**第五百五十三條** 強制執行ノ開始後ニ戸主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

**意解** 本條ハ強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡以外ノ原因ニ依リ戸主タル地位ヲ退キ家督相續開始シタル場合ニ關スル規定ナリ此場合ニ於テハ其戸主タル地位ノ變更當時ニ於ケル債務者ノ財産ニシテ家督相續人ニ移轉シタル財産ハ遺産ト同一視シ前條ノ規定ヲ準用シテ強制執行ヲ續行スヘキモノニ

執行開始後債務者ノ死亡以外ノ原因ニ依リ戸主タル地位ヲ退キ家督相續開始シタル場合ニ關スル規定ナリ

シテ更ニ執行文ノ附與ヲ要セス又特定ノ場合ニハ特別代理人ヲ選任スヘキモノナリ

**第五百五十四條**

強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限り債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

意解 本條ハ強制執行ノ費用ニ關スル規定ナリ強制執行ノ費用ナルモノハ訴訟費用トハ全ク別個ノモノ

ニシテ第八十四條ノ訴訟費用額確定ノ決定中ニハ之ヲ包含セサルモノトス而シテ此強制執行ノ費用ナルモノハ敗訴者タルト勝訴者タルト問ハス債務ヲ任意ニ履行セサルカ爲メ生スル費用ナルヲ以テ其之ヲ生スルニ至ラシメタル者即チ債務者ノ負擔ニ歸スヘキモノニシテ其強制執行ヲ受クル本來ノ請求ト同時ニ之ヲ取立ツヘキモノトス

若シ強制執行ヲ終リタル後再審ニ因リ強制執行ノ基本タル確定判決ヲ取消又ハ第五百十條ニ依リ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ本條ニ依リ其既ニ取立テラレタル強制執行ノ費用ヲ債務者ニ辨濟スヘキモノトス

**第五百五十五條**

執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

意解 本條ハ強制執行ノ爲メニ他ノ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキ之ヲ請求スル方法ヲ定メタルモノニシテ此請求ハ總テ執行裁判所ヨリシテ當該官廳ニ其援助ヲ求ムヘキモノトス但シ警察上ノ援助ヲ求

ムルハ本條ニ依ルヘキニアラスシテ執達吏自ラ之ヲ爲シ得ル所ナリ

**第五百五十六條**

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

意解 本條ハ現役ノ軍人軍屬ニ對シ軍營又ハ軍艦内ニ於テ強制執行ヲ爲スニ付テノ規定ナリ即チ豫備

後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬換言スレハ現役ノ軍人軍屬ニ對シテ其兵營及ヒ軍事廳舎又ハ軍艦等ニ於テ強制執行ヲ爲スノ必要アルトキハ執達吏自ラ之ヲ爲スコトヲ得ス故ニ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ管轄ノ軍事裁判所又ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲スヘキモノトス蓋シ軍事上ノ規律ハ一般普通ノ標準ヲ以テ之ヲ推スヘカラサルト同時ニ軍營軍艦等ノ如キハ一箇ノ別天地ヲ爲スモノナレハ執達吏ヲシテ強制執行ヲ爲サシムルニ於テハ軍紀ヲ紊ルニ至ル虞アルヘケレハナリ而シテ此囑託シテ爲ス執行々爲ハ單ニ其差押ヲ爲スノミニシテ其競賣並ニ配當ノ如キハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ囑託ニ因リ差押ヘタル物件ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付スヘキモノトス

**第五百五十七條**

外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可

強制執行ノ費用何人ナリヤ

現行ノ軍人軍屬ニ對シテ軍營内ニ於テ強制執行ヲ爲スヘキ場合ノ手續



外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

外國ニ於テ強制執行ヲ爲スヘキ場合ニ於テ執行スルコトヲ得サルモ若シ國際條約ヲ以テ相互ニ其外國ノ裁判ヲ内國ニ於テ執行シ得ヘキコトヲ定メタルトキニ於テ其條約上裁判所構成法第百十三條及ヒ第百十四條ノ如キ法律上ノ共助ヲ爲スヘキトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ヨリ直接ニ外國官廳ニ囑託シテ之ヲ爲スヘキモノトス

若シ我國カ治外法權ヲ有スル外國ニ於テ強制執行ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ヨリ其外國ニ駐在スル我國ノ領事ニ囑託シテ之ヲ爲スヘキモノトス

**第五百五十八條** 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

**意解** 本條ハ強制執行ニ關シテ執行裁判所カ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテ不服アルモノハ即時抗告ヲ爲スコトヲ許スト云フニ過キスシテ別ニ説明ヲ要スヘキモノナシ

**第五百五十九條** 強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得  
第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二 執行命令

第三 訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解

第四 第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作りタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作りタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

判決以外ノ債務名義ノ種類

**意解** 本條ハ判決ニ依ルニアラスシテ強制執行ノ基本タル債務名義トナルヘキ五箇ノ事由ヲ定メタルモノニシテ第四百九十七條ヲ補充擴張スルモノナリ

**第一** 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判 即チ決定命令ニシテ而カモ法律ニ於テ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ明文アルモノニ限ル(第四五五條參照)但シ決定命令ハ總テ執行シ得ヘキ債務名義ト爲ルモノニアラスシテ唯其決定命令ニ依リ實體上ノ權利實行ヲ要スル場合ニ限リ強制執行ノ債務名義ト爲ルモノナリ例ヘハ(一)訴訟費用額確定ノ決定(二)裁判所書記、法定代理人、辯護士其他ノ代理人執達吏ニ對シ其過失又ハ懈怠ニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スル決定(三)證人、鑑定人等ニ費用ノ賠償ヲ命スル決定等ノ如シ

**第二** 執行命令 執行命令トハ督促手續ノ支拂命令ニ假執行ノ宣言ヲ付シタルモノヲ謂フ而シテ此

債務名義ハ其命令自體ニ於テ執行文ヲ包含スルモノニシテ他ノ債務名義ノ如ク別ニ執行文ノ附與ヲ要セサルノ特質ヲ有スルモノトス

**第三** 訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解 即チ第二百一十一條ニ依リテ和解ノ調ヒタルモノニシテ裁判所書記カ第三百二十條第一號ニ依リテ之ヲ調書ニ記載シテ明確ニシタルモノヲ謂フ此等ノ和解ハ裁判上ノ判斷ニ依リテ確定シタルモノニアラスト雖モ裁判官ノ面前ニ於テ當事者雙方カ讓合テ調和シタルモノナレハ最モ正確ナルヘキニヨリ之ヲ以テ強制執行ヲ爲スコトヲ得セシムルナリ

**第四** 第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニテ爲シタル和解 當事者カ第三百八十一條第一項ノ規定ニ依リテ提起前ニ於テ區裁判所ニ和解ヲ申請シ以テ和解ノ調ヒタルトキ同條第二項ニ依リテ調書ニ記載シテ明確ナラシメタルモノヲ謂フ此種ノ和解モ亦前號ト同一ノ理由ニ基キ強制執行ノ基本タラシム

**第五** 公證人ノ作りタル公正證書 公證人カ正規ノ手續ヲ經テ其權限内ニ於テ作成シタル公正證書ニシテ左ノ要件ヲ具備スルトキハ執行シ得ヘキ債務名義ト爲ルモノトス  
イ 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ナルコト

ロ 直チニ強制執行ヲ受クヘキ旨ヲ證書ニ記載シタルトキ

**第五百六十條** 前條ニ掲ケタル債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

**意解** 本條ハ前條ニ於ケル債務名義ニ適用スヘキ規定ヲ定メタルモノニシテ此等ノ債務名義ニハ先ツ第一ニ以下二條ノ規定ヲ適用シ之ニ牴觸セサル範圍ニ於テ判決ニ因ル債務名義ニ付テノ第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用スヘキモノトス

**第五百六十一條** 執行命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス  
請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限リ之ヲ許ス  
執行文附與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文附與ノ際到來シタリト認めタル承繼ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

**意解** 本條ハ第五百五十九條第二號ノ債務名義タル執行命令ニ付テノ特別規定ニシテ前條ノ規定ニ依リ一般ノ場合ニ例外ヲ爲スモノナリ  
執行命令ハ其命令自體ニ於テ執行文ヲ包含スルヲ以テ特ニ執行文ノ附與ヲ必要トセサルモ其債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アリタルトキハ執行文ノ附與ヲ要スルモノトス而シテ其附與ヲ求ムル手續ハ

執行命令ニ對シテ附與スル場合

第五百十六條以下ニ依ルヘキコト勿論ナリ

第五百四十五條ノ請求ニ關スル異議ハ一般ノ場合ニ於テハ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ  
終結後ニ原因ノ發生シタルコトヲ要スルモ執行命令ニ付テハ其執行命令ノ送達後ニ發生シタル原因  
ニ基クトキニ限り之ヲ許スモノトス

第三項ハ強制執行ニ關スル異議ノ訴ニ付テノ管轄裁判所ヲ定メタルモノニシテ一般ノ場合ニ於テハ  
第一審ノ受訴裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲スモ執行命令ノ場合ニ於テハ其請求カ區裁判所ノ事物管  
轄ニ屬スルモノナルトキハ其執行命令ヲ發シタル區裁判所然ラサルトキハ其區裁判所ヲ管轄スル地  
方裁判所ノ管轄トス

第五百六十二條 公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ附與  
ス

執行文附與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行文附與ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住  
所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

執行文附與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文附與ノ際證明シタリト認  
メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ  
於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒ債務者ニ  
對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

意解 本條ハ公正證書カ債務名義タルトキ一般ノ場合ト異ナル特別規定ヲ設ケタルモノトス

第一項ハ執行文ヲ附與スヘキ者ニ付テ第五百十六條ニ例外ヲ爲ス

第二項ハ第五百二十二條第五百二十三條ニ例外ヲ爲スモノニシテ執行文附與ニ關スル異議ニ付テノ  
裁判及ヒ更ニ執行文附與ニ付テノ裁判ハ公證人カ職務上ノ住所ヲ有スル地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲  
スモノトセリ

第三項ハ公正證書ニハ口頭辯論ナルモノナキヲ以テ第五百四十五條第二項ノ制限ヲ除外スルモノト  
ス

第四項ハ第五百二十一條ニ依リ執行文ノ附與ヲ求ムルカ爲メニ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルヲ以テ  
新ニ執行文附與ノ訴ヲ起シ又ハ第五百四十五條ニ依リ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ起シ又ハ第五百四十  
六條ニ依リ執行文附與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ公正證書ニ付テハ第一審ノ受訴裁  
判所ナルモノナキヲ以テ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所若シ此裁判籍ナキトキハ本法第十  
七條ノ規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ヲ以テ其管轄裁判所ト爲シタリ

第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

意解 本條ハ強制執行ニ關スル裁判籍ハ總テ專屬的ノモノニシテ當事者ノ合意ヲ以テスルモ之ヲ變更  
スルヲ得サルモノナルコトヲ表示シタルニ過キスシテ別段説明ヲ要スルモノナシ

公正證書  
カ債務名  
義タル場  
合ノ特別  
手續

執行ニ關  
スル裁判  
籍ハ總テ  
專屬ナリ

## 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ意義

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行トハ債務名義ノ旨趣カ金錢ノ支拂ヲ得ルヲ目的トスル請求ニ付キ確定シタル權利ノ強制執行ヲ爲スモノヲ謂フ而シテ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權トハ貨幣ニ依リテ表示セララル價額ノ給付ヲ目的トスル債權ナルカ故ニ若シ特種ノ通貨ノ給付ヲ目的トスル債權ナルトキハ茲ニ所謂金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ト看做スコトヲ得スシテ代替物ノ一定ノ數量ノ引渡ヲ目的トスル債權ト看做シ其執行方法ニ依ルヘキモノトス

### 第一節 動産ニ對スル執行

金錢ノ支拂ヲ目的トスル強制執行ニ付テモ其金錢ヲ支拂ハシムルカ爲メニ債務者ノ有スル動産ヲ差押ヘテ其目的ヲ達スルコトアリ又ハ其不動産若クハ船舶ヲ差押ヘテ其目的ヲ達スルコトアリ而シテ其執行方法ハ其目的物ヲ異ニスルニ從ヘテ同一手續ニ依ル能ハサルモノナルヲ以テ法律ハ之ヲ區別シテ本節ニ於テ先ツ其動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ヲ舉ケタルモノトス而シテ本節ニ於ケル動産中ニハ有體ノ動産ハ勿論無形ノ債權其他ノ財産權ヲ包含セシメ之ヲ四款ニ分テ第一款ニ於テハ動産ノ強制執行ニ關スル通則ヲ規定シ第二款ニハ有體動産第三款ニハ債權其他ノ財産權ニ對スル強制執行ノ手續ヲ掲ケ最後ニ四款ニ於テ配當手續ニ關スル規定ヲ設ケタリ

本節ニ所稱動産ノ範圍

#### 第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

差押ノ意義及ヒ效力

動産ニ對スル強制執行ノ方法

差押ノ制限

字解 差押トハ債務者ノ財産ヲ拘束シ強制ノ執行ニ從ハシムルニアリ故ニ差押ノ爲メ債務者ハ其財産ノ處分權ノ幾部ヲ制限セラルヘキモノトモ然レトモ絕對ニ其處分權ヲ剝奪セラルルモノニアラス  
意解 本條ハ動産ニ對スル強制執行ノ方法竝ニ其制限ヲ規定シタルモノナリ即チ動産ニ對スル強制執行ハ債務者ノ財産ニ屬スル動産ヲ差押ヘテ之ヲ爲スモノナリ而シテ其差押ノ方法ハ執達吏カ占有シテ爲スモノト執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ爲スモノトノ二種アルモ其何レノ場合ニ於テモ執行力アル正本ニ掲ケラレタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲メニ必要ナル範圍ニ於テノミ差押ヲ爲スヘキモノニシテ決シテ其以外ニ超越スヘカラス蓋シ差押ハ債務者ノ處分權ヲ制限スルモノナレハナリ又執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ナキモノノ如キハ何等ノ利益ナキヲ以テ執行ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ク可キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ

民事訴訟法通義 第六編 強制執行 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

爲ニ妨ケラルルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ定規ヲ準用ス

差押ト物上優先權トノ關係

意解

本條ハ差押ト物上優先權トノ關係ヲ規定シタルモノナリ即チ債權者ハ苟クモ債務者ノ財産ニシテ其占有ニ屬スル動産ハ假令第三者ノ物上優先權ノ目的物タルトキト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ(但シ第三者ノ占有中ニ在ル物ニ付テハ第五百六十七條ニ特別ノ規定アリ)然レトモ此差押ノ爲メニ第三者ノ優先權ヲ害スルコトヲ得サルヲ以テ其第三者ハ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ異議ノ訴ヲ以テ其目的物ノ賣却代金ニ付キ優先辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシ

右ノ場合ニ於テ第三者カ異議ノ訴ヲ起シ其請求カ法律上理由アリト見ヘ且ツ事實上ノ點ニ於テモ疏明アリタルトキハ受訴裁判所ハ差押動産ノ賣得金ヲ供託スヘキコトヲ命スヘキモノトス而シテ此場合ニ於テハ第五百四十七條第五百四十八條ノ規定ヲ準用スルモノトス

### 第二款 有體動産ニ對スル強制執行

#### 第五百六十六條

債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ押達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ

生ス執達吏ハ債務者ニ其執行ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

動産差押ノ方法 其二

意解

本條及ヒ次條ハ有體動産ニ對スル差押ノ方法ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ハ有體動産カ債務者ノ占有中ニ在ル場合ニ關ス

差押ノ目的物タル有體動産カ債務者ノ占有中ニ在ルトキハ執達吏カ其物ヲ占有シテ爲スヲ原則トス然レトモ債權者カ承諾ヲ爲スカ又ハ其差押物ノ運搬ニ付キ重大ナル困難アル場合ニハ例外トシテ執達吏ハ其目的物ヲ一度ヒ自己ノ占有ニ移シ封印其他ノ方法ヲ以テ其差押物タルコトヲ何人ニ於テモ知り得ル如クニ爲シタル後之ヲ債務者ノ保管ニ任スコトヲ得ヘシ

執達吏カ債務者ノ有體動産ヲ差押ヘタルトキハ總テ之ヲ債務者ニ通知シテ其差押アリタルコトヲ知ラシメサルヘカラス

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押

ニ付テモ亦之ヲ準用ス

意解

本條ハ第三者ノ占有ニ屬スル債務者ノ有體動産ヲ差押フルノ方法ニシテ此場合ニ於テ第三者カ其占有物ノ提出ヲ拒マサル場合ニ於テノミ執達吏ハ前條規定ノ方法ニ從ヒ差押ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ故ニ第三者カ其提出ヲ拒ミタルトキハ有體物給付ノ債權ニ對スル強制執行トシテ執行裁判所ニ於テ其執行ヲ爲シ得ルハ別論トシテ執達吏ハ絕對ニ其差拒ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

民事訴訟法通義

第六編

強制執行

第二章

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

果實及ヒ  
蠶ノ差押  
時期

有體動産  
ニ對スル  
差押ノ効  
力ノ及フ  
ヘキ範圍  
如何

第五百六十八條

果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一箇月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
蠶ハ其多分カ繭ヲ成造スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

六二四

意解

本條第一項ハ果實ノ差押ニ關スル規定ナリ天然ノ果實ニシテ未タ土地ヨリ離レサルモノハ其原物ノ一部ヲ爲スモノニシテ獨立ノ動産ニアラサルカ故ニ獨立シテ之カ差押ヲ爲スコトヲ得サルヲ本則トス然レトモ其果實カ成熟ノ時期一箇月ニ近キタルモノハ到底其土地ヨリ分離スヘキモノナルカ故ニ執行法ニ於テハ便宜上獨立ノ動産ト看做シテ差押フルコトヲ得セシメタリ  
第二項ハ蠶ノ差押ニ關スル規定ナリ元來蠶ハ其揚リ蠶ト爲ラサル以前ニ於テハ之ヲ財產視スヘキヤ否ヤモ明カナラサルノミナラス假ニ之ヲ財產ナリトスルモ其當時ニ於テハ未タ之ヲ通常ノ賣買物ト爲シ得ヘキモノニアラス且ツ非常ノ手數ヲ要シテ差押ノ目的物ト爲スニ適當セス然レトモ既ニ揚リ蠶ト爲リタルモノハ最早種々ナル手數ヲ要セス殆ント繭ノ差押ニ等シキモノナルヲ以テ法律ハ此場合ニ限り差押ヲ許スコトト爲セリ

第五百六十九條

意解

差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトスキハ其物ノ全部ニ對シテ差押ノ効力ヲ及ホスヘキハ勿論尙ホ其差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニ對シテモ亦其効力ヲ及ホスヘキモノトス例ヘハ牛馬等ノ家畜ヲ差押ヘタルニ其後ニ至リ其家畜カ子ヲ産ミタルカ如シ而シテ本條ノ如キ適用ヲ受クルニハ有體動産ニ限ルモノニシテ不動産ノ如キハ強制管理ノ方法ニヨラサル限りハ此規定ノ適用ナキノミナラス却テ反對ノ規定アリ

産ミタルカ如シ而シテ本條ノ如キ適用ヲ受クルニハ有體動産ニ限ルモノニシテ不動産ノ如キハ強制管理ノ方法ニヨラサル限りハ此規定ノ適用ナキノミナラス却テ反對ノ規定アリ

第五百七十條

左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 第一 衣服、寢具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可シラサルトキニ限ル
- 第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及ヒ薪炭
- 第三 技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物
- 第四 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物
- 第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物竝ニ身分相當ノ衣服
- 第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス
- 第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品
- 第八 勳章及ヒ名譽ノ證標
- 第九 實印、其他職業ニ必要ナル印
- 第十 神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル者

第十一 系譜

第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

不可押物  
トハ何ソ

憲解 本條ハ債務者ノ有スル有體動産ニシテ法律上之カ差押ヲ禁シタル物即チ所謂不可押物ニ關スル規定ナリ

第一號ニ掲クル物ハ日用ノ器具ニシテ普通生活ニ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ之カ差押ヲ禁シタリ而シテ本號ハ戶主カ債務者タル場合ニノミ適用アルモノナリ

第二號ノ數量ハ執達吏ニ於テ適當ト認ムル丈ケヲ殘スヘシ

第三號ノ營業上缺クヘカラサル物ナリヤ否ヤモ亦執達吏ニ於テ適當ニ定メサルヘカラス

第四號ノ次ノ收穫マテ農業ヲ繼續スルニ必要ナル農産物トハ種苗又ハ蠶卵紙ノ如キヲ謂フ

第五號ハ別ニ説明ヲ要スヘキモノナシ

第六號ハ第六百十八條ノ規定ト相對スルモノニシテ第六百十八條ハ未タ債務者ノ手ニ受取ラサル俸給又ハ恩給ノ債權ノ差押ニ關スル規定ニ係リ本號ハ之ニ反シ既ニ債務者カ受取リテ所持スル俸給又

ハ恩給即チ現金ノ差押ニ付テノ規定ナリ而シテ債務者ノ手中ニ在ル金額カ其職務上ノ俸給又ハ恩給トシテ受ケタルコトノ明白ナル場合ニノミ此規定ヲ適用スヘキモノニシテ之ニ該當スルトキハ第六百十八條末段ノ規定ニ於ケル一箇年三百圓ニ超過スルトキ其超過額ノ半額ヲ差押ノ日ヨリ次期ノ收入アル日マテノ計算ヲナシテ差押ヘ其他ハ之ヲ差押フルコトヲ得サルモノトス

第七號乃至第九號ハ別ニ説明ノ要ナシ

第十號ノ禮拜ノ用ニ供スル物トハ其範圍頗ル汎クシテ神體佛像ニ從屬スル物ハ勿論神棚、佛壇、社堂、墓所、石碑等ノ類ヲ包含ス

第十一號ノ系譜ハ其家ニ付テノモノニ限ル

第十二號第十三號モ亦説明ノ要ナシ

以上十三箇ノ内第三號乃至第八號ニ規定スルモノハ公益上ノ必要ヨリ生シタルモノナルヲ以テ絶對ニ之カ差押ヲ禁スルモノナルモ其他ノモノハ主トシテ債務者ノ利益ヲ保護スル爲メニ設ケラレタルモノナレハ債務者カ自己ノ利益ヲ拋棄シテ承諾ヲ爲スニ於テハ之カ差押ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第五百七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

意解 本條ハ差押物保存ノ爲メニスル特別處分及ヒ其處分ノ爲メニ要スル費用ノ豫納ニ關スル規定ナリ而シテ其如何ナル場合ニ特別ノ處分ヲ必要トスルヤハ全ク事實問題ナルモ例ヘハ家畜ヲ差押ヘタルカ爲メニ其繋キ場所並ニ飼料ヲ要スルカ如シ

**第五百七十二條** 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

意解 本條ハ執達吏カ差押ヲ實施シタル後ハ特別ノ委任ヲ要セスシテ差押物ノ公賣ヲ爲スノ權利ヲ有スルコトヲ明示シタルニ過キス

**第五百七十三條** 競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

意解 本條ハ執達吏ノ故意又ハ過失ニ依リ高價品ヲ安價ニ賣却スルカ如キコト無カラシメンカ爲メニ設ケラレタル規定ニシテ條文ヲ一讀セハ其意義ヲ了解スヘシ

**第五百七十四條** 差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

意解 本條ハ執達吏カ金錢ヲ差押ヘタル場合ニ關スル規定ナリ即チ執達吏カ金錢ヲ差押ヘタルトキハ債務者ヨリ其金錢ノ支拂ヲ爲シタルモノト看做サルルカ故ニ執達吏ハ其金錢ヲ自己ニ占有スルコト

金錢差押  
後ノ手續

ナク之ヲ債權者ニ引渡スヘキモノトス但シ第五百條第五百三條第五百五條及ヒ第五百四十七條ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツルカ又ハ金錢ヲ供託シテ執行ヲ免カルルコトヲ債權者ニ許シタルトキハ債務者カ辨濟ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得サルカ故ニ第二項ニ但書ヲ設ケテ之ヲ除外セリ

**第五百七十五條** 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但

差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サシムコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

意解 本條ハ執達吏カ競賣ヲ爲スニ付テノ一條件ヲ規定シタルモノニシテ差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニ七日ノ時間ヲ存セシムルハ次條ニ依リ公告シテ公衆ニ其競賣ヲ知ラシムルノ必要ヨリ生シタルモノトス

但書第一ノ場合ニ於テハ多クノ時間ヲ存スル必要ナク又第二ノ場合ニ於テハ多クノ日數ヲ存スルノ餘裕ナキ場合ナルヲ以テ除外例ヲ設ケタルモノトス

**第五百七十六條** 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

意解 本條第一項ハ競賣ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノニシテ第二項ハ競賣ハ之ヲ公告シテ爲スヘキ

競賣ノ場  
所

差押ト競  
賣期日ト  
間ニ存  
スヘキ  
期  
間



モノナルコトヲ明示シタルモノトス

六三〇

**第五百七十七條** 最高價競賣ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

**意解** 本條ハ執達吏ノ競賣ヲ爲スニ付テノ手續ヲ規定シタルモノニシテ條文明白ナルカ故ニ特ニ説明ヲ爲サス

**第五百七十八條** 競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキ直チニ之ヲ止ム可シ

**意解** 本條ハ競賣ヲ爲スニ付テノ一ノ注意的規定ナリ蓋シ強制執行ハ債權者ノ請求ヲ満足セシムルニアレハ賣得金カ費用及ヒ其辨濟額ニ達スルニ至レハ直チニ其競賣ヲ止ムヘキハ當然ノ事理ニ屬スレハナリ然レトモ或ハ差押物ハ總テ競賣セサルヘカラサルカノ誤解ヲ生スルコトアルヲ慮レ此注意的規定ヲ設ケタルモノトス

**第五百七十九條** 執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但

賣得金額  
收ノ效力

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタトキハ此限ニ在ラス

**意解** 本條ハ執達吏カ賣得金ヲ領收シタル場合ノ效力ヲ定メタルモノニシテ第五百七十四條第二項ノ規定ト其趣旨ヲ等クスルモノナルヲ以テ再說セス

**第五百八十條** 金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

**意解** 本條ハ金銀物ヲ差押ヘテ之ヲ競賣ニ付スルニ付テノ一ノ制限的規定ナルモ條文ヲ一讀セハ能ク其意義ヲ了解シ得ヘキヲ以テ説明ヲ略ス

**第五百八十一條** 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可シ

**第五百八十二條** 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

**第五百八十三條** 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

**意解** 以上三箇條ハ有價證券ヲ差押ヘタル場合ニ關スル規定ナリ今之ヲ略述スレハ執達吏カ有價證券ヲ差押ヘタルトキハ其取引所ニ於テ公定ノ相場アルモノニ付テハ別ニ競賣ヲ爲スコトヲ要セス其賣

民事訴訟法通義 第六編 強制執行 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

六三一

金銀物ヲ  
差押ヘタル  
場合ノ  
手續

有價證券  
ヲ差押ヘ  
タル場合  
ノ手續

却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ賣却シ其公定相場ナキモノニ付テ競賣ヲ爲スヘキモノトス蓋シ公定相場アルモノハ敢テ競賣ノ手續ニ依ラサルモ公平ヲ維持スルコトヲ得レハナリ  
而シテ其有價證券カ記名ノモノナルトキハ其名義ノ書換ヲ要スルカ故ニ執行裁判所ニ於テ債務者ニ代リテ必要ナル手續ヲ爲スノ權利ヲ執達吏ニ附與スヘク若シ無記名ノ證券ニシテ記名式ニ換ヘ又ハ裏書ノ禁止等ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ等シク執行裁判所ヨリ其流通ヲ回復スルカ爲メニ必要ナル權利ヲ執達吏ニ附與シテ之ヲ爲サシムヘキモノトス

**第五百八十四條**

土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ  
差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス

**憲解**

本條ハ第五百六十八條ニ依リ差押ヘタル果實又ハ蠶ノ競賣時期ヲ定メタルモノトス蓋シ果實ハ全ク成熟シ又蠶ハ繭ト爲リタル後ニ賣却スルニアラサレハ價額低廉ナルカ爲メ債務者ノ利益ヲ害スルコトアレハナリ

**第五百八十五條**

差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ者ヲ命スルコトヲ得

**憲解**

本條ハ差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立テアルトキハ

執行裁判所ニ於テ必スシモ前數條ノ手續ニ依ラス他ノ方法他ノ場所又ハ執達吏ニアラサル者ヲ以テ競賣ヲ實行セシムルコトヲ命スルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノトス蓋シ一ニ便宜ノ旨趣ヨリ出テタルモノニ外ナラス

**第五百八十六條**

執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

**憲解** 本條ハ所謂照査手續ニ關スル規定ナリ

本法ニ於テハ特別ノ例外ヲ除クノ外ハ一度差押ヲ爲シタル物件ニ對シ再度ノ差押ヲ爲スコトヲ許ササルヲ本則トス隨テ執達吏ハ執行力アル正本ニ依リ債權者ヨリ委任ヲ受クルモ一度差押ヘラレアル有體動産ニ付キ二重ノ差押ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ第一ノ差押ヲ爲シタル執達吏ニ付キ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ之ニ依リ未タ差押ニ繫ラサル殘餘ノ財産アリヤ否ヲ照査シ若シ未タ差押ニ繫ラサル動産アルトキハ更ラニ之ヲ差押ヘ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付シ併合シテ其差

照査手續トハ何ソ

押物件ノ換價ヲ爲サントヲ求ムヘク若シ他ニ差押フヘキ殘餘ノ財産存セサルトキハ其旨ノ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付スヘキモノトス而シテ第二ノ執達吏カ右ノ手續ヲ盡シタルトキハ第二ノ債權者ノ執行委任ハ法律上當然前ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ移轉スルノ效力ヲ生スルモノトス

本條ノ規定ハ第一ノ差押ヲ爲シタル執達吏ト第二ノ照査手續ヲ爲シタル執達吏ト相異ナル場合ニ付キ規定シタルモノニシテ前後同一人ナル執達吏カ委任ヲ受ケタル場合ニ付キテハ法文上明白ナル規定ヲ設ケスト雖モ此場合ニ於テモ亦本條ニ準シテ照査手續ヲ爲スモノナルヘシ

以上ノ照査手續ハ假差押ニ係ル物件ニ付テハ之ヲ適用セサルカ故ニ假差押アル物件ニ對シテモ更ニ本差押ヲ爲スコトヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ其物件ノ占有ハ債務者ノ手中ニ存セサルカ故ニ第三者ノ占有中ニ在ル物件ヲ差押フル手續即チ第五百六十七條ノ適用ヲ受ケサルヘカラサルモノトス

**第五百八十七條** 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

照査手續ノ效力

意解 本條ハ前條規定ノ照査手續ヲ爲シタルトキノ效力ヲ規定シタルモノニシテ即チ左ノ如シ

(一) 照査調書ヲ第一債權者ヨリ委任ヲ受ケテ差押ヲ爲シタル執達吏ニ交付シタルトキハ第二ノ債權者ハ配當要求ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス

(二) 第一差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ハ照査手續ヲ爲シタル債權者ニ移リ前ノ差押ヲ

爲シタル執達吏ハ此第二ノ債權者ノ爲メニ執行ヲ續行スヘキモノトス

**第五百八十八條** 適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲スコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アランコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

意解 本條ハ執達吏カ競賣ヲ懈怠シタル場合ニ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ノ催告權ヲ規定シタルモノニシテ別段ノ意義ナシ

**第五百八十九條** 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

意解 本條ハ執行力アル正本ニ依ラサル債權者ノ配當要求ヲ規定シタルモノナリ舊民法ニ於テハ其擔保編第一條ニ執行力アル正本ヲ有セサル債權者モ配當要求ヲ爲シ得ヘキコトヲ明カニ規定シタリト雖モ現行民法ニ於テハ何等ノ規定ナシ然レトモ其趣旨ニ於テハ敢テ舊民法ト異ナルコトナキモノト解セサルヘカラス

民法ノ規定ニ由ル債權者ノ配當要求

**第五百九十條** 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲スコシ

意解 本條ハ前條ニ依ル執行力アル正本ニ依ラサル債權者ノ配當要求ノ手續ヲ規定シタルモノナリ即チ債權者ハ其要求ノ原因竝ニ其要求ノ數額ヲ開示シ執達吏ニ向テ之ヲ爲スヘキモノトス若シ其配當

要求者カ裁判所ノ所在地ニ住所居所又ハ事務所等ヲ有セサルトキハ其配當要求ト共ニ假住所ヲ選定シテ之カ申出ヲ爲スヘキモノトス蓋シ配當手續ハ各債權者間ノ協議調ヒシトキノ外ハ一般ニ執行裁判所ノ實施スヘキ執行々爲ニ屬スルモノナレハ其配當要求モ亦此ノ執行裁判所ニ申出ヲ爲サシムヘキカ如シト雖モ其當時尙ホ執達吏カ執行手續ノ實施中ニ在ルヲ以テ便宜上執達吏ニ對シテ爲サシムルコトト爲セルナリ

第五百九十一條

第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シテ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

意解

本條ハ配當要求アリタル場合ニ於ケル執達吏、債務者、配當要求者ノ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノニシテ第五百八十六條第二項ノ照查手續ニ依ル配當要求及ヒ前條ニ依ル配當要求アリタルトキハ執達吏ハ之ヲ配當ニ與カル各債權者並ニ債務者ニ通知セサルヘカラス而シテ執行力アル正本ニ因ラサル配當要求ニ對シテハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ通知セサルヘカラス蓋シ執行力アル正本ニ因ラサル債權ハ未タ確定シタルモノニ

配當要求アリタル場合ニ於ケル執達吏ノ爲スヘキ手續

執行力アル正本ニ依ラシテ配當要求ヲ爲シタル債權者ニ對シテ債務者カ其債權ヲ認諾セサルコトハ如何ニスヘキヤ此問題ニ付テハ法文ノ示ス所ナシト雖モ其申出ヲ爲ササルハ債務者カ其配當要求ニ對シテ異議ヲ主張スルノ權利ヲ拋棄シタルモノト認メテ之ヲ配當ニ與カルヘキ債權中ニ計算シテ可ナルモノト信ス

配當要求ヲ爲スヘキ時期

アラサルカ故ニ債務者カ其債權ノ認諾ヲ爲スト否トハ他ノ債權者ニ對スル配當額ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキモノナレハナリ債務者カ若シ此三日ノ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ如何ニスヘキヤ此問題ニ付テハ法文ノ示ス所ナシト雖モ其申出ヲ爲ササルハ債務者カ其配當要求ニ對シテ異議ヲ主張スルノ權利ヲ拋棄シタルモノト認メテ之ヲ配當ニ與カルヘキ債權中ニ計算シテ可ナルモノト信ス債務者カ若シ三日ノ期間内ニ執行力アル正本ニ因ラサル配當要求ノ債權ヲ認諾セサル旨ヲ申出テタルトキハ執達吏ハ直チニ其旨ヲ右ノ債權者ニ通知シ債權者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シテ訴ヲ提起シ以テ其債權ヲ確定スヘキモノトス而シテ此債權者カ訴ヲ起ササルトキハ配當要求ノ效力ヲ失フヘキモノ之ヲ提起スルニ於テハ其債權ヲ配當ニ與カルヘキ債權額中ニ加ヘ置キ第五百九十三條第二項ノ規定ニ從ヒ執達吏ヨリ其事情ヲ執行裁判所ニ届出テ執行裁判所ハ第六百三十條第三項ノ規定ニ依リ其債權ノ確定ニ至ルマテ其債權ニ對スル配當額ヲ供託シ置クヘキモノトス

第五百九十二條

配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

意解

本條ハ配當要求ヲ爲シ得ヘキ時期ヲ定メタルモノトス而シテ之ヲ競賣期日ノ終マテニ限リタル理由ハ蓋シ執達吏ハ賣得金ヲ以テ債權ヲ辨濟シ且ツ費用ヲ償フヲ得ルニ至レハ直チニ競賣ヲ止ムヘキモノナルカ故ニ其競賣ノ期中ナラハ執達吏ハ更ニ其債權ヲ辨濟シ得ルニ至ル迄競賣ヲ續クルコトヲ得ルヲ以テ他ノ債權者ヲ害スルコトナキモ其期日ノ終了後ニ配當要求ヲ許スニ於テハ執達吏ノ

豫想セサル債權額ヲ生シテ結局他ノ債權者ヲ害スルニ至ルヘケレハナリ

**第五百九十三條** 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

**意解** 本條ハ債權者間ニ配當ノ協議調ハサル場合ニ於テ執達吏ノ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノナリ

執達吏カ同時ニ金錢ヲ差押ヘ若クハ差押物件ヲ競賣シタル結果其賣得金ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ルカ若クハ其足ラサル場合ニ於テモ債權者間ニ配當ノ協議調ヒタルトキハ執達吏自ラ其賣得金ヲ各債權者ニ分配スルコトヲ得ヘシ然レトモ其賣得金ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルコトヲ得ス而カモ競賣期日又ハ金錢取立ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ各債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ執達吏自ラ其債權ノ性質ヲ判定シテ配當ヲ爲スノ權利ヲ有セサルヲ以テ必ス第六百二十六條以下ノ規定ニ基キ配當手續ヲ爲ササルヘカラス故ニ此場合ニ於テハ執達吏ハ其賣得金若クハ差押金錢ヲ供託シテ執行書類ヲ添ヘ其事情ヲ執行裁判所ニ届出テサルヘカラス

本條ノ規定ハ唯ニ本差押債權者數人アル場合ニ適用アルノミナラス本差押債權者ト假差押債權者ト併存スル場合ニ於テモ亦其適用アルモノトス

賣得金ノ供託ヲ爲スヘキ場合

**第二款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行**

**第五百九十四條** 第三者(第二債務者)ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

**字解** 第三債務者トハ債務者ニ對シテ債務ヲ負擔スル者ヲ謂フ

**意解** 本條ハ債務者ノ有スル債權ノ差押ハ執達吏ノ權限ニ屬セス執行裁判所自ラ執行機關トシテ其命令ヲ以テ差押ヲ爲スヘキモノナルコトヲ明示シタルモノトス

**第五百九十五條** 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

**意解** 本條ハ執行裁判所ノ管轄ヲ定メタルモノニシテ債權ノ差押ハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所之ヲ管轄スルヲ本則トシ若シ債務者カ内國ニ住所ヲ有セス隨テ普通裁判籍ヲ有セサル場合ニ於テハ第十七條ニ規定セラルル區裁判所之カ管轄權ヲ有スルモノトス

**第五百九十六條** 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ  
右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

**意解** 本條ハ債權者カ執行裁判所ニ對シテ債權差押命令ノ申請方式及ヒ其申請ニ具備スヘキ要件ヲ規

債權差押ノ執行機關

定シタルモノニシテ此申請ハ書面ヲ以テスルモ又口頭ヲ以テスルモ債權者ノ任意ナルモ此申請ニハ必ス左ノ要件ヲ具備セサルヘカラス

(一) 差押フヘキ債權ノ種類即チ執行ヲ受クヘキ債務者カ其債務者即チ所謂第三債務者ニ對シテ有スル債權ノ種類ヲ表示スルコト

(二) 右ノ債權ノ數額ヲ表示スルコト

**第五百九十七條**

差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

意解 本條ハ執行裁判所カ債權ノ差押命令ヲ發スルニ付テノ手續ヲ規定シタルモノナリ而シテ第三債務者及ヒ債務者ヲ審訊セスシテ其命令ヲ發スルハ蓋シ之ヲ爲スニ於テハ時日ヲ遷延セシムルノミナラス之カ爲メニ却テ其債權額ヲ左右スルコトナキヲ保シ難キモノアレハナリ

**第五百九十八條**

金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ

差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

**意解**

本條以下第六百二條ニ至ルマテハ金錢ノ債權ニ對シ差押ヲ爲スコトニ關スル規定ナリ而シテ本條第一項ハ執行裁判所ノ發スヘキ差押命令ニ掲クヘキ事項ヲ規定シタリ即チ其命令書ニハ(一)第三

債權差押ノ方法

債務者ニ對シテハ其債權者即チ差押ヲ受クヘキ債務者ニ其債務ヲ支拂フヘカラサルコトヲ命シ(二)債務者ニ對シテハ自己ノ債權ヲ處分セサルコト殊ニ其取立ヲ爲スヘカラサルコトヲ命スル旨ヲ記載セサルヘカラス

第二項ハ右ノ差押命令書ヲ職權ヲ以テ送達スルコト及ヒ其送達ヲ爲シタルコトヲ差押債權者ニ通知スヘキコトヲ規定シタルモノナリ法文ニ通知トアルハ單ニ債權者ニ知ラシムルヲ以テ足ルモノナルカ故ニ敢テ送達ノ規定ニ從ヒ其通知書ヲ送達スルコトヲ要セス

第三項ハ債權差押ノ效力ヲ發生スヘキ時期ヲ定メタルモノトス

**第五百九十九條**

抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ニ之ヲ併合スルコトヲ得裁判所ハ義務ヲ負フタル不動産ノ所有者(第二債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

**意解**

本條ハ抵當權ノ附隨スル債權ヲ差押ヘタル場合ノ規定ナリ此場合ニ於テハ差押債權者ハ本條第一項第二項ノ規定ニ基キ其債務者ノ承諾ヲ要セス裁判所ニ申請シテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スルコトヲ得裁判所ハ債權者ノ右ノ記入申請ニ基キ第三項ノ規定ニ依リ其記入ヲ爲スヘキモノトス

**第六百條**

差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之

民事訴訟法通義

第六編

強制執行

第二章

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラシムコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

**字解** 券面額トハ其證書ニ表面上明記セラレタル債權額ヲ謂フ

取立ノ爲メニスル移付ノ命令トハ敢テ其債權ヲ差押債權者ニ移轉スルモノニアラスシテ單ニ差押債權者ニ裁判上ノ認許ニ依リ債權者ニ代ハリテ第三債務者ニ對シ辨濟ヲ求ムルノ權利ヲ附與スル命令ヲ謂フ而シテ此命令アリタルトキハ債權者ハ民法上ノ代位ノ手續ヲ要セスシテ當然之カ取立ヲ爲スノ權利ヲ得ルモノトス

轉付命令トハ債務者ヨリ差押債權者ニ對シ支拂ニ代ヘテ債務者カ第三債務者ニ對シテ有スル差押ヲ受ケタル債權ヲ其券面額ニテ差押債權者ノ有ニ移轉セシムル爲メニ爲ス移付ノ命令ヲ謂フ

**意解** 本條ハ金銀ノ債權差押後ノ處分ニ關スル規定ニシテ此場合ニ於テハ差押債權者ハ其債權ノ取立命令ヲ得ルカ又ハ券面額ニテ轉付スルノ命令ヲ得ルカ二者其一ヲ自由ニ選擇シテ執行裁判所ニ申請シ得ルコトヲ定メタルモノナリ

而シテ執行裁判所ニ於テ右何レカノ命令ヲ發シタルトキハ其送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ニ依リ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ送達シ且ツ之ヲ債權者ニ通知スヘキモノトス

**第六百一條** 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限り

ハ第五百九十八條第二項ノ手續ニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

**意解** 本條ハ轉付命令アリタル場合ノ效力ヲ規定シタルモノニシテ此命令アリタルトキハ第五百九十八條第一項ノ手續即チ第三債務者ニ其命令ヲ送達スルト同時ニ轉付命令ノ效果ヲ生シ差押債權者ハ直チニ債權ノ承繼人ト爲ルモノナリ故ニ差押債權者ハ第三債務者ニ於テ支拂ヲ爲スノ資力アルト否トヲ問ハス其債權ノ存在スル限りハ債務者ヨリ有效ニ辨濟ヲ受ケタルモノト看做サルモノトス而シテ其債權カ果シテ存在スルヤ否ヤハ其當時ニ於ケル債務者ト第三債務者トノ實體上ノ關係ニ依リ決定スヘキ事實上ノ問題ニシテ果シテ其債權カ存在セハ其未タ辨濟ノ時期カ到來セサルトキト雖モ其債權ハ其儘ニ債權者ニ移轉シ之ニヨリテ債務者ハ辨濟了リタルモノト看做サルニアリ

**第六百二條** 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ金額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限り他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

**意解** 本條ハ取立命令ノ效力ノ一タル取立權ノ範圍ヲ規定シタルモノニシテ取立命令ノ效力ハ特別ノ制限ナキ限りハ其差押債權ノ全額ニ及フヲ本則トス此點ハ大ニ支拂ニ代ヘテ券面額ニテ轉付ノ命令ヲ受ケタル場合ト異ナル所ナリ蓋シ支拂ニ代ヘテ轉付スル命令ノ效力ハ差押債權ヲ差押債權者ニ移

取立命令ノ意義

轉付命令ノ意義

債權ノ轉付命令ノ効力

取立命令ニ基クテ取立權ノ範圍

轉スルニ在ルカ故ニ常ニ其移轉スル所ノ債權額ハ差押債權者ノ要求額ノ限度ニ止マリ之ヲ超越スルコトヲ得サルモノナリト雖モ取立命令ノ效力ハ單ニ債務者ニ代ハリテ差押債權ヲ取立ツルノ權ヲ差押債權者ニ附與スルニ過キサカ故ニ其差押債權ノ全額ヲ取立ツルコトヲ許スモ爲メニ不都合ナル結果ヲ生スルコトナケレハナリ

然レトモ差押債權ノ額カ著シク債權者ノ要求額ニ超過スルトキハ其債權ノ全額ニ付テノ處分殊ニ取立權ヲ停止セラルルコトハ債務者ノ大ニ困難ヲ感スル所ナルノミナラス又之ヲ爲スノ必要ナキモノナレハ斯ル場合ニ於テハ執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シタル後其取立權ノ範圍ヲ其要求額ノ限度ニ迄制限シ其超過部分ニ付テハ債務者ニ取立其他ノ處分ヲ爲スヲ許スコトヲ得ルモノトス而シテ此場合ニ於テハ他ノ債權者ハ其制限アリタル部分ニ付テハ執行ヲ爲スノ餘地ヲ存スルニ至ルヘキヲ以テ取立ヲ制限セラレタル債權者ニ對シテ配當要求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス蓋シ債務者ヲ保護スル爲メ差押債權者ノ取立權ヲ制限シ尙ホ且他ノ債權者ヲシテ配當要求ヲ爲サシムルカ如キハ差押債權者ニ對シテ甚タ酷ナルモノアレハナリ

右ノ制限ノ許可ヲ爲シタルトキ執行裁判所ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債權者ニ其旨ヲ通知スヘキモノトス

**第六百三條** 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

手形其他  
裏書ヲ以テ  
移轉スル債  
權ノ差押方  
法

**意解** 本條ハ手形其他ノ裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押方法ヲ規定シタルモノニシテ此種ノ債權ハ之ヲ表彰スル證券ヲ占有スルニアラサレハ行使スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ其證券ノ占有ヲ以テ差押ヲ爲スヘキモノト爲セルナリ然レトモ其差押以後ノ手續ハ勿論普通ノ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ヲ差押ヘタルトキト同一ノ手續ニ依ルヘキモノトス

**第六百四條** 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

**意解** 本條ハ俸給其他之ニ類スル繼續ノ收入例ヘハ養料、年金、恩給、扶助料等繼續シテ收入ヲ生スル所ノ債權ヲ差押ヘタル場合ノ特別ノ效力ヲ定メタルモノニシテ斯ル場合ハ差押ノ效力ハ其差押當時ノ收入ニ止マラス差押債權者ノ要求額ニ滿ル迄ハ其差押後ニ收入スヘキ金額ニ迄其效力ヲ及ホスモノト爲セリ

**第六百五條** 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及スモノトス

**意解** 本條ハ職務上ノ收入ヲ差押ヘタル場合ノ差押ノ效力ノ及フヘキ範圍ヲ定メタルモノトス而シテ本條ノ如キ適用アルニハ元ヨリ第六百十八條ノ末項ニ該當スヘキ場合ニ限ルヘキハ勿論ナリ

**第六百六條** 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

**意解** 本條ハ債權ノ差押アリタル場合ニ於ケル債務者ノ義務ヲ規定シタルモノナリ即チ債務者ハ債權



ノ差押ヲ受ケタルトキハ其所持スル債權證書ヲ差押債權者ニ引渡スノ義務ヲ負フモノナリ故ニ債務者カ若シ任意ニ其引渡ヲ爲ササルトキハ差押債權者ハ特ニ執行力アル正本ヲ要セス差押命令ニ基キ物品給付ノ強制執行ノ方法ニ依リ執達吏ヲシテ債務者ヨリ其債權證書ヲ取上ケシムルコトヲ得ヘシ然レトモ其債權證書ニシテ若シ第三者ノ占有ニ屬スルトキハ其第三者ニ對シテハ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

**第六百七條** 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル效力ノミヲ有ス

**第六百八條** 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ

**第六百九條** 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメントコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第六百條  
ニ對スル  
強制即チ  
債權者カ  
轉付命令  
爲スコト  
ヲ得サル  
場合

債權者ヲ  
シテ債權  
ノ取立ヲ  
届出シム  
ル理由

**第六百九條** 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメントコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

差押債權  
者ノ對ス  
ル陳述及  
ヒ之ヲ許  
シタル理  
由

**第六百九條** 差押債權者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメントコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

差押債権者第三債務者ニ對シテ提起スル訴ヘキ場合

若クハ差押ノ有無等ハ之ヲ知ルニ由ナク爲メニ全ク實效ナキ差押ヲ爲スコトナキヲ保セサルカ故ニ債權者ヲシテ之ヲ確ムルノ機會ヲ得セシムルノ必要アレハナリ隨テ法律ハ第三債務者ニ右ノ催告ニ對シテ陳述ヲ爲スノ義務ヲ負ハシメ若シ其陳述ヲ爲ササルトキハ之カ爲メニ生シタル損害ヲ賠償セシムルコトト爲セリ

**第六百十條** 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シテ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

**意解** 本條ハ差押債權者ヨリ第三債務者ニ對シテ訴ヲ提起スヘキ場合ニ關スル規定ナリ即チ差押債權者ハ差押命令及ヒ取立命令ヲ以テハ第三債務者ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルモノナルカ故ニ第三債務者ニシテ其債權ノ存在ヲ争ヒ且ツ任意ニ其取立ニ應セサルトキハ差押債權者ハ其實體上ノ關係ニ付テ新タニ訴ヲ起シ之カ判決ヲ受ケサルヘカラス而シテ此訴ハ差押ヲ受ケタル債務者カ第三債務者ニ對シテ有スル所ノ權利ノ判定ヲ受クルカ爲メニ爲スモノナルヲ以テ其差押ヲ受ケタル債務者ヨリ第三債務者ニ對シテ提起スルヲ至當ト爲スヘキモノノ如シト雖モ法律ハ差押債權者ノ利益ノ爲メニ差押債權者ヲシテ第三債務者ニ對シテ訴ヲ提起セシムルコトト爲セリ故ニ此ノ場合ニ於ケル訴ハ差押債權者カ債務者ニ代ハリテ之ヲ爲スモノニ外ナラス右ノ差押債權者ノ爲ス訴ハ一般ノ規定ニ從ヒ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ提起シ且ツ其債務者ニ對シ第五十九條ノ規定ニ於ケル訴訟ノ

債權者カ取立權ノ行使ヲ怠リタル場合ニ於ケル效果

告知ヲ爲ササルヘカラス然レトモ債務者カ若シ外國ニ在ルカ又ハ内國ニ在ルモ其住所ノ知レサルトキハ此告知ヲ爲スニ及ハサルモノトス蓋シ斯ル場合ニ於テハ公示送達等ヲ爲スモ到底其告知ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルヘケレハナリ

**第六百十一條** 債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

**意解** 本條ハ差押債權者カ取立權ノ行用ヲ怠リタル場合ニ於ケル制裁ヲ規定シタルモノニシテ之ヲ設ケタル理由ハ債務者ハ差押命令ニ依リ自ラ取立ヲ爲ス權利ヲ奪ハレ其取立權ハ差押債權者ノ有スル所ナルニ其債權者カ相當ノ時期ニ於テ取立ヲ爲ササルニ於テハ第三債務者ノ資産ニ變動ヲ生シ完全ナル辨濟ヲ受クルコト能ハスシテ債務者ニ對シテ損害ヲ被ムラシムルコトナキニアラス斯ル場合ニ於テ若シ債務者ニ損害ヲ生シタルトキハ是皆差押債權者ノ懈怠ヨリ生シタルモノナルヲ以テ其債權者ヲシテ責任ヲ負ハシムルヲ適當トスレハナリ

**第六百十二條** 債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ

此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

**意解** 本條ハ取立命令ヲ受ケタル債權者ノ權利ヲ規定シタルモノナリ即チ差押債權者ハ第六百條ノ規

定ニ基キ一旦取立命令ヲ申請シテ其命令ヲ受ケタルトキト雖トモ其後ノ狀況ニ依リ第三債務者ハ容易ニ義務ヲ履行スルノ模様ナク去リトテ訴ヲ以テ取立テントスレハ損失相償ハサルカ如キ場合ニ於テハ其取立權ヲ拋棄スルハ差押債權者ノ利益ニ適スルモノナルヲ以テ法律ハ之ヲ拋棄スルノ權利ヲ認メタリ

右ノ如ク差押債權者ハ其取立權ヲ拋棄スルコトヲ得ルト雖トモ其拋棄ハ債務者ニ對スル請求權ニ影響ヲ及ホササルモノナルヲ以テ其拋棄ノ方法ハ必ス裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘク且ツ其賸本ヲ第三債務者及ヒ債務者ニ送達スヘキモノトス蓋シ斯クナササルニ於テハ債務者ハ不知ノ間ニ損害ヲ被ムルノ虞アレハナリ

**第六百十三條** 差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繫リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得

債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

**意解** 本條ハ差押債權ノ特別ナル換價處分ニ關スル規定ナリ即チ金錢債權ノ強制執行ハ債權移付ノ手續ヲ以テ辨濟ヲ爲サシメ換價ノ手續ヲ爲ササルヲ本則トスト雖トモ其差押ヘタル債權カ條件付ノモノナルトキ又ハ期限ノモノナルトキ或ハ反對給付ヲ必要トスルモノナルトキ等ノ如キ其取立ヲ爲スニ困難ナルトキハ差押債權者ハ假令一度取立命令ヲ受ケタルトキト雖トモ其取立ニ換ヘテ特別ノ換

差押債權ノ特別換價處分

價方法ヲ定メラレシコトヲ申請スルコトヲ得ルモノトス但シ既ニ轉付命令ヲ得タル者ハ其債權ハ既ニ辨濟アリタルモノト看做スヘキカ故ニ更ニ他ノ換價方法ヲ申請スルコトヲ得サルヘシ而シテ其換價ハ如何ナル方法ニ依ルヘキヤハ全ク執行裁判所ノ意見ニ依リテ決定セラルヘキモノナルモ其決定ヲ爲スニ付テハ豫メ債務者ヲ審訊スヘキモノトス但シ債務者カ内國ニ在ラサルカ又ハ内國ニ在ルモ其住所不明ナルトキハ敢テ之ヲ審訊スルノ要ナキモノナリ

**第六百十四條** 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

**意解** 本條ハ金錢以外ノ有體物ノ引渡又ハ給付ヲ目的トスル債權ニ對スル強制執行ニ付テハ其請求權カ民法上ノ債權ニ基クト物權ニ係ルト動産ニ關スルト不動産ニ關スルトヲ問ハス以下數條ニ特別ノ規定ナキ限リハ金錢債權ニ對スル執行規定ヲ適用シテ爲スヘキモノナルコトヲ明示シタルニ過キス

**第六百十五條** 有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ  
右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

**意解** 本條ハ有體動産ノ給付ヲ目的トスル債權ノ差押ニ關スル特別規定ナリ即チ此種ノ債權ニ對スル強制執行ハ其差押命令ニ於テ其債權ノ處分ヲ禁スルノ外第三債務者ニ對シ其動産ヲ執達吏ニ引渡ス

ヘキコトヲ命スルモノトス而シテ此命令ハ金錢債權ニ對スル差押命令中ノ第三債務者ニ對スル支拂禁止ノ命令ニ代ハルモノニシテ之ニ依リテ差押ヲ實行スルコトト爲ルモノナルカ故ニ此命令ハ第五百九十八條ヲ準用シ第三債務者及ヒ債務者ニ送達スヘキモノトス  
第二項ハ別ニ説明スヘキコトナシ

**第六百十六條** 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ  
引渡シタル不動産ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

**意解** 本條ハ不動産請求ノ債權ニ對スル強制執行ニ付テノ特別規定ナリ即チ此種ノ債權ノ差押ニ付テハ一般ノ場合ト異ナリ差押債權者ノ申立ニ因リ其差押命令ニ於テ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ノ命シタル保管人ニ引渡スコトヲ命スヘキモノトス本條ノ規定ニ依レハ保管人ノ任命ト其保管人ニ引渡スヘキ命令トハ其之ヲ爲ス裁判所ヲ異ニスルカ故ニ債權者ハ其何レヲ先ニ申請スヘキヤニ付テハ議論アルモ保管人任命ノ申請ヲ先ニスルヲ便宜ナリト信ス而シテ第三債務者カ其不動産ヲ引渡シタルトキハ不動産ニ對スル強制執行ノ規定ニ從ヒテ其執行ヲ實施スヘキモノトス

**第六百十七條** 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

**意解** 本條ハ前二條ノ有體物ノ債權ノ差押ニ付テハ轉付命令ヲ發セサルコトヲ規定シタルモノナリ蓋シ前二條ノ場合ニハ特別ノ換價方法ニ付テ規定ヲ設ケタルカ故ニ必ス之ニ依ラサルヘカテサルト且ツハ有體物ノ引渡ヲ目的トスル債權ニハ券面額ナルモノナキカ故ニ其性質上轉付命令ヲ發スルニ適セサレハナリ

**第六百十八條** 左ニ掲クル債權バ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 第一 法律上ノ養料
  - 第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル
  - 第三 下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
  - 第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入
  - 第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
  - 第六 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬
- 第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其地ノ收入カ一個年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

不可差押  
債權ノ種  
類

**意解** 本條ノ規定ハ本款ノ全體ニ通シテ適用スヘキモノニシテ總テノ場合ニ於テ差押ヲ爲スコトヲ得サル債權ノ種類ヲ列舉シタルモノトス而シテ此種ノ債權ノ差押ヲ禁シタルハ全ク公益上ノ必要ヨリ

出テタルニ外ナラス其各號ノ規定ニ付テハ特ニ説明ヲ加ヘサルモ條文ヲ一讀セハ其意義ヲ了解シ得ヘキヲ以テ之ヲ略ス

**第六百十九條** 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

**意解** 本條ハ數人ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ債權ノ差押ヲ爲ス場合ニ於テモ前數條ノ下ニ説明シタル手續ヲ準用シテ差押ヲ實施シ又其移付ノ手續換價ノ方法等モ其規定ヲ相當ニ適用スト云フニ過キス蓋シ差押債權者ノ一人ナルト數人ナルトニ因リ其手續ヲ異ニスル必要ナケレハナリ

**第六百二十條** 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ相當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ相當ヲ請求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ相當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ相當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス

右相當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス

相當要求ノ時期及ヒ效力

**意解** 本條第一項ハ相當要求ノ時期ヲ定メタルモノナリ而シテ此時期ハ金錢債權ヲ差押ヘシトキト有體動産ノ引渡債權ヲ差押ヘシトキトニ依リテ異ナル

甲 金錢債權ヲ差押ヘタル場合ニハ差押債權者カ其取立ヲ爲シ第六百八條ノ規定ニ依リ其取立ヲ爲シタルコトヲ執行裁判所ニ届出ツル迄ハ相當要求ヲ爲スコトヲ得ヘシ但シ差押債權者ノ債權額ニ制限シタル取立命令ヲ得タルトキハ其取立金額ニ對シテハ相當要求ヲ爲スコトヲ得ス又轉付命令ヲ得タルトキハ絶對ニ相當要求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

乙 有體物給附ノ債權ヲ差押ヘタルトキハ第六百十五條第六百十六條ノ規定ニ依リ各其手續ヲ盡シタル後執達吏カ差押債權ニ依リ引渡ヲ受ケタル有體物ヲ換價シ其賣得金ヲ領收スル迄相當要求ヲ爲シ得ルモノトス

第三項ハ相當要求ノ效力ヲ規定シタルモノニシテ第五百八十七條ノ規定ト同一趣旨ニ出テタルモノナレハ敢テ茲ニ再説セス

**第六百二十一條** 金錢ノ債權ニ付キ相當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ

第三債務者ハ相當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

**意解** 本條ハ相當要求後ニ於ケル第三債務者ノ權利義務ヲ定ム即チ金錢ノ債權ノ差押ニ付テ相當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ其債務額ヲ供託スルノ權利ヲ有シ且ツ相當ニ與カル債權者ヨリ請求アルトキハ其債務額ヲ供託スルノ義務ヲ負フモノトス

相當要求ノ效力

而シテ第三債務者ニ於テ其債務額ヲ供託シタルトキハ其供託カ自ラ進ント爲シタルモノナリヤ將タ  
債權者ノ請求ニ因リタルヤ等ノ事情竝ニ其供託ノ數額等ヲ裁判所ニ届出テサルヘカラス此届出ハ書  
面ヲ以テシ且ツ之レニ供託證書ヲ添付スヘキモノトス

**第六百二十二條** 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押  
債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ  
添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

**意解** 本條ハ不動産ヲ目的トスル債權者差押ヘタル場合ニ於ケル其不動産ノ所有者タル第三債務者ノ  
其不動産引渡ノ權利義務ヲ規定シタルモノニシテ第六百十六條第一項ノ規定ヨリ生スル一ノ效果ナ  
リトス

**第六百二十三條** 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以  
テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ  
訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口  
頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得  
右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス效力アリ

**意解** 本條ハ第三債務者カ差押債權者ノ取立ニ對シテ其義務ヲ履行セサル場合ニ於ケル救濟方法竝ニ

第三債務者カ其義務ヲ履行セサル場合ニ於ケル救濟方法如何

其手續ヲ規定シタルモノナリ

第一項ハ第三債務者カ義務ヲ履行セサル場合ニ於テハ差押債權者ハ其金錢ノ債權ニ係ルト有體物ノ  
請求ニ係ルトヲ問ハス直チニ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス必ス第六百十條ノ手續ニ從ヒ第三債務者ニ  
對シテ訴ヲ提起シテ之カ判決ヲ受ケサルヘカラスコトヲ示シ

第二項ハ執行力アル正本ニ依リ配當要求ヲ爲ス債權者ノ共同原告タル權利ヲ規定シ

第三項ハ訴ヲ受ケタル第三債務者ノ申立權ヲ規定シ

第四項ハ第三債務者ノ申立ニ依リ原告ニ加ハラサル債權者ニ呼出ヲ爲シタルトキハ其債權者カ期日  
ニ出頭スルト否トニ拘ハラス其判決ノ效果ヲ生スヘキモノナルコトヲ明示シタルモノトス

**第六百二十四條** 差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債  
權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ  
許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

**意解** 本條ハ差押債權者カ第六百條第一項ノ規定ニ依リ取立命令ヲ受ケタルニ拘ハラス其取立ニ著手  
セス又ハ前條ノ規定ニ依リ訴ヲモ提起セスシテ取立手續ヲ懈怠シタル場合ニ執行力アル正本ニ因リ  
配當要求ヲ爲シタル債權者ノ利益ヲ保護スル爲メ其救濟方法トシテ設ケラレタル規定ナリトス而シ  
テ其方法トシテハ差押債權者ニ對スル催告及ヒ自ラ代リテ取立ツルコトノ二箇ナリトス

**第六百二十五條** 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付

民事訴訟法通義

第六編

強制執行

第二章

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

六五七

不動産又ハ債権外ニ對スル執行方法

テハ本款ノ規定ヲ準用ス  
若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス  
右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

意解 本條ハ不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲クル債權以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ナリ而シテ如何ナル權利カ此種ノ財産權ニ屬スルヤハ素ヨリ實體法ニ依リテ決スヘキモノナルモ社団法人ノ社員タル權利、版權、著作權、專賣權、其他ノ營業權ノ如キハ其一例ナルヘシ又法律上ニ於テハ一定ノ名稱ナキモ彼ノ渡船場ノ船賃若クハ橋錢ヲ收入スル權利ノ如キモ亦其中ニ入ルモノト謂フコトヲ得ヘシ斯ル種類ノ財産權中或ハ其性質上強制執行ノ目的ト爲スコト能ハサル權利モ多カルヘシト雖モ苟クモ其本質ニ於テ差支ナキ限リハ金錢債權ノ辨濟ノ爲メニ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ而シテ其強制執行ノ方法ハ本款第五百九十四條以下ノ規定ヲ相當ニ適用シテ之ヲ執行スヘキモノトス若シ其財産權ニシテ第三債務者ナキモノナルトキハ單ニ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁止スル命令ヲ送達シ以テ其差押ヲ爲シタルモノト看做ス

以上ノ如キ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ執行裁判所ハ其執行ヲ爲スニ相當ト認ムル處分ヲ爲シ殊ニ其權利ヲ管理者ニ管理セシメ又ハ之ヲ讓渡スヘキコトヲ命スル等ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

配當手續ヲ爲スヘキ場合

意解 本條ハ配當手續ハ如何ナル場合ニ之ヲ爲スヘキモノナリヤヲ定メタルモノニシテ動産（有體動産及ヒ債權其他ノ財産權ヲ含ム）ニ對スル強制執行ノ場合ニハ執達吏カ第五百九十三條ニ基キ其金額ヲ供託シタルトキ第三債務者カ第六百二十一條ニ依リ債務額ヲ供託シタルトキニ於テ配當手續ヲ爲スヘキモノトス不動産ニ對スル執行ニ付テハ次節ニ於テ特別ノ配當手續規定ヲ設ケタリ

第六百二十七條 裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

意解 本條ハ配當手續ノ第一著手トシテ各債權者ニ對シ計算書ノ差出ヲ命スヘキコトヲ規定シタルニ過キス而シテ本條ニ所謂事情届書トハ第五百九十三條第三項ニ於ケル執達吏ノ爲ス届書及ヒ第六百二十一條第三項ニ依リ第三債務者カ供託シテ爲ス事情届書ヲ指スモノナリ

第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ  
右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

意解 本條ハ配當表ノ作成ニ關スル規定ニシテ配當裁判所ハ各債權者ヨリ計算書ヲ提出シタルト否ト

配當表作成ノ時期

ヲ問ハス前條規定ノ七日ノ期間經過後ハ配當表ヲ作成セサルヘカラス而シテ其配當表ノ作成ニ付テハ債權者ヨリ前條ノ期間内ニ計算書ヲ提出シタルトキハ之ヲ基準トシテ其計算ノ當否及ヒ優先權ノ存否竝ニ其順位等ヲ調査シ之ヲ作成スヘシト雖モ債權者若シ右ノ期間内ニ計算書ヲ提出セサルトキハ配當裁判所ニ於テ配當要求書竝ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ヲ調査シ其配當額ヲ定メテ之ヲ配當表ニ掲クヘキモノトス但シ此場合ニ於テハ後日ニ至リ債權者ハ其債權額ヲ補充スルコトヲ得サルモノトス蓋シ計算書ノ提出ヲ怠リタル者ハ之ヲ保護スル必要ナケレハナリ

配當表ノ作成ハ法律上ノ判斷ヲ要スヘキ事項ハ判事其衝ニ當ルヘキモノナリト雖モ其作成ノ手續ノ如キハ判事之ヲ監督シテ裁判所書記ニ爲サシムルモノナルヘシ蓋シ裁判所ニ於ケル製表、書類ノ編成、調書ノ作成等ノ如キ手續ハ總テ裁判所書記ノ職務ニ屬スル事項ナレハナリ

**第六百二十九條**

裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス  
配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ二日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

配當期日  
ノ指定及  
ヒ當事者  
ノ呼出

意解 本條ハ配當期日ノ指定及ヒ當事者ノ呼出ニ關スル規定ニシテ配當裁判所ハ配當表ヲ作りタル後各債權者及ヒ債務者ヲシテ配當表ニ關スル意見ヲ陳述セシムル爲メ竝ニ配當實施ヲ爲ス爲メ期日

ヲ定メテ各債權者及ヒ債務者ヲ其期日ニ呼出スヘキモノトス但シ此呼出ハ内國ニ於ケル住所ノ明カナル者ニ對シテノミ之ヲ爲スヲ要スルモノニシテ其住所不明ナルカ又ハ外國ニ在ル者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セサルモノトス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ヲシテ之ヲ閱覽セシムル爲メ遅クトモ配當期日ノ二日前ニ之ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置キ異議アル當事者ヲシテ之レカ申立ヲ爲スノ機會ヲ得セシムヘキモノトス

**第六百三十條**

期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ  
停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ  
配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

**意解**

本條ハ配當期日ニ於テ異議ノ申立ナキ場合ニ於ケル手續規定ナリ即チ配當裁判所ニ於テ前條ニ依リ定メタル配當實施ノ期日ニ至ルモ其配當表ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタル者ナキトキハ呼出ヲ受ケタル當事者カ其期日ニ出頭スルト否トヲ問ハス配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施スヘキモノトス然レトモ其期日ニ出頭セサル債權者ニ對スル配當額ハ直チニ配當手續ヲ爲サスシテ尙ホ供託ノ儘之ヲ保存セサルヘカラス

配當期日  
ニ異議ノ  
申立ナキ  
場合ノ手  
續



停止條件  
付ノ債權  
ニシテ未  
タ條件ノ  
成就セザ  
ルモノハ  
如何ニ處  
置スヘキ  
ヤ

異議ノ申  
立アリタ  
ルトキ爲  
スヘキ手  
續

又停止條件付ノ債權ニシテ條件ノ未タ到來セサルモノニ付テハ其債權額ニ相當スル配當額ヲ供託シ  
後日民法ノ規定ニ從ヒテ條件成就シ其債權成立シタルトキ其限度ニ於テ供託金ヲ債權者ニ支拂ヒ若  
シ殘額ヲ生スルカ或ハ條件成就セサルコト確定シタルトキハ前ニ配當ヲ受ケタル各債權者ニ對シ更  
ニ配當ヲ爲スヘキモノトス執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲シタル者ノ債權ニシテ債務者  
カ之ヲ認諾セサルトキモ其配當要求者カ訴ヲ以テ債權ヲ確定スルマテ之ニ相當スル配當額ヲ供託シ  
又假差押債權ニシテ未タ確定セサルモノナルトキ及ヒ異議ノ申立アリテ其訴未タ完結セサル債權ニ  
付テモ等シク其債權ニ相當スル配當額ヲ供託セサルヘカラス

第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ  
正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ  
實施ス可シ  
異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

意解 本條ハ前條ニ異ナリ配當表ニ對シテ異議ノ申立アリタルトキニ於ケル手續ナリ此場合ニ於テハ  
他ノ債權者ハ其異議ニ對シテ直チニ其意見ヲ陳述セサルヘカラス而シテ其各關係人即チ各債權者及  
ヒ債務者カ其異議ヲ理由アリト認メタルトキハ其理由ノ當否如何ニ拘ハラズ之ニ從ヒ又其他ノ方法

ニ依リ合意ヲ爲シタルトキハ其方法ニ從ヒテ配當表ヲ更正シ其配當ヲ實施スヘキモノナルモ若シ其  
異議カ完結セサルトキハ其異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施シ異議アル部分ニ付テハ供託ヲ爲スヘキ  
モノトス

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス  
若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權  
者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

意解 本條ハ配當實施期日ニ出頭セサル債權者ニ對スル效果ヲ定ム配當期日ニ於テハ各債權者出頭シ  
テ其配當表ニ關スル陳述ヲ爲スコトヲ要スルモノナルカ故ニ若シ其配當表ニ對シテ異議アル者ハ必  
ス期日ニ出頭シテ其異議ノ點ヲ主張セサルヘカラス換言スレハ配當實施期日ニ於テ主張セサル異議  
ハ何等ノ效力ヲ生セサルノミナラス其期日ニ出頭セサル債權者ノ如キハ其配當表ノ實施ニ同意シタ  
ルモノト看做サルノ效果ヲ生スルニ至ルモノトス  
以上ノ如ク配當期日ニ出頭セサル債權者ハ其配當表ニ對シテ全然同意シタルモノト看做スモノナル  
カ故ニ他ノ債權者カ異議ヲ申立テタル場合ニ於テハ其異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做サル故  
ニ配當期日ニ一人ノ債權者カ缺席シ他ノ一人カ出頭シテ異議ヲ申立テタルトキハ其異議ヲ受ケタル  
債權者ニ於テ其異議アル權利ヲ拋棄セサル限り合意其他ノ方法ヲ以テ其異議ヲ完結セシムルコト能  
ハサルニ至ルモノトス

配當實施  
期日ニ出  
頭セサル  
債權者カ  
出頭セザ  
ルノ場合  
果場合ノ  
効





其異議ノ完結シタルモノニ付キ配當表ニ基キ本條第二項以下ノ手續ニ準據シテ其配當ヲ實施スヘキモノトス

六六八

(一) 配當裁判所カ配當實施ニ際シ債權ノ全部ヲ配當スヘキ場合ニハ其債權者ニハ配當支拂書ヲ交付スルト同時ニ其所持スル債務名義ニ關スル證書即チ執行力アル正本ヲ有スル債權者ニ付テハ其正本ト債權證書トヲ提出セシメ又民法ノ規定ニ依ル配當要求者ニ付テハ債權證書ヲ提出セシメテ之ヲ債務者ニ交付セサルヘカラス

(二) 債權ノ一部ノミヲ配當スヘキ場合ニ於テハ債權者ニ執行力アル正本又ハ債權證書ヲ提出セシメ之ニ其配當額ヲ記入シテ還附シ是ト同時ニ其債權者ヨリ配當シタル部分ノ金額ヲ登記シタル受取證書ヲ提出セシメテ之ヲ債務者ニ交付スヘキモノトス

(三) 期日ニ出頭セサル債權者ニ配當スヘキ部分ハ之ヲ配當スルコトヲ得サルカ故ニ尙ホ引續供託シテ之ヲ保存スヘキモノトス

配當裁判所ニ於テ右ノ手續ニ依リ配當ヲ實施スルニハ敢テ現金ヲ以テ爲スニ非スシテ先キニ供託シタル金員ハ其儘ニ爲シ置キ唯々配當額支拂書ヲ債權者ニ交付シ之ヲ受ケタル債權者ハ其支拂書ヲ以テ供託金ヲ受クヘキモノトス

以上ノ手續ヲ爲シタルトキハ配當裁判所ハ第百二十九條第百三十條及ヒ第百三十三條ヲ準用シテ裁判所書記ヲシテ其調書ヲ作ラシメ以テ其配當ヲ完結スヘキモノトス

不動産ニ  
對スル強  
制執行

## 第二節 不動産ニ對スル強制執行

本節ハ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中不動産ニ對シテ強制執行ヲ爲スヘキ場合ノ規定ニシテ前節不動産ニ對スル強制執行ト相對スルモノナリ不動産トハ民法ノ規定ニ依レハ土地及ヒ定著作物ヲ謂フ土地ノ定著作物トハ自然ノ形狀ニ基キ一時ノ用ニ供スルニアラスシテ土地ニ附著スル物ヲ謂ヒ必スシモ其自然ノ形狀ヲ毀損スルニアラサレハ移轉スルコトヲ得サルモノニ限ラサルヘシ故ニ建物、樹木等ハ定著作物トシテ不動産ナリトス然レトモ一時ノ用ニ供スル假小屋ノ如キ足場ノ如キ又ハ一時假ニ植置キタル樹木ノ如キハ不動産ニアラス又堤防、溝渠等ノ如キモノハ定著作物トシテノ不動産ニアラスシテ土地ノ構成部分トシテノ不動産ナリトス而シテ建物等ニ附隨スル疊建具ノ如キ物ハ本來不動産ニアラサルモ其建物ノ常用ニ供セラルル物ナルノ故ヲ以テ從物トシテ建物ト共ニ不動産ニ對スル強制執行トシテ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ蓋シ從物ハ主物ノ處分ニ從フヘキモノナレハナリ但シ此處分ヲ受クルニハ主物タル建物ト從物タル疊建具等ト其所有者ヲ同一ニスルコトヲ必要トスルモノナリ

### 第一款 通則

不動産ニ對スル強制執行ハ動産ニ對スル強制執行ノ場合ト異ナリ其差押ヨリ換價手續並ニ配當手續ニ至ル迄總テ執行裁判所ノ職權ニ屬スヘキモノニシテ執行裁判所ヨリ命シタル事項ニアラサレハ之ニ關與スルコトヲ得サルモノトス而シテ其管轄裁判所ハ本編總則ニ定メタル普通ノ執行裁判所ヲ以テセスシテ差押ヲ爲スヘキ不動産所在地ノ區裁判所ヲ以テ其管轄トス然レトモ若シ其不動産ニシテ數箇ノ區

六七〇  
裁判所ノ管轄ニ跨ルカ或ハ散在スルトキハ債權者ハ直近上級裁判所ニ管轄裁判所ノ指定ヲ申請シ其指定セラレタル裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲スモノナリ而シテ此不動産ニ對スル強制執行ノ裁判所管轄ハ動産ノ場合ト等シク專屬ノ管轄ナリ

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制競賣

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

意解 本條ハ不動産ニ對スル強制執行ハ如何ナル方法ニ依リテ之ヲ爲スヘキヤヲ定メタルモノニシテ其方法ニアリ

第一 強制競賣 此方法ニ依ル強制執行ハ不動産自體ヲ直チニ競賣シ其賣得金ヲ得ルヲ以テ目的トシ船舶ニ對スル強制執行ニモ亦之ヲ準用スルモノナリ然レトモ假差押ノ場合ニ於テハ其性質上此種ノ方法ヲ適用スルコトヲ得サルモノトス

第二 強制管理 此方法ニ依ル強制執行ハ不動産自體ヲ賣却スルニアラスシテ其不動産ヨリ生スル收益カ金錢ニアラサルトキハ之ヲ換價シテ金錢ヲ得ルヲ以テ其目的ト爲スモノナリ例ヘハ家賃地

不動産ニ對スル強制執行ノ方法  
強制競賣ノ目的  
強制管理ノ目的

強制競賣ノ方法  
強制管理ノ方法  
強制執行ノ方法

代ノ如キハ金錢其モノヲ得又小作米ノ如キハ之ヲ換價シテ其賣得金ヲ得ルカ如シ故ニ此方法ニ依ル強制執行ハ假差押ノ場合ニモ亦之ヲ適用スルコトヲ得ルモノト爲セリ然レトモ船舶ニ對スル強制執行ニハ船舶ノ性質上此方法ヲ適用スルコトヲ得サルモノトス

以上二箇ノ方法ハ債權者ニ於テ其何レカ一ヲ選擇シテ執行セシメ又ハ雙方ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得ルモノトス而シテ債權者カ此二箇ノ方法ヲ併セテ執行スルノ必要アル場合ハ最初ニ強制管理ノ方法ニ依リ先ツ其不動産ノ收益ヲ得タル上其不動産ノ價格カ高價ニ賣却シ得ヘキ時期ヲ計リ競賣ノ方法ヲ行ヒ以テ其收益ト賣得金トヲ併セテ得ント欲スル場合ナリトス

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

意解 本條ハ不動産ニ對スル強制執行ノ執行機關及ヒ其執行裁判所ノ管轄ヲ定メタルモノニシテ其管轄ノ點ニ付テハ既ニ本款ノ始メニ説明シタル所ナルヲ以テ參照セラレヘク又第二項ハ不動産ニ對スル強制執行ノ執行機關ハ裁判所之ニ當ルヘキモノナルコト及ヒ其執行ハ債權者ノ申立ニ因リテ開始スヘキモノナルコトノ原則ヲ表明シタルモノニシテ此點亦前ニ一言シタル所ナルヲ以テ再ヒ之ヲ説述スルノ必要ナシ

不動産ニ對スル強制執行ノ執行機關ハ區裁判所

不動産ノ  
強制競賣

## 第二款 強制競賣

六七二

不動産ニ對スル強制執行中ニハ第六百四十條ノ下ニ説明シタル如ク強制競賣、強制管理ノ二箇ノ方法存スルモ其主要ナルモノハ強制競賣ニシテ強制管理ノ方法ハ特別ノ事由存スル場合ニ罕レニ行ハルルニ過キサレ一ノ變例的方法ナリ而シテ本款ノ強制競賣ハ彼ノ有體動産ニ對スル強制執行ノ手續ト殆ト類似スルノ規定ナルモ唯其異ナル所ハ動産ハ執達吏ノ職務ニ屬シ執達吏カ其物品ヲ占有スルヲ以テ差押ヲ爲シタルモノトスルモ不動産ハ動産ニ比スレハ通例貴重ナルモノト看做スモノナルカ故ニ之ヲ執行裁判所ノ職務ニ屬セシメ其競賣手續ノ開始決定ヲ以テ之ヲ差押フルモノト爲シタルノ點ニアリ以下各條ニ付キ其説明ヲ爲サン

### 第六百四十二條

強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示
- 第二 不動産ノ表示
- 第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

### 意解

本條ハ債權者カ不動産ニ對スル強制競賣ノ開始ヲ申立ツルニ付テ具備スヘキ要件ヲ定メタルモノトス而シテ本條第一號及ヒ第二號ハ別ニ説明ヲ要スヘキ點ナキモ第三號前段ニ所謂一定ノ債權トハ即チ債權者ノ請求スル金錢ノ債權ノ種類金額等ヲ謂フモノニシテ例ヘハ貸金ナリヤ預金ナリヤ又其金額ハ幾計ナルヤヲ明示スル如キモノニシテ要スルニ執行力アル正本ニ掲ケタル一定ノ債權ヲ表示スルニ依ルモノナルカヲ表示スルヲ謂フ

強制競賣  
ノ申立ニ  
具備スヘ  
キ要件

示スルニアリ次ニ其後段ニ於ケル一定ノ債務名義トハ即チ確定ノ終局判決ニ依リタルモノナルカ或ハ又假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ依リタルモノナルカ又ハ第五百五十九條ニ規定セル五箇ノ債務名義中ノ一ニ依ルモノナルカヲ表示スルヲ謂フ

### 第六百四十三條

申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

- 第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書
- 第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書
- 第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登録シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一箇年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書
- 第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一箇年ノ公課ヲ證ス可キ證書
- 第五 地所、建物ニ付キ貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證ス可キ證書
- 第六 第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得
- 第七 第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其施行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

強制競賣  
ノ申立ニ  
添附スヘ  
キ書面

意解 本條ハ強制競賣ノ申立ノ書面ニ添附シテ提出スヘキ書類ヲ定メタルモノニシテ其書類左ノ如シ

第一 執行力アル正本 強制執行ハ執行力アル正本ニ基キテ爲スヲ本則トスルカ故ニ申立書ニ之ヲ添附スヘキハ當然ノ事理ニ屬ス

第二 債務者ノ所有ニ係ル不動産ナルコトヲ證スル證書 登記シタル不動産ニ付テハ債務者ノ所有ナルコトヲ證スルニ登記判事ノ認證シタル謄本ヲ以テシ登記シアラサル不動産ニ付テハ登記簿以外ノ土地臺帳又ハ家屋臺帳等ノ謄本ヲ以テスヘキモノトス

第三 不動産ノ性質、狀況及ヒ公課等ヲ證スル證書 即チ第三號及ヒ第四號ニ規定セル書面ナリ

第四 若シ其不動産ニ付キ賃貸借アルトキハ其期限及ヒ借賃ヲ證スヘキ證書  
以上ノ要件中登記アラサル不動産ノ債務者ノ所有ニ屬スルコト及ヒ不動産ノ性質、狀況、公課等ヲ證スルカ爲メニ債權者ハ其公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ請求スルコトヲ得ヘク又建物ニ付テノ構造、公課竝ニ土地建物ノ賃貸借關係等ニ付テハ執行裁判所ニ申請シテ執達吏ヲシテ之カ取調ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトス

強制競賣開始ノ申立書ニ右ノ如キ書面ノ添附ヲ必要トスル所以ハ蓋シ債務者ノ所有ニアサラル不動産ハ之ヲ競賣スルコトヲ得サルカ故ニ其所有不動産ナルコトヲ確實ナラシメ且最低競賣價額ヲ評價セシムル等ノ爲メ其實況ヲ詳細ニ關係人ニ知ラシムルヲ必要トスルヲ以テナリ故ニ已ニ同一不動産

右ノ書面  
ノ添付ヲ  
要スル理  
由如何

ニ付キ強制管理ヲ爲シ其執行記録ニ依リテ右ノ要件ヲ明カニ爲サレタルトキハ後ニ強制競賣ニ際シテハ再ヒ之ヲ添附スルコトヲ要セサルモノトス

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス  
差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

意解 本條第一項ハ不動産ニ對スル競賣ノ爲メノ差押ノ方法ヲ規定シタルモノナリ即チ不動産ノ差押

ハ不動産ト異ナリ之ヲ占有スルニアラスシテ競賣手續ノ開始決定中ニ債權者ノ爲メニ其不動産ヲ差押フル旨ヲ宣言シテ之ヲ爲スモノトス

第二項ハ競賣ノ爲メニスル差押ノ效力ヲ規定シタルモノナリ即チ不動産ハ之ヲ差押フルモ債務者ニ於テハ其不動産ヲ現狀ノ儘ニテ自ラ之ヲ占有シ其管理及ヒ利用ヲ爲スコトヲ得且ツ其管理權ノ範圍内ニ於テ適宜ニ其收益ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス苟クモ債權者ヲ害セサル限りニ於テハ其差押不動産ヲ賣却スルコトヲ得ルモノトス

第三項ハ差押ノ效力發生ノ時期ヲ定メタルモノニシテ此效力ハ其差押ヲ宣言シタル本條第一項ノ開始決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リテ發生スルモノナリ故ニ此送達ハ敢テ當事者ノ申立ヲ待ツコトナク執行裁判所ノ職權ヲ以テ爲スヘキモノト爲セリ

不動産差  
押ノ方法

債務者ニ  
對スル不  
動産差押  
ノ效力

差押ノ効  
力發生ノ  
時期

**第六百四十五條** 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス  
 右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效用ヲ生ス  
 假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

不動産  
他ノ  
押者ノ  
債権者ニ  
對スル  
效力ニ

不動産  
ニ  
對スル  
假  
差押ト  
本  
關係

意解 本條第一項ハ各債権者ニ對スル差押ノ效力ヲ定メタルモノニシテ動産ノ差押ニ關スル第五百八十六條第一項ノ趣旨ト同一ニ出テタルモノトス  
 第二項ハ第二以下ノ債権者ノ強制競賣ノ申立ノ效力ヲ規定シタルモノニシテ第五百八十七條ト同一ノ精神ニ出テタルモノナリ  
 第三項ハ假差押ト本差押トノ關係ヲ規定シタルモノニシテ第五百八十六條第四項ト同一ノ趣旨ニ出テタル規定ナリ故ニ茲ニ再說スルノ煩ヲ省ク

**第六百四十六條** 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得  
 右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

意解 本條第一項ハ配當要求ノ手續ヲ規定シタルモノニシテ動産ノ場合ニ於ケル第五百九十條ノ規定

配當要求  
ノ時期

ト同一ナリ唯其異ナル所ハ彼ニアリテハ執達吏ニ爲スヘキモノナルモ此ニアリテハ執行裁判所ニ爲スヘキノ點ニアリ是レ彼此其執行機關ヲ異ニスルヨリ生スル當然ノ結果ナリトス  
 第二項ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ルノ期限ヲ定メタルモノニシテ第五百九十二條ニ於ケルヨリモ聊カ其期限ヲ延長シタルハ不動産ニ付テハ動産ト異ナリ競賣期日ニ於テ賣却代金ヲ取得スルモノニアラスシテ其競落決定ノ上ニ非サレハ之ヲ取得セサルモノナルカ故ニ其時期迄延長スルモ差支ナシト認メタルニ由ルモノナリ

**第六百四十七條** 執行裁判所ハ前第二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債権者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ  
 債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債務者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

意解 本條ハ第六百四十五條ニ於ケル第二以下ノ強制競賣ノ申出アリタルトキ及ヒ第六百四十六條ニ依リ配當要求ノアリタル場合ニ於テ執行裁判所ヨリ次條ニ規定スル利害關係人ニ對シテ通知ヘスキコト竝ニ此場合ニ於ケル債務者債権者ノ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノニシテ動産ノ差押手續ニ於ケル第五百八十九條ノ規定ト同一ナルヲ以テ同條ノ說明ヲ參照シテ了解セラルヘシ



競賣手續  
ニ於ケル  
利害關係  
人ノ範圍

第六百四十八條

左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者

意解

本條ハ不動産ノ強制競賣手續ニ關シテ利害關係人ト稱スル者ヲ特定シタルモノナルカ故ニ此規定ハ本款以外ノ場合ニ適用スルコトヲ得サルモノトス而シテ本條ノ如キ規定ヲ設ケシ所以ハ蓋シ本條第一號乃至第四號ニ掲クル者ヲ總テノ場合ニ列記スルハ甚々複雑トナリ法典ノ體裁モ宜シキヲ得サルカ故ニ單ニ利害關係人ナル一語ヲ以テ之ヲ表示スルヲ以テ頗ル便宜トスルカ爲メニ外ナラス第一號中ニ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲ス債權者ヲ加ヘサリシハ蓋シ其債權ハ未タ確定セサルモノニシテ所謂執行シ得ヘキ債務名義ヲ有セサルカ故ニ強制執行上ノ行爲ニ關シテ充分ナル容喙ヲ許スハ正當ナルコトニアラサレハナリ

第三號ノ不動産上ノ權利者トハ登記ヲ爲シタル不動産質權又ハ抵當權者ノ如キヲ謂フ

第四號ノ權利者ハ登記簿ニ登記セサル不動産上ノ權利者ニシテ其權利ヲ執行裁判所ニ届出テタル者ヲ謂フ

第六百四十九條

差押債權者ノ債權ニ先ツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシム

ルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス(民法施行法第五十一條ヲ以テ改正)

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス(同上)

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス(同上)

意解

本條第一項ハ動産ノ差押手續ニ於ケル第五百六十四條第三項ノ規定ト同一ノ精神ニ出ツルモノニシテ差押債權者ノ債權ニ先ツ債權ニ關スル不動産ノ負擔即チ其不動産ニ對シテ優先權ノ存スルトキハ其優先權ニ對當スル額ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ノ如キハ之ヲ賣却スルモ差押ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルヲ以テ斯ル規定ヲ設ケラレタルモノトス

第二項乃至第四項ハ差押不動産ノ賣却アリタル場合ニ於ケル效果ヲ規定シタルモノトス

第六百五十條

權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續

差押不動  
産賣却ノ  
效力

不動産  
賣却ノ  
條件

ヲ續行ス可シ  
競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

意解 本條ハ第三者ニ對スル差押ノ效力ヲ規定シタルモノニシテ差押不動産ニ付キ權利ヲ取得シタル  
 第三者例ヘハ其差押不動産ヲ買受ケ讓受ケ又ハ永小作權、地上權ヲ取得シ若クハ抵當權ヲ取得シタ  
 ル者ハ其取得ノ際ニ於テ差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ其善意ナリシコトヲ主  
 張シテ差押ノ效力ニ對抗スルコトヲ得サルモノニシテ唯差押不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ヲ満足  
 シメタル後尙ホ剩餘金アレハ利害關係人トシテ債權者ニ代ハリテ之ヲ請求スルコトヲ得ルニ過キス  
 隨テ此場合ニ於テハ新所有者ニ對スル執行力アル正本ヲ要セスシテ其手續ヲ續行スルコトヲ得ルモ  
 ノトス然レトモ若シ其新所有者ニシテ所有權取得ノ際ニ差押アリタルコト竝ニ競賣手續開始ノ申立  
 アリタルコトヲ知ラサリシトキハ其善意ナリシコトヲ主張シ得ヘシ而シテ此場合ニ新所有者カ如何  
 ナル要求ヲ爲スノ權ヲ有スルヤハ全ク實體法タル民法ニ依リテ決セラルヘキ問題ナリトス  
 不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキ例ヘハ不動産ヲ擔保ニ供セシメタル債權ノ  
 爲メニ其擔保物タル不動産ヲ差押ヘタルトキニ於テ第三者カ該不動産ノ所有者ト爲リタルトキハ其  
 者カ所有權取得ノ際ニ差押又ハ競賣手續開始ノ申立アリタルコトヲ知リタルト否トニ論ナク其差押  
 ノ效力ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス蓋シ此場合ニ於テハ差押ヘラレタル不動産自體ニ付著シタ  
 ル負擔ナレハナリ故ニ其差押後不動産ノ所有者ニ變更アルモ第五百五十二條第五百五十三條ノ規定

ニ於ケル精神ニ基キ其執行手續ヲ續行スルコトヲ妨ケサルモノトス但シ此關係ヲ生スルハ差押以後  
 ニ所有者カ變更シタル場合ニ限ルモノニシテ若シ其變更カ差押以前ニアリタルモノナルトキハ前所  
 有者ニ對スル執行力アル正本ヲ以テ直チニ新所有者ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得ス唯不動産質權又  
 ハ抵當權ヲ有スル者ハ第三取得者ニ對シ民法ノ規定ニ從ヒ其權利ヲ行使シ然ラサル者ハ新所有者ニ  
 對シ新ニ訴ヲ提起シテ其權利ヲ確定シタル後ニ於テ始メテ該不動産ニ對シ競賣手續ヲ開始スルコト  
 ヲ得ルニ至ルモノトス  
 第三項ハ競賣ノ申立ヲ取下クルトキハ差押ハ當然消滅スルノ效果ヲ發生スヘキコトヲ規定シタルモ  
 ノナリ而シテ其取下ノ原因ハ如何ナル理由ニ基キヤヲ問ハサルモノトス

第六百五十一條

裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ  
 登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ  
 登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

意解 本條ハ競賣開始決定ノ際執行裁判所ノ爲スヘキ登記ノ囑託ニ關スル規定ナリ即チ執行裁判所ニ  
 於テハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ其職權ヲ以テ登記判事ニ對シ競賣ノ申立アリタルコト  
 ヲ登記簿ニ記入スヘキ囑託ヲ爲スヘキモノニシテ登記裁判所カ此囑託ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ登記  
 簿ニ記入スヘキモノトス

第六百五十二條

登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ

囑託ヲ受  
ケタル登  
記判事ノ  
爲スヘキ  
手續

不動産上権利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

六八二

意解 本條ハ前條ノ囑託ニ依リ登記判事ノ爲スヘキ手續ヲ規定シタルモノナリ即チ登記判事ハ登記簿ニ競賣ノ申立アリタルコトヲ記入シタルトキハ其登記ノ謄本ヲ執行裁判所ニ送付シ尙ホ若シ不動産上ノ権利者ヨリ提出シタル證書アルトキ例ヘハ不動産ノ質入又ハ抵當權ノ設定等アリテ其契約證書ノ存スルトキ又ハ公賣處分ニ關スル落札證書及ヒ其代金完納證書等ノ存在スルトキハ其抄本ヲモ執行裁判所ニ送付スヘキモノトス蓋シ差押債權者ノ債權ニ先タツ債權アリテ此不動産ヲ賣却スルモ代金ノ剩餘ヲ得ル見込ナキヤ否ヤヲ調査スルカ爲メ及ヒ最低競賣價格ヲ評價セシムル材料ニ供セシムルカ爲メニ必要ニシテ且其不動産ノ狀況ニ依リ競賣手續ヲ續行シ得ヘキヤ否ヤヲ知得スルニ必要アレハナリ

### 第六百五十三條

豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

意解

本條ハ執行裁判所ニ於テ競賣手續ヲ取消スヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ茲ニ手續ノ開始ヲ妨クヘキ事實トハ例ヘハ其差押不動産ニ抵當權ヲ設定シアリテ之ヲ競賣スルモ其不動産ノ負擔スル義務ヲ全ク盡スコトヲ得サルコトノ明カナル場合或ハ其不動産カ他人ノ所有名義ナルトキ又ハ華族

執行裁判  
所ニ於テ  
競賣ヲ取  
消スヘキ  
場合

ノ世襲財産ニシテ賣却ヲ爲ス能ハサルモノナルカ如キ場合ヲ謂フ

### 第六百五十四條

裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申立ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

意解

本條ハ競賣開始決定ノ際執行裁判所ノ行爲トシテ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ債權申出ノ催告ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ茲ニ所謂主管官廳トハ府縣廳、市町村役場、郡役所、稅務署等ヲ謂フ而シテ此催告ヲ必要トスル理由ハ租稅其他ノ公課ニ付キ滯納アルトキハ其金額ハ之ヲ配當表ニ掲ケ其不動産ノ賣得金中ヨリ他ノ債權ニ先チテ支拂ヲ爲スヘキモノナルヲ以テナリ

### 第六百五十五條

裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣額ト爲ス

意解

本條以下ハ不動産ノ強制競賣ノ準備手續ニ關スル規定ナリ而シテ本條ニ於テ鑑定人ヲシテ其不動産ノ評價ヲ爲サシメ以テ最低競賣額ヲ定ムル所以ハ不動産ハ動産ヨリ貴重ナルモノト看做スヲ通例トスルカ故ニ普通ノ價額ヨリ低價ニ賣却スルカ如キコトナカラシメントスルニ外ナラス

### 第六百五十六條

裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ

競賣開始  
決定後裁  
判所ノ爲  
スヘキ催  
告

定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

**意解** 本條ハ前條ノ規定ニ依リ鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメタル結果其評價額ト其不動産上ノ總テノ負擔即チ抵當權者、質權者若クハ租稅其他ノ公課ノ滯納ト爲リ居ルモノ及ヒ執行費用ヲ辨濟シテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ到底差押ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ依リ執行裁判所ニ於テ差押債權者カ第二項ニ規定スルカ如キ申立ヲ爲スヤ否ヲ試ミルカ爲メニ其旨ヲ通知スヘキコトヲ定メタルモノナリ而シテ差押債權者カ右ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日ノ期間内ニ第三項規定ノ申出ヲ爲シタルトキハ次條以下ノ規定ニ依リ其競賣ヲ實施スヘキモ若シ其期間内ニ此申立ヲ爲ササルキトハ競賣手續ノ取消ヲ命シ之ヲ完結スヘキモノトス

**第六百五十七條** 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

**意解** 本條ハ執行裁判所ニ於テ前條ノ手續ヲ盡シタル後差押債權者カ前條第二項ノ申立ヲ爲スカ若クハ最初ヨリ競賣手續ヲ續行スルニ足ル剩餘アリト認メタル場合ニハ其職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スヘキモノナルコトヲ定メタルニ過キスシテ別ニ説明ヲ要スヘキ點ナシ

**第六百五十八條** 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 租稅其他ノ公課
- 第三 賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
- 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
- 第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所
- 第六 最低競賣價額
- 第七 競落期日ノ場所及ヒ日時
- 第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
- 第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其權利ヲ申出ツ可キ旨
- 第十 利害關係人競賣期日ニ出頭スヘキ旨

**意解** 本條ハ前條ニ依リ執行裁判所ノ爲ス競賣期日ノ公告中ニ具備スヘキ要件ヲ定メタルモノニシテ本條規定ノ第一號乃至第十號ノ要件中其一ヲ缺除スル公告ハ無効ノモノト爲リ競落ヲ許ササルノ原因タルモノトス而シテ其各號ニ付テハ條文ニ依リ之ヲ知り得ヘキニ因リ特ニ之カ説明ヲ爲スノ要ナケレハ略ス

**第六百五十九條** 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ  
此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

**意解** 本條ハ公告ト競賣期日トノ間ニ存スヘキ期間及ヒ競賣期日開始ノ場所ヲ定メタルニ過キス而シ

競賣期日ノ公告ニ掲クヘキ事項

競賣期日

テ競賣期日ヲ執達吏ヲシテ開カシムルハ此競賣期日ヲモ執行裁判所カ開始スルモノト爲ストキハ多クノ場合ニ於テ不便ヲ生スルノミナラス且ツ競賣期日ニ於ケル競賣手續ノ如キハ事實上ノ行爲ニシテ敢テ裁判所ヲシテ之ニ當ラシムル程ノモノニアラサルヲ以テ便宜上執達吏ヲシテ之ヲ爲サシムルモノト爲シタルニ外ナラス

**第六百六十條** 競賣期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス  
此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

**意解** 本條ハ競賣期日ヲ指定スルニ於テ其競賣期日トノ間ニ存スヘキ期間及ヒ其期日開始ノ場所ヲ定メタルモノニシテ其競賣期日ヨリ七日ヲ過クヘカラサルモノト爲シタルハ手續ノ遲滯ニ依リ競賣人ニ迷惑ヲ被ムラシメサルカ爲メニ外ナラス又其期日開始ノ場所ヲ裁判所ト爲シタルハ競賣ノ決定ハ裁判所自ラ之ニ當ルヘキモノナルカ故ニ外ナラス

**第六百六十一條** 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス  
第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

**意解** 本條ハ競賣期日ノ公告ヲ爲スヘキ方法ヲ定メタルニ過キス而シテ新聞紙ヲ以テ公告ヲ爲スト否トハ裁判所ノ自由ニ決スル所ナルモ此費用ハ執行費用ニ屬スルモノナレハ不動産ノ價額ノ多寡如何ニ依リ大ニ斟酌セサルヘカラサルモノトス

**第六百六十二條** 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

**意解** 本條ハ法律上ノ賣却條件ヲ變更スルノ要件ヲ規定シタルモノナリ茲ニ法律上ノ賣却條件トハ第六百五十五條、第六百五十六條、第六百六十四條、第六百六十五條、第六百六十六條、第六百六十七條、第六百六十九條、第六百八十六條、第六百八十七條、第六百九十三條ノ規定條件ノ如キヲ謂フ而シテ最低競賣價額ニ付テ變更ヲ許ササルハ蓋シ之ヲ隨意ニ變更スルコトヲ得セシムルニ於テハ如何ナル低價ニ賣却ヲ爲スモ計リ難ク法律カ公益保護ノ爲メニシテ最低競賣價額ノ設定ヲ命シタル目的ニ背反スルニ至ルヘケレハナリ

**第六百六十三條** 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競賣價額申出ヲ催告ス可シ

**意解** 本條以下第六百六十七條ニ至ルマテハ執達吏カ競賣ヲ實施スルノ手續ニ關スル規定ナリ而シテ執達吏カ其競賣ヲ實施スルニ當リ先ツ記録ノ閱覽及ヒ賣却條件ノ告知ヲ必要トスル所以ハ競賣ニ付スル不動産ノ負擔及ヒ異議ヲ申立ツルノ理由ノ存否等其他競賣ニ關シ必要ナル事項ヲ競買ヲ爲ス者ニ豫メ知ラシメ置クノ必要存スルヲ以テナリ故ニ彼ノ法律上ノ賣却條件ノ如キ法律ニ規定スル事項ニシテ各人ニ於テ之ヲ熟知シテ競買ヲ爲スモノト看做スヘキモノハ其告知ヲ要セサルモノトス

**第六百六十四條** 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメンコトヲ申立ツルトキハ其競買

賣却條件  
ノ變更

競賣實施  
ノ手續  
其一

人カ保證トシテ競買價格十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス  
右申立ハ競買價格ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ

其ニ  
競買申出  
ニ對スル  
保證

憲解 本條ハ競買申出ニ付テノ保證ニ關スル規定ナリ即チ競買ノ申出アリタルトキハ利害關係人ハ其申出者ノ何人ナルヲ問ハス其申出ニ信用ヲ置キ難キモノト認ムルトキハ競買義務履行ノ爲メニ其競買人ニ擔保ヲ供セシメンコトヲ申立ツルノ權利アリ蓋シ競買人カ濫リニ競買價格ヲ申出テ競落者ト定メテ競落決定ノ後ニ至リテ違約ヲ爲シ或ハ代價ノ支拂ヲ爲ササルカ如キ場合ニ於テハ再ヒ競買手續ヲ開始セサルヘカラサルカ如キ煩雜ヲ來タスノ虞アレハナリ而シテ此申出アリタルトキハ競買人ハ本條第一項ノ手續ヲ爲スニアラサレハ其競買ヲ許ササルモノトス  
第二項ハ利害關係人ノ保證ヲ立テシムヘキコトノ申出ヲ爲スヘキ時期竝ニ其一度爲シタル申出カ爾後ノ競買申出ニ對シテモ其效力ヲ及ホスヘキコトヲ規定シタリ

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス  
競買ハ競買價額ヲ申立ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス

其三  
競買申出  
ノ效力

憲解 本條ハ最高價ノ競買申出人トシテ競買ヲ許サレタル者ハ自己ヨリ後ニ更ニ高價ノ競買ノ申出ヲ爲ス者アル迄其申出タル價額ニ拘束セラレ若シ其申出テタル價額ヨリ高價ナル申出ナクシテ競買ヲ終局シタルトキハ其不動産ヲ買受クルノ義務アルコト竝ニ競買ヲ終局スルニハ競買價額ヲ申出ツヘキ催告ヲ爲シタル後一時間ノ餘地ヲ存スヘキモノナルコトヲ規定シタルニ過キス

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競買ノ終局ヲ告知ス可シ  
他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ義務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

憲解 本條第一項ハ執達吏カ競買ヲ終局スルニ付テノ方式ヲ規定シ第二項ハ最高價ノ競買人定マリタルカ爲メ他ノ各競買人カ其義務ヲ免カレ且ツ保證金又ハ有價證券ヲ預ケ入レタルトキハ即時其返還ノ請求ヲ爲ス權利ヲ有スルモノナルコトヲ定メタルニ過キス

其四  
競買ノ終局

第六百六十七條 競買ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ得ス  
第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト  
第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時  
第五 總テノ競買價額竝ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト  
第六 競買ノ終局ヲ告知シタル日時

民事訴訟法通義 第六編 強制執行 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 六八九

第六百六十七條 競買ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ得ス  
第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト  
第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時  
第五 總テノ競買價額竝ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト  
第六 競買ノ終局ヲ告知シタル日時

競賣調書ノ方式

第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト、

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添付ス可シ

意解 本條ハ執達吏ノ作成スヘキ競賣證書ノ方式ヲ定メタルモノニシテ此調書ニハ本條規定ノ第一號乃至第八號ノ事項ヲ記載シ且最高價競買人及ヒ其期日ニ出頭シタル利害關係人ニ於テ之ニ署名捺印スヘク若シ此等ノ者カ調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記スヘキモノトス  
若シ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ニ於テ受取證ヲ取り之ヲ其調書ニ添付スヘキモノトス

第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

執達吏カ預リタル金銭又ハ有價證券

意解 本條ハ執達吏カ競賣ヲ終局シタル後爲スヘキ手續ヲ定メタルモノニシテ執達吏ハ前數條ノ手續ニ依リ競賣ヲ終リタルトキハ其日ヨリ三日内ニ競賣調書並ニ競賣ニ關スル書類ハ競買ノ保證ノ爲メ

ニ預リタル金銭又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノ即チ競買人ト爲リタル者ノ預ケ入レタル保證物ヲ供託シタル書面ト共ニ總テ裁判所書記ニ引渡シ以テ自己ノ爲スヘキ手續ヲ終了スヘキモノトス蓋シ執達吏カ不動産ノ執行ニ付キ競賣ノ實施ヲ爲スハ執行裁判所ノ命令ニ依リ其手續ヲ行フニ過キスシテ第六百六十六條第一項ニ依リ競賣ノ終局ヲ爲スモ未タ競買人ヲ確定スヘキニアラスシテ爾後競落ヲ確定スルノ手續ハ執行裁判所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ右ニ關スル總テノ書類ヲ送付セシムルノ必要アレハナリ

第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百四十三條第三項ノ規定ヲ準用ス  
住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

最高價競買人ノ假住所選定

意解 本條ハ第四百四十三條等ノ規定ト同一ノ精神ニ出ツルモノニシテ最高價競買人ト爲リシ者ハ競落ニ關シテハ當事者ト殆ント同一ナル關係ニ立ツモノナルカ故ニ執行裁判所ノ所在地ニ假住所ノ選定ヲ爲スコトヲ必要ト爲シタルモノナリ隨テ若シ競買人カ此届出ヲ爲ササルトキハ第四百四十三條第三項ノ準用ニ依リ其者ニ對スル送達ハ郵便ニ付シテ之ヲ爲スヘキモノトス  
假住所選定ノ届出ハ書面ヲ以テ爲スヘキヲ本則トスルモ執達吏ニ就キ口頭ヲ以テ之ヲ述ベ執達吏ニ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ裁判所ニ差出スヘキコトヲ依頼シテ爲スコトヲモ得ルモノトス但シ此場合

ニ於テハ執達吏ニ對シ其手数料ヲ支拂ハサルヲ得サルヘシ

第六百七十條

競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ  
新競賣期日ハ少ナクとも十四日ノ後タル可シ

意解

本條ハ執行裁判所ニ於テ新競賣期日ヲ定ムヘキ場合ニ付テノ規定ナリ即チ最初ノ競賣期日ニ於テ許スヘキ競賣價額ノ申出ナカリシトキハ執行裁判所ニ於テハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シテ更ニ新競賣期日ヲ定メテ前同一ノ手續ヲ以テ競賣ヲ實施スヘキモノトス然レトモ其價額カ到底差押債權者ニ先タツ債權ヲ辨濟シ剩餘ナキトキハ其競賣開始決定ヲ取消スヘキモノニシテ新競賣ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ

本條ニ所謂許スヘキ競賣價額ノ申出ナキトキトハ(一)競買價額ヲ申出ツル者一切ナキ場合(二)競買價額ノ申出アルモ其總テカ最低競賣價額ニ達セサルトキ(三)競買價額ヲ申出タル者カ保證ヲ立ツヘキコトヲ申立テラレテ之ヲ立テサリシトキ(四)競買價額ヲ申出ツルモ賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキ者ナリシ場合ヲ包含ス

第六百七十一條

裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

如何ナル  
場合ニ新  
競賣期日  
ヲ定ムヘ  
キモノナ  
リキ

競落期日  
ニ於ケル  
手續

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

意解

本條ハ競落期日ニ於ケル手續ヲ規定シタルモノニシテ執行裁判所カ競落期日ヲ開キタルトキハ先ツ出頭シタル利害關係人ヲ審訊シ最高價競買人若クハ最高價入札人トシテ呼上ケラレタル者ニ競落ヲ許スヘキヤ否ヤノ陳述ヲ爲サシムヘキモノトス而シテ此陳述中ニハ異議ノ申立若クハ承認ヲ爲スノ意思表示ヲ包含スルモノニシテ之ヲ爲サシムルノ目的ハ利害關係人ヲシテ其權利ヲ害セラレサラシトコトヲ期スルニ外ナラス此競落ノ許可ニ對スル異議ノ申立及ヒ之ニ對スル同意若クハ反對ノ抗辯ハ總テ競落期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ爲ササルヘカラス故ニ其期日ノ終迄テニ右等ノ陳述若クハ申立ヲ爲ササルトキハ法律ハ異議ナキモノト看做スヘキヲ以テ後日ニ至リ異議ヲ申立ツルコトヲ許ササルモノトス

第六百七十二條

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

- 第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
- 第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
- 第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト
- 第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト



競落許可  
ニ付テノ  
異議ノ理  
由

- 第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト
- 第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリシコト
- 第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト
- 第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

**意解** 本條ハ利害關係人ノ異議申立ノ原因ヲ限定シタルモノニシテ利害關係人ハ競落期日ニ出頭シテ前條ノ規定ニ依リ競落ノ許可ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモ總テノ場合ニ之ヲ爲シ得ルニアラス必ス本條規定ノ原因中其一ヲ理由トシテ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス故ニ本條規定ノ一ニ該當スル理由ノ存セサルトキハ絕對ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第一號前段ニ強制執行ヲ許スヘカラサルコトトハ法律上差押フヘカラサル不動産ヲ差押ヘタルトキ又ハ裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ又ハ差押債權者カ強制執行ノ要件ヲ缺キタルカ如キ場合ヲ謂ヒ其後段ニ執行ヲ續行スヘカラサルコトトハ強制執行ノ全部又ハ一部ノ停止アリタルトキ又ハ差押ヘタル不動産ノ賣却代金ヲ以テ不動産ノ負擔及ヒ執行費用ヲ辨濟シテ剩餘ナキ等ノ場合ヲ謂フ

第二號ハ競買人カ無能力者ナルカ又ハ外國人カ土地ノ競買人ト爲リタル場合ノ如キヲ謂フ

第三號ニ付テハ第六百六十二條ノ說明ヲ參照スヘシ

第四號ハ說明ヲ要スヘキ點ナシ

第五號ハ競賣期日ノ公告ヲ爲スニ第六百五十八條乃至第六百六十一條ノ規定ヲ遵守セザリシコトヲ

意味ス

第六號以下亦特ニ說明ヲ要セサルニ付キ之ヲ省ク

**第六百七十三條** 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

**意解** 本條ハ前條規定ノ一ニ該當スルトキト雖モ無制限ニ異議ノ申立ヲ許スニアラス唯其理由カ自己ノ利害ニ關係アル場合ニ限り異議ノ主張ヲ許サルヘキモノナルコトヲ規定シタルモノナリ蓋シ利益ナケレハ訴權ナシトハ法律上ノ原則ニシテ自己ノ利害ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノニ異議ノ主張ヲ許スノ必要ナケレハナリ

**第六百七十四條** 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓與スルコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限り第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

**意解** 本條及ヒ次條ハ競落ヲ許ササルノ決定ヲ爲スヘキ場合ヲ定ムルモノニシテ本條ハ利害關係人ヨリ異議ノ申立テアリタルトキ及ヒ第六百七十二條ノ事項存スル場合ニ關スル規定ナリ

執行裁判所ハ利害關係人カ第六百七十一條乃至第六百七十三條ノ規定ニ基キ適法ニ爲シタル異議カ正當ナリト認ムルトキハ其競落ヲ許ササル決定ヲ爲スヘク

競落許可  
ニ關スル  
異議ハ自  
己ノ利害  
ニ關係アル  
場合ニ  
限リ之ヲ  
許ス

執行裁判  
所ニ於テ  
競落ヲ許  
ササル決  
定ヲ爲ス  
ヘキ場合  
ニ關スル  
其

又利害關係人ノ異議ノ申立ナシト雖モ第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一存スルトキハ職權ヲ以テ競落ヲ許ササル旨ノ決定ヲ爲スヘキモノトス但シ此事由中ニハ常ニ競落ヲ許ササルモノト或條件ノ存スルトキニ限り競落ヲ許ササルモノトアリ

(一) 第六百七十二條第四號乃至第八號ノ一ニ該當スルトキハ常ニ職權ヲ以テ競落ヲ許ササル決定ヲ爲スヘキモノトス

(二) 同條第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ左ノ事由ノ存スルトキニ限り職權ヲ以テ競落ヲ許ササルノ決定ヲ爲スヘキモノトス

(イ) 第一號ノ場合ニ於テハ競賣ニ付シタル不動産カ其性質上讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限ルモノトス故ニ債權者ノ申立ニ欠缺アル場合若クハ競賣手續ノ一時ノ停止ノ場合ノ如キハ職權ヲ以テ競落ヲ拒ムコトヲ得サルモノニ屬ス

(ロ) 第二號ノ場合ニ於テハ競買人ノ能力ノ欠缺カ競落期日ニ至リテモ尙ホ依然トシテ存在スルトキニ限ルモノトス故ニ競賣期日ニ於テ假令能力欠缺スルモ競落期日ニ於テ其能力ヲ備フルトキハ職權ヲ以テ競落ヲ拒ムコトヲ得ス

(ハ) 第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人カ手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ルモノトス蓋シ賣却條件ナルモノハ最低競賣價額ノ外ハ利害關係人ノ合意ニ因リテ變更スヘキモノナルカ故ニ競賣ノ後ト雖モ異議ノ申立ナケレハ敢テ職權ヲ以テ其不當ヲ唱フルノ必要ナケレハナリ

**第六百七十五條** 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

其二

**意解** 本條モ亦競落ヲ許ササルノ決定ヲ爲スヘキ場合ノ規定ニ屬スルモ其許ササルノ趣旨ニ至リテハ大ニ前條ノ場合ト異ナル所ナリ即チ本條ニ於テハ數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタルニ何レモ豫想外ノ高價ニ競賣セラルルコトト爲リ其全部ニ付キ競落ヲ許可セサルモ其中ノ一箇又ハ數箇ノ賣得金ヲ以テ優ニ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ且ツ執行費用ヲ償フニ足ルヘキトキハ其限度ニ於テ競落ヲ許シ其他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許ササルニアリ蓋シ競賣ナルモノハ一個ノ執行處分ニシテ強制執行ナルモノハ債權ノ辨濟ヲ目的トスルモノナレハ假令數多ノ不動産ヲ競賣ニ付シタルトキト雖モ其必要ノ程度ヲ超シテ競落ヲ許スヘキモノニアラサレハナリ

以上ノ場合ニ於テハ債務者ハ其何レノ不動産ノ賣却ヲ爲スヘキヤヲ指定スルコトヲ得ルモノトス蓋シ債務者ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ外ナラス

**第六百七十六條** 第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ至ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

六九八  
意解 本條ハ競落ヲ許ササル場合ニ於テハ更ニ再度ノ競賣ニ付スルカ爲メニ執行裁判所ハ職權ヲ以テ其新競賣期日ヲ定ムヘキコト竝ニ其新期日ハ前ノ競落期日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後ニ指定スヘキコトヲ定メタルモノトス

第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ

意解 本條ハ前條ニ定ムル所ニ從ヒ競落ヲ許サスシテ再度ノ競賣ニ付スル爲メ新競賣期日ヲ定ムルノ手續ヲ爲ササル場合ニ於テ執行裁判所ノ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノニシテ其爲スヘキ手續左ノ如シ

第一 競落ニ付キ異議ノ申立ナキカ又假令異議ノ申立アリタルトキト雖モ其異議ヲ正當ト爲ササルトキ又ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ササル決定ヲ爲スヘキ場合ニアラサルトキハ競賣ヲ適法ト爲スヘキモノナルカ故ニ前條ノ手續ヲ爲スヘキモノニアラスシテ直チニ競落許可ノ決定ヲ言渡スヘキモノトス

第二 競落ヲ許スヘカラサルモノニシテ更ニ再度ノ競賣ニ付スルコトヲ得サルモノアルトキハ前條ニ定ムル手續ヲ爲スヘキモノニアラサルカ故ニ單ニ競落ヲ許ササル旨ノ決定ヲ言渡スヘキモノトス而シテ此決定ハ前條ノ競落ヲ許ササル決定トハ異ナリ絶對的ニ競落ヲ許スヘカラサルモノト宣

言スルニアリトス

以上ノ競落許可、不許可ノ決定ハ當事者ノ口頭辯論ヲ經テ之ヲ爲シ且ツ之ヲ言渡スヘキモノトス

第六百七十八條 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

意解 本條ハ競買人カ競賣期日以後ニ於テ其申出テタル競買ヲ取消スコトヲ得ルノ權利ヲ認メタルモノニシテ第六百六十五條ニ依リ競買ヲ許サレタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束セラルトノ原則ニ對シテ例外ヲ爲スモノナリ即チ本條ノ規定ニ依レハ競賣期日ト競落期日トノ間ニ於テ天災其他ノ事變例ヘハ水、火、震災ニ因リ又ハ戰爭其他ノ暴動等ニ因リテ競賣ニ付シタル不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人ハ其事實及ヒ毀損ノ狀況ヲ疏明シテ其競買ヲ取消スコトヲ得ルモノナリ蓋シ競落許可ノ決定以前ニ於テハ其所有權未タ競買人ニ移轉セサルモノナルカ故ニ其間ニ自己ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ生シタル危險ヲ之ニ負擔セシムルハ甚タ苛酷ニ失スレハナリ然レトモ其不動産カ著シク毀損シタルヤ否ヤハ競買人ノ判定ニ一任スヘキモノニアラスシテ必ス執行裁判所ニ於テ諸般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘキモノトス

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ク可シ

最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消スコトヲ得ルノ權利ヲ認メタルモノニシテ第六百六十五條ニ依リ競買ヲ許サレタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束セラルトノ原則ニ對シテ例外ヲ爲スモノナリ即チ本條ノ規定ニ依レハ競賣期日ト競落期日トノ間ニ於テ天災其他ノ事變例ヘハ水、火、震災ニ因リ又ハ戰爭其他ノ暴動等ニ因リテ競賣ニ付シタル不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人ハ其事實及ヒ毀損ノ狀況ヲ疏明シテ其競買ヲ取消スコトヲ得ルモノナリ蓋シ競落許可ノ決定以前ニ於テハ其所有權未タ競買人ニ移轉セサルモノナルカ故ニ其間ニ自己ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ生シタル危險ヲ之ニ負擔セシムルハ甚タ苛酷ニ失スレハナリ然レトモ其不動産カ著シク毀損シタルヤ否ヤハ競買人ノ判定ニ一任スヘキモノニアラスシテ必ス執行裁判所ニ於テ諸般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘキモノトス

競落ヲ許  
ス決定ニ  
掲クヘキ  
要件

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

七〇〇

意解

本條ハ競落許可ノ決定ニ掲クヘキ要件竝ニ其決定ヲ公告スヘキ方法ヲ規定シタルモノニシテ其決定ニ掲クヘキ要件左ノ如シ

- 一 競賣ヲ爲シタル不動産ノ表示
  - 二 競落人ノ氏名ノ表示
  - 三 競落ヲ許シタル競買價額ノ表示
- 以上三箇ノ要件ノ外第六百六十二條及ヒ第六百六十三條ノ規定ニ從ヒ特別ノ賣却條件ヲ以テ競賣ヲ爲シタルモノナルトキハ其特別條件ヲモ掲ケサルヘカラサルモノトス
- 右ノ競落許可ノ決定ハ單ニ之ヲ言渡スノミヲ以テ足レリトセス尙ホ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ之ヲ公告セサルヘカラサルモノトス

第六百八十條

利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出タル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

ス

競落許否  
ノ決定ニ  
對シテ即  
時抗告ヲ  
爲シ得ヘ  
キ人及ヒ  
場合

意解

本條ハ競落許否ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ者及ヒ其場合ヲ規定シタルモノニシテ左ノ如シ

甲 利害關係人

利害關係人ハ競落ヲ許ス決定ナルト之ヲ許ササルノ決定ナルトヲ問ハス其決定ニ基因シテ損害ヲ被フルヘキ場合ニ於テハ之ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモ其他ノ場合即チ自己ニ損害ヲ及ホササルトハキ假令其決定カ不當ナルトキト雖モ即時抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス而シテ茲ニ所謂利害關係人トハ第六百四十八條ニ列記スル者ヲ指稱スルカ故ニ競買人ヲ包含セサルコト勿論ナリ

乙 競落人

競落人ハ競落許可ノ決定ニ對シ競落ヲ許スヘキ理由ナキトキ例ヘハ自己カ最高價競買人トシテ呼上ケラレタル者ニアラサルトキ又ハ競落決定ニ掲ケタル意外ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ許スヘキモノナルコトヲ主張スル場合ニ限り即時抗告ヲ爲シ得ルモノトス

丙 競買人

競買人ハ全ク競落ヲ許ササル決定ナルト他人ニ競落ヲ許シタル決定ナルトヲ問ハス自己カ競落人ト爲ルヘキモノナルコトヲ主張スル場合ニ於テ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ此場合ニ於テ

其競買人ハ自己ノ申出テタル競買價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス  
右ノ抗告アリタルトキハ一般抗告ノ場合ト異ナリ執行ヲ停止スルノ效力ヲ生スルモノトス蓋シ執行  
ヲ續行スルニ於テハ後日其決定カ變更又ハ廢棄セラルルコトアルニ於テハ挽回スヘカラサルノ不都  
合ヲ生スルコトアルヘケレハナリ

第六百八十一條

競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ原因ナキコ  
トヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理  
由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限  
リ之ヲ爲スコトヲ得

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラルルコト  
無シ

抗告ヲ爲  
シ得ヘキ  
理由

意解

本條ハ抗告ヲ爲シ得ヘキ理由ニ關スル規定ナリ競落許可ノ決定ニ對シテハ前條記載ノ者ヨリ即  
時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモ如何ナル場合ニ於テモ無制限ニ之ヲ爲スコトヲ許サルヘキモノニアラス  
シテ必ズ左ニ説明スルカ如キ理由ノ存在ヲ必要トスルモノナリ

甲 競落ヲ許ササル決定ニ對スル場合

此場合ニ於テハ法律ノ規定ニ依リ競落不許可ノ原因一モ存在セサルコトヲ理由トスルヲ以テ其必

乙 競落ヲ許ス決定ニ對スル場合

要條件トス換言スレハ第六百七十二條第一號乃至八號ニ掲クル競落ニ對スル異議ノ原因一モ存在  
セサルコト並ニ其執行上ノ形式ニ至リテモ一モ欠缺シタル點ナキコトヲ理由トスルトキニ限り競  
落不許可ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

此場合ニ於テハ前號ト正反對ニ競落許可ニ對スル異議ノ原因ノ一カ存在スルコト又ハ其決定カ競  
落期日ノ調書ノ趣旨ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキ例ヘハ競落決定ニ競落人トシテ掲ケラレ  
タル者ノ調書ニ依レハ最高價競買人ニアラサルコト又ハ決定ノ金額カ調書ニ掲ケタル最高價額ト  
牴觸スルコトヲ理由トスル場合ノ如シ

右ノ外再審ニ於ケル取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ノ要件ト同一ナル理由存在スル場合ニハ右二箇ノ制  
限ニ拘ハラヌ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第六百八十二條

抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手  
方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

意解

本條ハ抗告裁判所ニ於テ競落許否ノ決定ニ對スル抗告ヲ裁判スルニ付テノ手續ヲ定メタルモノ  
トス

競落ノ許否  
ノ決定ニ  
對スル抗  
告ニ相手  
方ヲ定ム  
ル理由如  
何

抗告ノ併  
合審理

元來一般ノ抗告ニ於テハ其本質上訴訟上ノ相手方ナル者存在セス隨テ對席ノ審理ヲ爲スモノニアラ  
スト雖モ競落許否ノ決定ハ時ニ或ハ實體上ノ權利ヲ確定スルモノアルヲ以テ之ニ對スル抗告ハ他ノ  
抗告ト異ナリ其ノ裁判ノ結果ハ唯ニ抗告人ノミニ止マラス其他ニモ亦利害ノ影響ヲ及ホスモノナレ  
ハ抗告裁判所ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ其抗告人ト利害相反スル地位ニ立ツ利害關係人若クハ  
競買人ヲシテ反對ノ陳述ヲ爲サシムル爲メ之ヲ抗告人ノ相手方ト定メ對席ノ審理ヲ爲スコトヲ得ル  
モノトス

又一個ノ決定ニ對シテ數個ノ抗告起リタル場合ニ於テハ互ニ之ヲ併合シテ審理裁判ヲ爲スヘキモノ  
ナリ是レ手續ノ簡略ト裁判ノ抵觸ヲ防カントスルノ趣意ニ外ナラス

又其抗告カ第六百七十三條ニ該當スルモノナルトキハ其抗告ヲ許ササルモノトシ若シ抗告ヲ正當ナ  
リトスルトキハ第六百七十四條ノ規定ヲ準用シテ裁判スヘキモノトス

**第六百八十三條**

執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之  
ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

意解

本條ハ抗告裁判所ニ於テ前決定ヲ變更若クハ廢棄スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於ケル公告手續ヲ  
規定シタルモノナリ蓋シ抗告裁判所ニ於テ競落許否ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタルトキハ獨リ抗告  
人及ヒ其相手方ノミニ之ヲ知ラシムルヲ以テ足レリトセス利害關係人竝ニ競買人ニモ之ヲ知ラシム  
ルノ必要アレハナリ然レトモ前競落決定ヲ是認スルトキハ新ニ之ヲ公告シテ知ラシムルノ必要ナキ

ヲ以テ之ヲ除外セラレタリ

**第六百八十四條**

競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其  
競買ノ責務ヲ免カル

競落ヲ許  
ササル決  
定確定ノ  
效力

意解 本條ハ競落ヲ許ササル決定ノ確定後ニ於ケル效力ヲ規定シタルモノナリ即チ執行裁判所ノ決定  
ナルト抗告裁判所ノ爲シタル決定ナルトヲ問ハス競落ヲ許ササルノ決定確定シタルトキハ競落人及  
ヒ競買人ハ總テ競買ノ責ヲ免カレ第六百六十五條及ヒ第六百八十條第四項ニ依リ其申出テタル價額  
ニ付キ受クル所ノ拘束ヲ解除セラルルニ至ルモノトス今競落ヲ許ササル決定ノ確定スル場合ヲ舉示  
スレハ左ノ如シ

**第一** 執行裁判所ノ競落ヲ許ササル決定ニ對シテ抗告ヲ爲スモノナクシテ七日ノ不變期間ヲ經過シ  
タルトキ

**第二** 執行裁判所ノ競落ヲ許ササル決定ニ對シテ抗告アリタルモ抗告裁判所ニ於テ原決定ヲ正當ナ  
リト認メタルトキ

**第三** 執行裁判所ノ決定ニ對シテ抗告アリ抗告裁判所ニ於テ其決定ヲ變更又ハ廢棄シテ新ニ競落ヲ  
許ササル決定ヲ爲シタルトキ

右第二第三ノ場合ニ於テハ抗告裁判所ノ決定言渡アリタルトキ若クハ送達アリタルトキヲ以テ確定  
スルモノナリ蓋シ抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スノ方法ナケレハナリ

競落ヲ許  
ササル決  
定確定ノ  
時期

第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

意解 本條ハ第六百七十八條ニ於テ天災其他ノ事變ニ因リ差押不動産カ著シク毀損シタルカ爲メ最高價競買人カ其競買ノ申出ヲ取消シタルヨリ競落ヲ許スニ至ラザリシ場合ノ結果ヲ規定シタルモノニシテ此場合ニ於テハ第六百五十四條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用シテ更ニ新ナル評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トシテ不動産上ノ負擔及ヒ執行費用ヲ辨濟シテ剩餘ヲ得ルノ見込アリヤ否ヤヲ觀察シテ再ヒ競賣ニ附スル爲メ新競賣期日ヲ定ムルカ或ハ競賣手續ヲ取消スヘキヤヲ決スヘキモノトス而シテ若シ再競賣ニ附スヘキトキハ爾後ノ手續ハ一般ノ場合ニ於ケル手續ニ依ルヘキコト勿論ナリトス

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

意解 本條ハ執行裁判所カ爲シタルト抗告裁判所カ爲シタルトヲ問ハス競落ヲ許ス決定アリタル場合ノ效力ヲ定メタルモノトス即チ競落ヲ許スヘキ旨ノ決定アリタルトキハ其決定ノ確定ヲ俟タス其言渡若クハ送達ト同時ニ競落人ハ其不動産ノ所有權ヲ取得スルノ效力ヲ生スルモノトス而シテ競落人カ代金ヲ支拂ヒタルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス然レトモ若シ代金支拂ノ期日ニ於テ代金ノ支拂ヲ爲ササルトキハ再競賣ニ附セラルヘキモノナレハ競落人ハ解除條件付ニテ其所有權ヲ取得スルモノト謂ハサルヘカラス

競落ヲ許ス決定ノ效力

競落人ノ所有權取得ノ本質

以上ノ所有權ノ取得ハ當事者ノ合意ニ因ルモノニアラスシテ裁判ニ依リテ生スルモノナルカ故ニ所有者ノ意思如何ヲ問ハス又其不動産カ債務者ノ所有ニ屬シタルト將タ第三者ノ所有ニ屬スルトヲ問ハス競落決定ノミニ依リ當然ニ其效力ヲ生シ假令登記ヲ爲ササルモ競落人ハ其所有權ノ移轉ヲ第三者ニ對抗シ得ルモノトス  
右ノ如ク競落ヲ許スノ決定ハ直チニ競落人ヲシテ所有權ヲ得セシムルノ效果ヲ生スルヲ以テ其決定以後ハ其不動産ニ對スル公課並ニ天災不可抗力ニ因ル滅失毀損ハ總テ競落人ノ負擔ニ歸シ隨テ之ヨリ生スル利益ヲモ亦之ヲ取得スルコトヲ得ルモノナリ

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ  
債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

意解 本條ハ競落ヲ許ス決定ニ因リ競落人ノ所有ト爲リタル不動産ノ引渡ニ關スル規定ナリ  
競賣セラレタル不動産ハ前條ノ規定ニ依リ競落ヲ許ス決定カ效力ヲ生スルト同時ニ其所有權ハ競落人ニ移轉スルト雖モ競落人ハ其代金ヲ支拂ヒタル後ニアラサレハ其引渡ヲ請求スルコトヲ得サルモ

競落不動産ハ代金支拂ノ後ニアラサレハ其引渡ヲ爲サス

競落決定  
ヨリ代金  
支拂込  
不助産ノ  
管理方法

ノトス蓋シ普通ノ賣買ニ於テモ特別ノ契約アルニアラサレハ目的物ノ引渡ト其代金ノ支拂トハ之ヲ同時ニ爲スヘキヲ原則トスルモノナレハナリ

然レトモ既ニ競落アリタル不動産ヲ代金ノ支拂アル迄債務者ノ占有中ニ置クハ極メテ危険ナルヘキヲ以テ利害關係人ノ申立アルトキハ執行裁判所ハ特別ニ管理人ヲ選任シテ其不動産ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ命スヘキモノトス此場合ニ於テ若シ債務者カ管理人ニ不動産ノ引渡ヲ拒ムトキハ裁判所ハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リテ別ニ執行力アル正本ヲ要セス強制執行ノ續行トシテ直チニ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシムヘキモノトス而シテ之ニ要セシ費用ハ即チ所謂強制執行上ノ必要費用ト爲ルモノナリ

第六百八十八條

競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ二日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣ノ手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

再競賣ヲ  
爲スヘキ  
場合

意解 本條ハ即チ再競賣ヲ命スヘキ場合ノ規定ニシテ一度競落許可ノ決定ヲ爲シ其決定確定シテ代金

支拂ノ期日ヲ定メタルモ競落人カ其期日ニ代金ノ支拂ヲ爲ササルトキハ執行裁判所ハ直チニ職權ヲ以テ再競賣ヲ命スヘキモノナリ蓋シ不動産ノ強制競賣ハ債權ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者ノ不動産ヲ換價スルノ目的ニ出ツルモノナレハ其代金ニシテ支拂ハレサルトキハ其目的ヲ達スルコト能ハサルヘケレハナリ而シテ此場合ニ於ケル再度ノ競賣ハ敢テ其目的物タル不動産ノ状態ニ變更ヲ來タシタルニ因ルモノニアラスシテ前ニ解除條件付ニテ其所有權ヲ得タル競落人カ代金支拂期日ニ支拂ヲ爲ササルカ爲メ條件ノ成就トシテ前ニ爲サレタル競落決定カ當然其效力ヲ失フニ至リタル結果ニ基クモノナルカ故ニ新ニ最低競賣價額及ヒ賣却條件ヲ定ムルコトヲ要スルモノニアラスシテ最初ニ定メタル最低競賣價額其他ノ賣却條件ハ其儘之ヲ適用スヘキモノトス

再競賣ノ  
期日

右ノ再競賣ハ少ナクトモ支拂期日ヨリ十四日ノ後ニ於テ其期日ヲ指定スヘキモノニシテ其指定ノ方法ハ再競賣ノ命令中ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

以上ノ如ク競落人カ代金支拂期日ニ支拂ヲ爲ササルトキハ直チニ再競賣ヲ命スヘキモノナリト雖モ法律ハ便宜上一ノ變例ヲ設ケ競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂フトキハ此再競賣手續ヲ取消スヘキモノト爲セリ蓋シ富豪ノ者ト雖モ金融上ノ都合ニ因リ一時支拂ヲ爲スコト能ハサルノ場合ヲ生スルコトアルハ數ノ免カレサル所ニシテ此等ノ者ヲシテ直チニ買取ノ權利ヲ喪失セシムルハ少シク酷ニ失スルト同時ニ他方ニ於テ再競賣ヲ實施スルニ於テハ尙ホ多少ノ費用



再競賣實施ノ場合ニ於ケル前ノ競落人ノ義務

ヲ要スヘキヲ以テ遅レタリト雖モ未タ再競賣實施前ニ於テ代金並ニ其時マテニ生シタル再競賣手續ノ費用ヲ支拂フニ於テハ再競賣ノ命令ヲ取消シテ前ノ競落人ニ確定ノ所有權ヲ得セシムルハ無益ノ費用ヲ要セスシテ却テ利益ナルヘケレハナリ此場合ニ再競賣手續ノ費用ヲモ負擔セシムルハ斯ル費用ハ其者カ義務ヲ怠リタルヨリ生シタルモノナルカ故ニ外ナラス  
再競賣ヲ實施スルトキハ前ノ競落人ハ其競買ニ加入シテ再度ノ競落人ト爲ルコトヲ得サルノ外左ノ義務ヲ負擔セシメラルルモノトス

第一 再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ其不足額ヲ辨償スルノ責任ヲ負フ但シ反對ニ高價ニ賣却セラレタルトキト雖モ其剩餘額ヲ請求スルノ權利ヲ有スルモノニアラス

第二 再競賣手續ノ費用ヲ負擔セシムルコト  
以上ノ如キ制裁ヲ加フルハ蓋シ其差額並ニ費用等ハ其者カ義務ヲ履行セサルヨリ生シタルモノナルヲ以テ其者ヲシテ之ヲ負擔セシムルヲ以テ最モ條理ニ適スルト且ツハ之ニ依リテ代金支拂ノ義務ヲ怠ル者ノ續出ヲ防カントスルノ旨趣ニ外ナラス

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ  
最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

憲解 本條ハ共有不動産ノ持分ニ付テ強制競賣ヲ爲スヘキ場合ニ關スル特別規定ナリ蓋シ不動産ノ持分ト雖モ亦固ヨリ不動産ノ所有權ニシテ賣買移轉スルコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ普通一般ノ場合ト同一ニ取扱フヘキカ如クナルモ其性質上ヨリスレハ大ニ然ラサルモノアルヲ以テ茲ニ其特別規定ヲ設クルノ必要ヲ生スルモノトス而シテ其特別ナル手續ハ第六百五十一條ニ依リ賣制競賣ノ申立テアリタルトキハ之ヲ登記簿ニ記入スルニ當リ特ニ持分ニ付キ強制競賣ノ申立テアリタルモノナルコトヲ記入シ且ツ其申立アリタルコトヲ他ノ共有者ニ通知スヘキモノトス蓋シ他ノ共有者ハ競賣ノ結果其共有者ヲ變更スルニ至リ利害ノ關係ヲ及ホスコト大ナルモノアルノミナラス且ツ其ノ他ノ共有者ヲシテ競落人タラシムルハ共有關係ヲ消滅セシムルノ利益アルヲ以テ之ヲ知ラシムルノ機會ヲ與フルノ必要アレハナリ

共有不動産ノ持分ノ強制競賣

右ノ場合ニ於テ差押物ノ最低競賣價額ヲ定ムルノ方法ハ其共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ有スル持分ニ應シテ之ヲ定ムヘキモノトス

第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

憲解 本條ハ競落ヲ許スコトナクシテ差押不動産ニ對スル競賣ノ申立カ完結シタル場合ニ於ケル差押記入ノ登記ノ抹消方法ヲ規定シタルニ過キササルモノニシテ特ニ説明ヲ要スヘキモノナシ

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

**意解** 本條ハ競落ヲ許ス決定確定シタルトキハ債權者カ一人ナルカ若クハ數人アルモ其賣却代金カ總テノ債權者ヲシテ満足セシムルニ足ルトキハ直チニ其債權額ニ應シテ其代金ヲ分配スヘキモ若シ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルトキハ次條以下ノ手續ヲ經テ民法商法其他ノ實體法ニ基キ定マリタル債權者ノ優劣順位若クハ平等ノ關係ニ於テ配當ヲ實施スヘキモノナルコトヲ明示シタルニ過キス

**第六百九十二條** 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

**意解** 本條ハ動産ニ對スル強制執行ノ配當手續タル第六百二十七條ノ規定ト等シク配當表ノ作成ニ資スルカ爲メ計算書ノ差出ニ關スル規定ナルモ其相異ナル所ハ彼ニ在リテハ執行裁判所ニ於テ配當準備トシテ各債權者ニ其債權ノ計算書ノ提出ヲ催告シテ豫メ配當表ヲ作り之ヲ備ヘ置クヘキモノナルモ此ニ在リテハ各債權者ハ裁判所ヨリノ催告ヲ埃タス自ラ進ンテ競落期日迄テニ其債權ノ計算書ヲ差出ササルヘカラサルノ點ニアリトス然レトモ若シ債權者中其計算書ヲ差出ササル者アルトキハ執行裁判所ハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用シテ配當要求書、事情届出書及ヒ其他ノ證憑書類ニ基キ之ヲ計算シテ配當表ニ記入スヘキモノトス而シテ此場合ニ於テハ計算書ヲ差出ササリシ債權者ハ後日ニ至リ之ヲ補充スルコトヲ得サルナリ

配當ノ爲メニスル計算表ノ提出

**第六百九十三條** 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

代金支拂ノ期日

**意解** 本條ハ代金ノ支拂及ヒ配當ヲ爲スノ期日ニ關スル規定ニシテ此期日ハ執行裁判所カ自ラ言渡シタル決定ナルト將タ抗告裁判所カ言渡シタル決定ナルトヲ問ハス競落ヲ許ス決定確定シタルトキハ執行裁判所ニ於テ職權ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス而シテ此期日ハ代金ノ支拂ヲ爲シ又ハ配當ノ實施ヲ爲スモノナルヲ以テ支拂ノ爲メ又ハ配當表ニ關スル陳述ヲ爲スノ機會ヲ與フルカ爲メ若クハ配當ノ實施ヲ爲スニ付テノ必要アルカ爲メ競落人ハ勿論利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ呼出ス可キモノトス

**第六百九十四條** 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金錢ヲ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

賣却代金  
ノ範圍

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

憲解 本條ハ前條ノ規定ニ依リテ定マリタル期日ニ於ケル代金支拂ノ手續ヲ定メタルモノニシテ執行裁判所ニ於テハ其期日ニ至レハ先ツ其第一着ニ競落人カ支拂フヘキ金額即チ各債權者カ配當ヲ受クヘキ金額カ幾何ナルカラ確定スヘキモノトス而シテ茲ニ確定スヘキ金額ハ配當ニ關スル條項中ニ所謂賣却代金ニシテ左ノ二箇ノモノヲ包含スルモノトス

(一) 代金 即チ競落許可ノ決定中ニ掲ケタル不動産ノ代金ナリ

(二) 利息 此利息ハ常ニ之ヲ生スヘキモノニアラス民法ノ規定ニ依レハ賣買ノ目的物カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ買主ハ利息ヲ支拂フヘキ義務アルコトヲ定メラレタリ本條モ亦之ニ倣ヒタルモノニシテ唯其民法ト異ナル所ハ民法ニ於テハ引渡ノ日ヨリ云々ト規定スルモ執行ノ手續ニ於テハ引渡前ト雖モ競落ノ決定言渡シアレハ前所有者ノ占有ヲ解キ買主ノ爲メニ任シタル管理人ニ引渡サシムルコトヲ得ルカ故ニ此決定言渡シアリタルトキハ引渡アリタルト等シク競落人ハ右決定アリタルヨリ以後其代金ノ支拂マテ法律上ノ利息ヲ支拂フヘキ義務アリト定メラレタルノ點ナリトス

以上ノ賣却代金ハ競落人ニ於テ其期日ニ裁判所ニ對シテ之カ支拂ヲ爲ササルヘカラス若シ競落人カ競賣ノ際ニ擔保ノ爲メニ供託シタル金員アルトキハ之ヲ以テ其代金ノ一部ニ充當シ其殘額ヲ支拂フヲ以テ足ルモノトス

賣却代金  
ノ支拂ハ  
何人ニ爲  
スヘキナ  
ス

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

憲解 本條ハ配當表確定ノ手續ヲ定メタルモノナリ即チ代金支拂及ヒ配當ノ期日ニ於テハ前條ノ規定ニ從ヒ賣却代金ヲ定メタル後第六百九十三條第二項ニ依リ呼出サレタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ其配當表ヲ確定スヘキモノトス蓋シ配當表ノ正確ナランコトヲ期スルカ爲メニ外ナラス

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

憲解 本條ハ配當表ニ掲クヘキ事項ヲ定メタルモノニシテ其事項左ノ如シ

- (一) 賣却代金 即チ第六百九十四條ニ規定スルモノ
  - (二) 各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用
  - (三) 配當ノ順位 此順位ハ實體法ノ規定ニ依リテ定マルモノトス
  - (四) 配當ノ割合 是亦實體法ニ依リテ定マルモノトス
- 右ノ(三)(四)ノ場合ニ於テハ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ

配當表確  
定ノ手續

要求スル債権者ノ一致シタルトキハ必スシモ法定ノ順位、割合等ニ依ルコトヲ要セス其一致ニ基キ配當ノ順位並ニ割合ヲ定メテ配當表ヲ作成スヘモノトス蓋シ公益ニ關スルモノニアラサレハナリ

第六百九十七條

配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

意解

本條ハ配當表ニ對スル異議ノ完結並ニ配當表ノ實施ニ關シテ適用スヘキ規定ヲ指示シタルモノトス即チ確定シタル配當表ニ對シ異議ノ申立ヲ爲ス者ナキトキハ直チニ其配當表ニ從ヒテ配當ヲ實施スヘキモノナルモ若シ異議ノ申立アリタルトキハ直チニ配當ヲ爲スコト能ハスシテ必ス其異議ノ當否ヲ裁判シテ之ヲ完結セシメタル後ニアラサレハ其配當ノ實施ヲ爲スコトヲ得サルモノトス而シテ其異議完結ノ手續及ヒ配當實施ノ手續ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限りハ動産ニ對スル強制執行ノ手續タル第六百二十條以下ノ規定ヲ準用スヘキモノトス

第六百九十八條

期日ニ出頭シタル債務者ハ各債権者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債権者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債権者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百

四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

急解

本條ハ債務者又ハ債権者ノ配當表ニ對スル異議申立ノ權利ニ關スル規定ニシテ配當表ニ對シ異

配當表ニ對スル異議完結ノ手續

配當表ニ對シテ異議申立タル者ノ得ルコト

議ヲ主張セントスルニハ債権者タルト債務者タルトヲ問ハス必ス其期日ニ出頭シタルコトヲ必要トス故ニ期日ニ出頭セザリシモノハ如何ニ其配當表ニ對シテ不服ナルモ之ヲ主張スルコトヲ得サルモノナリ左ニ債務者カ異議ヲ申立ツル場合ト債権者カ異議ヲ申立ツル場合ニ區別シテ説明セン

第一 債務者カ異議ヲ申立テ得ル場合

甲 配當表ニ依リテ定マリタル各債権者ノ債權其モノニ對シ異議アルトキ

乙 債權其モノニハ異議ナシト雖モ之ニ附隨スル順位ニ付キ異議アルトキ

右二箇ノ場合ニ於テハ債務者ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモ若シ其異議ニシテ執行力アル正本ニ依ル債権者ノ債權ニ對スルモノナルトキハ其異議ノ完結手續ハ確定シタル請求ニ關スル異議ノ規定タル第五百四十五條、第五百四十七條、第五百四十八條ノ規定ニ依ルモノトス

第二 債権者モ亦他ノ債権者ノ債權又ハ順位ニ付キ配當表ニ對スル異議ヲ申立ツルコトヲ得ルモノ

ナリ但シ自己ノ利害ニ關係アル場合ニ限ルヘキハ勿論ナリ蓋シ自己ノ利害ニ關係ナキモノハ假令配當表ニ不當ノ點アリト雖モ之ヲ主張セシムルノ必要ナキノミナラス之ヲ許スニ於テハ却テ配當實施ヲ遅延スルノ弊害ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ

第六百九十九條

競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債権者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債権者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限りハ買入代金

賣却代金  
支拂ノ變

競落人カ  
債權者ノ  
一人ニア  
ラサルト  
キサルト  
債務ノ引

競落人カ  
債權者ノ  
一人ナル  
トキ相殺

トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ  
對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

憲解 本條ハ競落人ノ賣却代金支拂ニ付テノ變例ヲ定メタルモノナリ即チ競落人ハ賣却條件ニ因リ不  
動産ノ負擔ヲ引受クルノ外第六百九十三條及第六百九十四條ノ規定ニ從ヒ支拂期日ニ賣却代金ノ支  
拂ヲ爲ササルヘカラサルヲ本則トス然レトモ本條ニ於テハ左ノ二箇ノ場合ニ於テ現實ノ支拂ニ換ヘ  
其支拂義務ヲ了リタルモノト爲セリ

甲 競落人カ債權者ノ一人ニアラサルトキハ代金支拂及ヒ配當實施ノ期日ニ於テ關係債權者ノ承諾  
ヲ得タルトキハ其買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限度トシテ債權者ニ對スル債務ヲ引受ケ以テ代金支拂  
ニ換ユルコトヲ得ルモノトス而シテ此場合ニ於ケル債務ノ引受ハ債務者ノ交代ニ依ル債務ノ更改  
ト爲ルモノナルカ故ニ本債務者ハ之ニ因リテ其債務ノ全部又ハ一部ヲ免カレ競落人ハ買入代金ノ  
支拂ヲ了ハリタルト同一ノ效果ヲ生スルモノトス

乙 競落人カ債權者中ノ一人ナルトキハ自己ノ債權ノ配當額ノ買入代金ニ滿ツルヲ限度トシテ差引  
計算ヲ爲シ以テ其殘額ヲ支拂フニ依リテ代金支拂ノ義務ヲ完済スルコトヲ得ルモノトス換言スレ  
ハ此場合ニ於テハ債權者タル競落人ハ自己ノ有スル債權ト其代金支拂ノ義務トヲ其債權ノ對當額  
ニ於テ相殺ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ  
以上ノ如ク競落人ハ債務ノ更改又ハ相殺ヲ以テ代金支拂ノ義務ヲ完済スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ

利害關係  
人ヨリ異  
議ノ申立  
アルトキ  
ハ右ノ手  
續ニ依リ  
テコトヲ  
得

配當表ヲ  
實施シタ  
ル後登記  
ノ事ニ登  
記スヘキ  
事

其引受ケントスル債務又ハ其相殺ヲ爲サントスル債權ニ對シ適當ナル異議ヲ主張スル者アルトキハ  
之ニ相當スル代金ヲ現金ニテ支拂フカ若クハ其異議ノ完結スルニ至ルマテ相當ナル保證ヲ立テテ始  
メテ更改又ハ相殺ヲ爲スヘキモノトス蓋シ適法ナル異議ノ申立ハ後ニ其債權債務ヲ變更スルヤモ知  
ルヘカラサレハナリ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シ左  
ノ諸件ヲ囑託ス可シ

- 第一 競落人ノ所有權ノ登記
  - 第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消
  - 第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消
- 右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ

憲解 本條ハ配當裁判所ヨリスル登記ノ囑託ニ關スル規定ナリ即チ配當裁判所ニ於テ配當表ヲ實施シ  
了リタルトキハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ其事項ノ登記ヲ囑託スヘキモノ  
トス

第一 競落人ノ所有權ノ登記 通常ノ場合ニ於ケル不動産ノ賣買ハ其當事者双方ヨリ所有權移轉ノ  
登記ヲ申請スヘキモノナルモ強制競賣ノ場合ニ於テハ其登記ハ執行手續ノ一部トシテ配當裁判所  
ヨリ直接其登記ヲ囑託スルモノトス是レ競落人ノ權利確保ノ爲メニ外ナラス

**第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消** 競落人ハ特別ノ意思表示ヲ爲ササル限りハ買入代金ノ支拂後ニ於テ不動産上ノ負擔ヲ引受クヘキモノニアラサルカ故ニ(第六四九條參照)既ニ代金ノ支拂ヲ完済シテ配當表ノ實施セラレタル後ハ其不動産上ノ負擔ノ附記登記ヲ存置スルノ必要ナキノミナラス却テ競落人ニ不利益ヲ被ラシムルノ虞アルヲ以テ之カ抹消ヲ爲スヘキモノナルニ因ル

**第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消** 即チ競賣ノ申立アリタルトキハ其旨ヲ登記簿ニ記入スヘキモノナルモ既ニ競賣ヲ終リ配當ヲ實施シタル後ニ於テハ其申立ノ效果ヲ奏シタルモノナルヲ以テ其記入ヲ抹消スヘキヲ當然トスルニ因ル

以上ノ登記及ヒ抹消ニ關スル費用ハ總テ競落人ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノトス蓋シ競落人ノ利益ノ爲メニ生スル費用ナレハナリ

**第七百一條** 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

**憲解** 本條ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ第六百十九條ノ規定ト同一ノ旨趣ニ出ツルモノニシテ數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ不動産ノ競賣ヲ爲スニハ如何ナル手續ニ依ルヘキカヲ定メタルモノニシテ特ニ説明ヲ要スヘキ點ナシ

**第七百二條** 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

不動産ノ強制競賣ノ入札方法ニ依ルコトヲ得

定ヲ準用ス

**憲解** 本條ハ不動産ノ強制競賣ノ實施方法トシテ競賣ニ換ヘ入札拂ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノトス蓋シ我國從來ノ慣習トシテ不動産ヲ公賣ニ付スルトキハ一般ニ入札拂ノ方法ヲ採リ來レルヲ以テ公私共ニ其慣習ニ馴レ競賣ノ方法ヨリハ寧ロ入札拂ヲ便利ト爲スモノ尠ナカラサレハナリ而シテ此入札拂ノ方法ヲ採用スルニハ利害關係人ハ競賣期日ノ公告前ニ其申出ヲ爲スコトヲ要シ又執行裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ命スル場合ニモ期日ノ公告前ニ之ヲ決スルコトヲ要シ且ツ其公告ニハ入札拂ノ方法ニ依ルヘキコトヲ明示スヘキモノトス尙ホ其手續ハ以下三條ニ特別ノ規定存スル外ハ總テ前數條ノ規定ニ依ルヘキモノナリ

**第七百三條** 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 入札人ノ氏名及ヒ住所
- 第二 不動産ノ表示
- 第三 入札價額

**憲解** 本條ハ入札ヲ爲サントスル者ノ遵守スヘキ手續ヲ定メタルモノニシテ入札ヲ爲サント欲スル者ハ入札期日ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル入札書ヲ執達吏ニ差出シテ之ヲ爲スヘキモノトス

(一) 入札人ノ氏名及ヒ住所 是レ即チ何人カ入札ヲ爲シタルモノナリヤヲ明カナラシメンカ爲メ

民事訴訟法通義 第六編 強制執行 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

入札ノ方法  
入札ニ掲  
クヘキ事  
項

ナリ

(二) 不動産ノ表示 即チ如何ナル不動産ニ付テ入札ヲ爲スヤヲ表示セシムルニ外ナラス

(三) 入札價額 此價額ハ必ス一定ノ金額ヲ以テ明示セサルヘカラスシテ他人ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ之ヲ表示スルカ如キハ次條第二項ノ禁止スル所ナリ故ニ例ヘハ最モ高キ入札ヨリ幾何ノ高價ト記載シタルカ如キ入札ハ其效力ナキモノトス

以上三箇ノ要件ハ其記載ノ順序體裁等ハ別ニ制限スル所ナシト雖モ之ヲ執達吏ニ差出スニハ必ス密封シテ之ヲ爲スヘキモノトス

第七百四條

執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

開札ノ手

急解 本條ハ入札ノ終局ヲ爲スニ付テノ執達吏ノ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノトス即チ執達吏ハ入札期日ヲ開ク旨ヲ告知シタル時ヨリ一時間ヲ經過シタル後其期日ニ出頭シタル各入札人カ總テ入札ヲ爲シ終リタリト認ムルトキハ各入札人ノ面前ニ於テ公然入札ヲ開封シ之ヲ朗讀シテ各入札人ニ知ラシメ前條規定ノ要件ヲ具備シタル入札ニシテ且ツ最モ高價ナルモノニ付キ第六百六十六條ノ規定ニ

二箇以上  
同一價額  
ノ入札アル  
場合

準シテ最高價入札人トシテ其氏名及ヒ價格ヲ呼上ケ入札ノ手續ヲ終局スヘキモノトス然レトモ若シ其最高價額ニシテ二人以上同一ナルモノアルトキハ直チニ右ノ手續ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ執達吏ハ其同一價額ノ入札ヲ爲シタル者ニ追加ノ入札即チ前入札價額ニ何程ノ追加ヲ爲スヤヲ入札セシメテ其最高價ノ入札ヲ定ムヘキモノトス

第七百五條

最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ

求ヲ受クルモノ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差等ヲ負擔スル義務アリ

最高價入  
札人カ保  
證ヲ立テ  
サル場合  
ノ效果

急解 本條ハ前條ノ規定ニ依リテ最高價入札トシテ呼上ケラレタル者カ請求ニ基キ保證ヲ立テサル場合ノ救済方法ノ規定ナリ即チ前條ノ規定ニ依リ最高價入札人トシテ呼上ケラレタル者ニ對シ利害關係人カ信用ヲ置カサルトキハ第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツヘキコトヲ求ムルコトヲ得ヘシ而シテ此申立アリタルニ拘ハラズ入札人カ若シ其保證ヲ立テサルトキハ執達吏ハ最初ノ呼上ヲ取消シ次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト爲シ更ニ呼上ヲ爲スヘキモノトス此點ハ大ニ競賣ノ場合ト異ナル所ナリ

右ノ場合ニ於テハ最初ニ呼上ヲ受ケタル入札人ハ自己ノ入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スルノ義務アルモノナリ蓋シ此差額ハ其者カ保證ヲ立テサルヨリ生シタル結果ナレハナリ

第三款 強制管理

民事訴訟法通義

第六編 強制執行 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行





強制管理  
開始決定  
ニ於テ命  
スヘキ事  
項

強制管理  
決定ノ第  
三者ニ對  
シテ效力  
ヲ生スル  
キ時期

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來スヘキ果實ハ收益ニ屬ス  
開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス  
意解 本條ハ強制管理ノ開始決定ノ方法並ニ其效力ニ關スル特別規定ナリ即チ強制管理ノ開始決定ニ  
ハ第六百四十四條第一項ノ準用ニ依リ債權者ノ爲メニ強制管理トシテ不動産ヲ差押フルコトヲ命ス  
ルノ外左ノ三箇ノ事項ヲ命セサルヘカラス  
(一) 債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルヲ禁スルコト  
(二) 債務者カ該不動産ノ收益ヲ一切處分スルヲ禁スルコト  
(三) 第三者カ給付スル收益ハ其後一切之レヲ管理人ニ爲スヘキ旨ヲ命スルコト 茲ニ所謂第三  
者トハ例ヘハ其不動産ノ賃借人ノ如キヲ謂フ

第二項ハ不動産ノ收益トシテ強制管理ノ決定ノ效力ヲ及ホスヘキ果實ノ範圍ヲ定メタルモノナリ  
第三項ハ強制管理開始決定ノ第三者即チ其不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス者ニ對シテ效力ヲ生スルノ時  
期ヲ定メタルモノトス即チ強制管理開始決定ニ基ク差押ノ效力ハ債務者ニ對シテ其決定ヲ送達シタ  
ルノミニテハ未タ第三者ニ對シテ效力ヲ生スルモノニアラスシテ其決定ヲ送達スルニヨリ  
テ始メテ效力ヲ生スルモノトス隨テ此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ササルヘカラス  
第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ  
開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

強制管理  
開始決定  
ニ對シテ  
他ノ債權  
者ノ效力  
スル者

強制管理  
於ケル配  
當要求ノ  
要件  
配當要求  
權者ヲ執  
行力アル  
正本ヲ有  
スル者ニ  
限リタル  
理由

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消  
ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス  
假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

意解 本條モ亦強制管理開始決定ノ效力ヲ定メタルモノニシテ即チ一度ヒ強制管理開始ノ決定アリタ  
ル後ハ其效力トシテ同一不動産ニ付キ再ヒ管理開始ノ決定ヲ爲スヘキモノニアラス隨テ其後ノ申立  
ニ基キ同一不動産ニ付キ更ニ開始ノ決定ヲ爲スモ其決定タルヤ何等ノ效力ヲ生スルモノニアラス然  
レトモ右ノ申立ハ之ヲ執行記録ニ添附スルトキハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理  
カ取消ト爲リタルトキハ其申立ニ因リ開始決定ヲ受ケタルノ效力ヲ生スルニ至ルモノトス  
右ノ同一不動産ニ付キ更ニ開始決定ヲ爲スヲ許ササルノ規定ハ前ノ決定カ假差押命令ニ基クモノナ  
ルトキハ之ヲ適用セサルモノトス此點ニ付テハ第五百八十六條第四項ノ説明ヲ參照セラルヘシ

第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサ  
ル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコシ  
意解 本條ハ配當要求ヲ爲スニ付テノ要件ヲ規定シタルモノニシテ左ノ如シ

第一 執行力アル正本ニ因リ配當要求ヲ爲スコトヲ要ス 此制限ハ舊民法ノ規定ヨリ生シタル遺物  
ナリ即チ舊民法ニ於テハ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲スコトヲ得セシムルハ債務者  
ノ財産カ總テノ義務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキ又ハ債務者ノ財産ハ全部カ他ノ債權者ノ爲メニ

差押ヲ受ケタルコトヲ要件ト爲ス(舊民法擔保編第一條同 財產編第四〇五條參照)然ルニ強制管理ニ於テハ不動産其モノハ執行ノ目的物トシテ差押ヲ受ケタルニアラス又民法ノ規定ニ依リ其財産ノ大部分カ差押ヲ受ケタルニアラサレハ未タ總テノ債務ヲ辨濟スルコト能ハサルモノト云フコト能ハサルカ故ニ此ノ如キ制限ヲ設ケタルナリ然レトモ現行民法ニ於テハ右ノ如キ區別ヲ認メサルカ故ニ現行法ノ下ニ於テハ甚タ理由ナキ規定ト言ハサルヘカラス隨テ改正草案ニ於テハ斯ル規定ヲ理由ナキモノトシテ之ヲ削除シ執行力アル正本ニ因ラサル債權者モ亦配當要求ヲ爲シ得ルモノト爲セリ

**第二** 執行裁判所ノ所在地ニ假住所ヲ選定スルコト 但シ執行裁判所ノ所在地ニ住居事務所等ヲ有セサル者ニ限ル

**第七百十條** 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

**憲解** 本條ニ於テ配當要求者アル場合ニ執行裁判所ヲシテ債權者、債務者、管理人ニ對シ其旨ヲ通知セシムル所以ハ此等ノ者ニ配當ノ協議ヲ爲スニ付テ之ヲ知ラシムルノ必要アルカ爲メニ外ナラス

**第七百十一條**

管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執行吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

**憲解** 本條ハ管理人ノ選任及ヒ其權利ニ關スル規定ナリ

管理人ハ執行裁判所ニ於テ之ヲ選任スヘキモノニシテ其如何ナル者ヲ以テ之ニ充ツヘキカハ全ク裁判所ノ自由ナル意見ニ依ルヘキモノトス然レトモ債權者ニ於テ適當ナリト認ムル者在ルトキハ之ヲ推薦スルコトヲ得ルモノトス但シ其取捨ハ裁判所ノ任意ナリ

裁判所ニ於テ選任セラレタル管理人ハ左ノ權限ヲ有ス

(一) 管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メニ自ラ其不動産ヲ占有スルノ權利ヲ有ス 此場合ニ於テ若シ抵抗ヲ受クルトキハ執行吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

(二) 管理人ハ債務者ニ代リテ第三者ノ給付スヘキ收益ヲ取立ツルノ權利ヲ有ス 若シ第三者カ其給付ヲ拒ムトキハ管理人ハ訴ヲ提起シテ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

**第七百十二條**

裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

**憲解** 本條ハ強制管理ニ關スル執行裁判所ノ指揮監督ヲ定メタルモノニシテ執行裁判所ニ於テハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シテ必要ナリト認メタルトキハ左ノ行爲ヲ爲スヘキモノトス

管理人ニ  
對スル執  
行裁判所  
ノ指揮監  
督ノ方法

七三〇  
(一) 管理人ニ對シ不動産ノ管理ニ關スル必要ナル指導ヲ爲スヘキコト 即チ不動産ヲ完全ニ保  
存シ且ツ相當ナル收益ヲ得ヘキ方法ヲ定ムルカ如シ此場合ニ若シ必要アレハ鑑定人ヲ立會セシ  
ムルヲ得

(二) 管理人ニ與フル一定ノ報酬ヲ定ムルコト 此場合ニモ鑑定人ヲ用フルコトヲ得

(三) 管理人ノ業務施行ヲ監督スルコト 此監督ハ一々其行爲ヲ指導スルモノニアラスシテ適當  
ニ管理權ヲ行使スルヤ否ヤヲ監督シ且ツ其管理行爲ニ付キ疑ヲ生シ又ハ異議アルトキハ之ニ對  
シテ判斷ヲ與フルニ在リトス

(四) 監督上必要ト認ムルトキハ管理人ヲシテ保證ヲ立テシムルコト

(五) 管理人ニ不當ノ行爲アリタルトキハ其職ヲ免シ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡スコト

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百  
四十九條ノ規定ヲ準用ス

強制管理  
ニ對スル  
第三者ノ  
異議

意解 本條ハ第三者カ強制管理ノ目的タル不動産ニ付キ其強制管理ヲ妨クル權利ヲ主張スル場合ニ於  
ケル手續ヲ定メタルモノニシテ總テ強制執行ノ總則タル第五百四十九條ノ規定ヲ準用スルモノナレ  
ハ第三者カ如何ナル場合ニ斯ル權利ヲ有スルヤ又其權利主張ノ方法竝ニ其後ノ手續ニ付テハ總テ同  
條ノ說明ヲ參照スヘシ

第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ

公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者  
間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ  
規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

強制管理  
ニ因リテ  
得タル收  
益ノ處分  
方法

意解 本條ハ強制管理ニ因リテ得タル收益ノ處分方法ヲ規定シタルモノナリ即チ管理人ハ不動産ノ收  
益ヲ取立テタルトキハ其中ヨリ該不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シ且ツ其管理ノ費用  
(此管理ノ費用中ニハ管理人カ受クヘキ報酬ヲモ包含ス)ヲ辨濟シ其殘額ヲ債權者ニ對スル辨濟ニ充  
ツヘキモノトス而シテ此手續ハ收入時期毎ニ爲スヘキヤ又ハ毎年末ニ之ヲ爲スヘキヤハ執行裁判所  
ニ於テ豫メ之ヲ定ムヘキモノトス

債權者カ數人アル場合ニ於テ若シ其配當ニ付キ協議調ハサルトキハ管理人ニ於テ其配當ヲ爲スコト  
ヲ得サルカ故ニ管理人ハ其協議調ハサル旨ヲ執行裁判所ニ届出テ執行裁判所ヲシテ其配當ヲ實施セ  
シメサルヘカラス

執行裁判所ニ於テ右ノ届出テヲ受ケタルトキハ強制競賣ノ配當ニ關スル第六百九十一條及ヒ第六百  
九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ其配當表ヲ作り管理人ヲシテ之ニ基キ各債權者ニ對  
シテ其支拂ヲ爲サシムヘキモノトス

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差

民事訴訟法通義

第六編

強制執行

第二章

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

七三一

七三一

出ス可シ  
各債権者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

管理人ノ計算

右ノ計算ニ對スル立異議ノ申

右ノ異議ニ對スル裁判

意解

本條ハ管理ノ計算ニ關スル規定ナリ管理人ハ其管理中常ニ各債権者ノ債権額ト收益上ノ支拂額トヲ比較計算シ居ラサルヘカラサルモ其業務施行ノ終了後ハ特ニ各債権者債務者及ヒ執行裁判所ニ對シテ其計算書ヲ差出ササルヘカラス若シ管理ノ職務カ數年ニ亘ルトキハ毎年度ノ終ニ於テ右ノ計算書ヲ差出ササルヘカラス

管理人ヨリ右ノ計算書ノ差出シアリタルトキハ執行裁判所ハ之ヲ債権者及ヒ債務者ニ送達スヘキモノニシテ債権者又ハ債務者カ其計算書ニ異議アルトキハ其送達アリタル日ヨリ七日ノ期間内ニ其申立ヲ爲ササルヘカラス若此期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ其計算ニ付キ全ク異議ナク且ツ管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做サルルニ至ルモノトス  
然レトモ其期間内ニ異議ノ申立テアリタルトキハ執行裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後決定ノ方式ヲ

以テ其異議ノ當否ヲ裁判スヘキモノニシテ其決定ニ對シテハ第五百五十八條ニ依リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ而シテ其異議完結シタルトキ及ヒ異議ナカリシトキハ管理人ニ對シテ卸任ヲ宣言スヘキモノトス

第七百十六條

強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債権者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債権者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

強制管理ノ取消ノ方式

意解 本條ハ強制管理ノ取消ニ關スル規定ナリ抑モ強制管理ナルモノハ他ノ方法ニ依ル執行ト異ナリ其取消ヲ爲ササル限リハ幾年ニテモ繼續シ得ヘキモノナルカ故ニ之ヲ終了セシメントスルニハ必ス裁判所ニ於テ之カ取消ヲ爲ササルヘカラス而シテ其取消ハ申立ニ因リテ之ヲ爲シ又ハ執行裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ受訴裁判所カ取消ヲ命スルニ因リテ之ヲ爲スモノナリ其何レニスルモ取消ノ方式ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スモノトス今執行裁判所カ自ラ取消ノ決定ヲ爲ス場合ヲ舉示スレハ左ノ如シ

- (一) 配當ニ與カル總テノ債権者カ不動産ノ收入ヲ以テ各辨濟ヲ受ケ満足スルニ至リタルトキ
- (二) 強制管理ヲ續行スル爲メニ要スル特別ノ費用額ヲ債権者カ豫納セサルトキ

執行裁判所カ自ラ強制管理ノ取消ヲ決定スヘキ場合

受訴裁判  
所ノ命令  
ニ因リ取  
消ノ決定  
ヲ爲スヘ  
キ場合

船舶ノ意

船舶ノ強  
制執行ニ  
關シ特別  
規定ヲ設  
ケタル理  
由

- (三) 強制管理ノ目的タル不動産カ更ニ強制競賣ニ依リテ其競落決定シタルトキ
  - (四) 債權者カ強制管理ノ申立ヲ取下タルトキ
  - (五) 目的タル不動産カ天災其他ノ事變ニ依リ滅盡シタルトキ
- 右ノ外受訴裁判所ノ命令ニ依リ取消ノ決定ヲ爲スヘキ場合ハ債務者又ハ第三者カ第五百四十七條乃至第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ受訴裁判所ノ判決又ハ處分ニ因リ執行處分ヲ取消スヘキ裁判ヲ受ケタルトキナリトス第四項ハ別ニ説明ノ必要ナシ

### 第三節 船舶ニ對スル強制執行

廣ク船舶ト稱スルトキハ水ヲ航行スル一定ノ建造物ヲ指ス(建造物ナルコトヲ要スルカ故ニ筏ノ類ヲ包含セス)モノナルモ本節ニ所謂船舶トハ斯ル廣義ノモノニアラスシテ商船其他ノ海船ヲ指スモノナルコトハ第七百十七條ニ明示スル所ナリ而シテ船舶カ浮動ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ民法ニ所謂動產ノ一種ニ屬スルコトハ疑ナキ所ナリ然レトモ通常船舶ハ其價高クシテ經濟上殆ント不動産ニ類似スルヲ以テ我現行法ニ於テハ之ヲ不動産ト同一視シ船籍地並ニ船舶登記簿ノ制ヲ設ケ之ニ對スル權利ノ設定、移轉、消滅ハ不動産ト等シク登記ヲ爲サシメ又船舶ニ對シテ抵當權ヲ設定スルコトヲ認メタルヲ以テ其強制執行ヲ爲スニ付テモ亦動產ニ對スル手續規定ニ依ルコトヲ得ス爲メニ本節ノ如キ特別規定ヲ設ケテ多クノ場合ニ於テ不動産ノ強制執行ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノト爲セルナリ但シ不動産ノ強制管理ニ關スル規定ハ其性質上船舶ニ適用ナシ

商船ノ意  
海船ノ意

船舶ノ範圍

不動産  
對スル強  
制執行ニ  
關スル規  
定ヲ適用  
セザル規  
範

**第七百十七條** 商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

字解 商船トハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル船舶ヲ謂フ

其他ノ海船トハ商行為ヲ目的トセサル船舶ニシテ海洋ヲ航海スルモノヲ謂フ

意解 本條ハ本節規定ノ適用ヲ受クヘキ船舶ノ範圍及ヒ其不動産ニ對スル強制執行ノ規定ノ適用セラレヘキ範圍ヲ定メタルモノニシテ之ヲ分析説明スレハ左ノ如シ

**第一 船舶ノ範圍** 船舶ニシテ本節ノ規定ニ從ヒテ強制執行ヲ爲スヘキモノハ商船其他ノ海船ニ限ル但シ此商船海船ト雖トモ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ハ之ヲ除外セラルルモノトス蓋シ此等ノモノハ通常其價額低廉ニシテ敢テ鄭重ナル手續ニ依ラシムルノ必要ナク普通動產ニ對スル手續ニ依ラシムルヲ以テ足レハナリ

**第二 船舶ノ強制執行ニ付テハ不動産ノ強制競賣ノ規定ヲ適用スルモノトス但シ左ノ場合ニ該當セサルトキニ限ル**

甲 事物ノ性質ニ因リテ差異ヲ生スヘキトキ

船舶ニ對  
スル強制  
競賣ノ管  
轄裁判所

差押船舶  
ヲ存置ス  
ヘキ場所

乙 本節ニ於テ特別ノ規定ヲ設クルトキ

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

意解 本條ハ船舶ノ強制競賣ニ付テノ管轄裁判所ヲ定メタルモノトス元來船舶ハ海上ヲ航行スヘキモノナルヲ以テ不動産ノ如ク船籍ノアル定繫港ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト定メ又ハ豫メ一定ノ管轄裁判所ヲ定メ置クトキハ差押ノ手續上甚タ困難ヲ生スルコトアルヘキヲ以テ船舶ニ付テハ特ニ其船籍ノ在ルト否トニ關係ナク差押ノ當時碇泊スル港ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト定メタルモノトス而シテ其管轄ハ專屬トス

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

意解 本條ハ船舶差押方法ノ一部トシテ其差押船舶ヲ存置スヘキ場所ヲ定メタルモノトス蓋シ船舶ハ航行スルヲ常トスルモノナルカ故ニ若シ其自由ニ放任スルトキハ競買人等ヲシテ之ヲ熟覽スルノ機會ヲ得セシムルコトヲ得ヌ又破損ヲ生スルコトアルモ之ヲ修繕スルコトヲ得サルカ如キ不便ヲ生スルヲ以テ本條ニ於テハ差押船舶ハ其執行手續中差押ノ港ニ碇泊セシムルヲ本則トシタリ然レトモ之カ航行ヲ許スニ於テ商業上莫大ノ利益ト爲ルヘキ場合ハ總テノ利害關係人ノ申立アルニ於テハ例外トシテ其航行ヲ許スモノト爲セリ

船舶ノ強  
制競賣申  
立書ニ添  
付スヘキ  
書類

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添付ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

意解

本條ハ船舶ノ強制競賣ノ申立書ニ添付スヘキ書類ニ關スル特別規定ナリ即チ船舶ノ強制競賣ノ申立ハ債權者ヨリ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘク其書面ニハ第六百四十二條ニ掲ケタル要件ヲ具備スヘク(但シ同條第二號ノ不動産ノ表示ヲ船舶ノ表示ニ代フルコト)且ツ第六百四十三條ニ規定セル書類ニ代フルニ左ノ書證ヲ添付スヘキモノトス

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又債務者カ船長ナル場合ニハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ルヘキ證書 船長カ債務者ト爲ル場合ハ船長カ航海中其繼續ノ必要ナルカ爲メニ借財ヲ爲シ又ハ積荷ヲ費消若クハ賣却スル場合ノ如シ(商法第六八條第五七二條等參照)

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記シアル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタ

ル登記簿ノ抄本 蓋シ船舶ノ性質等ヲ明瞭ナラシメ且ツ其船舶上ニ權利ヲ有スル者アリヤ否ヤヲ  
調査スルニ必要アレハナリ故ニ若シ其公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ債權者ハ執行  
裁判所ニ此抄本ノ求メアランコトヲ申請スルコトヲ得ルモノトス

**第七百二十一條** 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サ  
シム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス  
若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコ  
トヲ得

船舶差押  
ト同時ニ  
爲ス必要  
處分

船舶差押  
ノ效力ヲ  
發ル時  
期ニ付テ  
ハ特例ニ  
依テ

**意解** 本條ハ船舶ノ差押ト同時ニ爲ス處分ニ關スル規定ナリ船舶ニ對スル強制競賣ニ付テモ亦不動産  
ニ對スル場合ト等シク競賣手續開始ノ決定ヲ爲スヘキハ勿論ナルモ此決定ヲ爲スト同時ニ執行裁判  
所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得ルモノトス而シ  
テ此處分ニ因リ生スル費用ハ固ヨリ船舶ノ負擔スヘキモノナリト雖モ其處分ヲ爲ス當時ニハ一時債  
權者ヲシテ之ヲ豫納セシムヘキモノニシテ若シ債權者カ之ヲ豫納セサルトキハ執行裁判所ハ既ニ命  
シタル處分ヲ取消スヘキモノトス

船舶ノ差押ハ不動産ノ場合ト等シク競賣開始ノ決定ヲ債務者ニ送達スルニ依リテ其效力ヲ生スルヲ  
本則トスルモ若シ本條ノ處分ヲ爲シタルトキハ未タ開始決定ヲ送達セサル以前ト雖モ尙ホ差押ノ效



船長カ債  
務者タル  
場合ニ於  
ケル船舶  
差押ノ利  
害關係人

方ヲ生スルモノトス

第七百二十二條

船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其  
差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス  
差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス  
差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責  
務ヲ免カル

意解

本條ハ船長カ債務者タル場合ニ於ケル強制執行上ノ利害關係人ニ關スル規定ナリ即チ船舶ノ強  
制執行ニ付テノ利害關係人ハ第六百四十八條ノ規定ヲ適用スヘキモノナルモ本條ニ於テハ左ニ掲ク  
ル者ヲモ尙ホ利害關係人ト爲セリ

(一) 船舶ノ所有者 即チ船長カ債務者トシテ船舶ノ差押ヲ受クル場合ハ船長カ船舶所有者ノ代  
表者タル地位ニ立テテ負擔シタル債務ニ付キ生スルモノナレハ其差押ハ船舶所有者ニ對シテモ  
其效力ヲ生スルカ故ニ之ヲ利害關係人ト爲スヘキハ當然ナリ

(二) 差押後新ニ船長ト爲リタル者 船長ニ交代アルトキハ新船長ハ前船長ノ職務ヲ承繼シテ所  
有者ヲ代表スルノ地位ニ立ツヘキモノナルヲ以テ此者ヲモ亦利害關係人ト爲スヘキコト勿論ナ  
リ此場合ニ於テハ前ノ船長ハ利害關係人タル責務ヲ免カルルニ至ルモノトス

第七百二十三條

船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ

民事訴訟法通義

第六編 強制執行 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第七百十  
七條規定  
ノ效果

取消ス可シ

七四〇

**意解** 本條ハ船舶ニ對スル強制執行ハ第七百十七條ノ規定ニ依リ差押ノ當時碇泊セル港ヲ管轄スル區  
裁判所ノ專屬管轄ト爲サレタルヨリ生スル當然ノ結果ヲ規定シタルモノナルカ故ニ多ク説明スルノ  
必要ナシ

**第七百二十四條** 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表  
示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

**意解** 本條ハ差押船舶ノ競賣期日ノ公告ニ掲クヘキ事項ヲ定メタルモノトス即チ此公告ニハ競賣スヘ  
キ船舶ノ表示例ヘハ船舶ノ番號、西洋形若クハ日本形船名、噸數若クハ石數及ヒ其船舶ノ碇泊スル  
場所ヲ掲クルノ外第六百五十八條第二號以下ノ事項ヲ掲クヘキモノトス

**第七百二十五條** 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日  
ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

**意解** 本條ハ船舶ヲ差押ヘタル碇泊港ト其定繫港ト區裁判所ノ管轄異ナル場合ニ於テ競賣期日ノ公告  
ヲ爲ス方法ヲ定メタルモノニシテ其定繫港ノ區裁判所ニ於テモ公告ヲ爲サシムルノ理由ハ定繫港ニ  
於テハ通常多クノ利害關係人ノ存在スルモノナルヲ以テナリ

**第七百二十六條** 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執  
行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

競賣期日  
ノ公告ニ  
掲クヘキ  
事項

定繫港ト  
差押船舶  
ノ區裁判  
所ノ管轄  
異ナル公  
告方法

船舶ノ股分ノ意義

字解 船舶ノ股分トハ一箇ノ船舶カ二人以上ノ者ニ依リテ共有セラルル場合ニ於ケル各共有者ノ持分ヲ謂フ

意解 本條ハ船舶共有者ノ持分ヲ競賣ニ付スル場合ノ執行手續竝ニ其管轄裁判所ヲ定メタルモノニシテ左ノ如シ

甲 船舶共有ノ持分ノ強制執行ハ第六百二十五條ニ規定セル財産權ノ執行手續ニ依ルヘキモノトス蓋シ船舶ノ持分ニ對スル強制執行ハ船舶ヲ一定ノ港ニ碇泊セシムルコトヲ得サルカ故ニ船舶ノ全部ヲ競賣ニ付スルノ手續ニ依ルコトヲ得ヌ又不動産ノ共有持分トモ其性質上相異ナル所アルヲ以テ其手續ニモ依ルヲ得サレハナリ

乙 船舶ノ共有ノ持分ヲ競賣ニ付スル場合ノ執行裁判所ハ其船舶ノ定繫港ヲ管轄スル區裁判所ナリ蓋シ此場合ニ於テハ船舶自體ヲ差押フルモノニアラサルカ故ニ其所在地ノ區裁判所ノ管轄ト爲スノ要ナケレハナリ

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添附ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ  
差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

意解 本條ハ船舶ノ持分ヲ競賣ニ付スヘキ場合ニ於テ債權者カ差押命令ノ申請書ニ添付スヘキ書面(第一

民事訴訟法通義 第六編 強制執行 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

持分ノ差押命令ノ申請ニ添付スヘキ書面及ヒ其命令ノ送達

管轄裁判所

船舶ノ持分ノ強制執行ノ手續

項) 及ヒ其差押命令ノ送達ニ關スル規定ナリ而シテ管理人ニ命令ノ送達ヲ要スルハ管理人ハ船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル事務ヲ處理スルモノナルヲ以テナリ故ニ管理人ニ差押命令ヲ送達シタルトキハ債務者ニ送達ヲ爲ササルモ差押ノ效力ヲ生スルモノト爲セルナリ

持分ノ競賣代金ノ配當手續

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス  
意解 本條ハ持分ノ競賣代金配當ノ手續ヲ定メタルモノニシテ其手續ハ債權其他ノ財產權ヲ差押ヘタル場合ノ配當手續タル第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用スルモノナレハ右各條ノ説明ヲ參照セラルヘシ

外國船舶ノ登記

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス  
字解 外國ノ船舶トハ日本ノ國籍ヲ有セサル船舶ヲ謂フ如何ナル船舶カ日本ノ國籍ヲ有スルカハ船舶法第一條ニ規定アリ就テ參照スヘシ

意解 本條ハ外國船舶竝ニ日本船舶ト雖モ登記簿ニ登記セサル船舶ノ差押ニ付テハ本節中登記ニ關スル規定ヲ適用セサルヘキコトヲ明示シタルモノニシテ當然ノ事ナリトス

### 第三章

### 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ

### 強制執行

金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ノ意

本章規定スル所ハ前章ノ規定ト異ナリ金錢ノ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ掲ケタル債務名義ノ執行方法ニアラスシテ所謂金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權即チ(一)物自體ノ引渡若クハ明渡ヲ目的トスル債權(二)債務者ノ或行爲ヲ目的トスル債權(三)債務者ノ意思表示ヲ目的トスル債權ニ付テノ執行手續ナリトスルシテ此手續ニハ執達吏ノ職務ニ屬スル執行ト裁判所ノ職務ニ屬スル執行ト第一審ノ受訴裁判所ノ管轄ニ屬スル執行並ニ執行機關ノ行爲ヲ要セサルモノトノ區別アルモ其詳細ハ各條ノ說明ニ讓ル

**第七百三十條** 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

**憲解** 本條ハ特定ノ動産若クハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡スヘキ場合ニ於ケル執行方法ヲ規定シタルモノニシテ法文ノ解釋上別ニ説明ノ必要ナカルヘシト信スルヲ以テ之ヲ略ス但シ此場合ニ於テモ執達吏ノ爲スヘキ行爲ニ付キ第一章總則ノ適用アルヘキハ勿論ナリ

**第七百三十一條** 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得  
強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ  
債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

意解 本條ハ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ノ引渡シ又ハ明渡シヲ目的トスル強制執行ニ付テノ手續ヲ定メタルモノトス元來不動産若クハ船舶ニ對スル強制執行ハ執行裁判所之ヲ實施スヘキモノナルモ單ニ其引渡シ若クハ明渡シヲ目的トスル場合ニ於テハ敢テ法律上ノ判定ヲ爲スノ要ナキモノナルヲ以テ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解カシメ之ヲ債權者ニ引渡シテ其執行ヲ實施スヘキモノト爲セリ然レトモ若シ其期日ニ債權者若クハ其代理人カ受取ノ爲メニ出頭セサルトキハ此執行ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ執達吏ハ債權者ニ代ハリテ其目的物ヲ占有スルコトヲ得サレハナリ

執達吏カ右ノ執行ヲ爲スニ際シ執行ノ目的物ニアラサル動産存在スルトキハ之ヲ取除キ債務者又ハ其代理人若クハ成長シタル家族雇人等ニ之ヲ引渡スヘク若シ此等ノ者皆アラサルトキハ債務者ノ費用ヲ以テ右ノ動産ヲ保管ニ付スヘク又債務者カ其受取ヲ怠ル場合ニ於テハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其代金中ヨリ費用ヲ控除シタル殘額ヲ供託スヘキモノトス

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

不動産ノ住居スル船舶ノ引渡シ又ハ明渡シヲ目的トスル強制執行ノ手續  
目的物中ニ執行ノ目的ニ於テ存スル動産カ其ノ場所ニ在リ  
合ノ手續

引渡ノ目  
的物カ第  
三者ノ手  
中ニ存ス  
ル場合ノ  
執行手續

意解 本條ハ執行ノ目的物タル動産若クハ不動産カ第三者ノ手中ニ存スル場合ノ執行手續ヲ定メタルモノニシテ前二條ニ例外ヲ爲スモノナリ茲ニ所謂第三者ノ手中ニ存スルトハ必スシモ眞正ナル占有ニ係ル場合ノミニアラス只一時握持スル場合ヲモ包含スルモノニシテ要スルニ第三者カ債務者ニ對シテ其目的物ヲ引渡スヘキ義務ヲ負フ場合ヲ指スモノナリ

右ノ場合ニ於テハ執達吏ハ其目的物ヲ第三者ヨリ取上ケテ債權者ニ交付スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ債權者ハ執行裁判所ニ其執行ノ申請ヲ爲シ執行裁判所ハ其性質ノ許ス限り金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ債務者カ第三者ニ對シテ有スル引渡ノ請求權ヲ債權者ニ轉付スヘキモノトス但シ執行裁判行ニ於テハ支拂ニ換ヘテ轉付命令ヲ爲スヘキモノニアラス蓋シ此場合ニ於テハ所謂券面額ナルモノ存在セサレハナリ

右ノ轉付命令ニ依リ第三者カ任意ニ目的物ノ引渡ヲ爲ササルトキハ債權者ハ第六百十條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ提起シテ其裁判確定シタル後始メテ其執行ヲ爲スヘキモノトス

### 第七百三十三條

民法第四百十四條第二項及第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス(民法施行法第五十四條ヲ以テ本項改正)

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラントトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

民事訴訟法通義

第六編

強制執行

第三章

金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

七四五

他人カ代  
リテ爲ス  
コトヲ得  
ハキ債務  
者ノ作爲  
不作為ヲ  
目的トス  
執行方法  
ル債權ノ

憲解 本條ハ債務者ノ作爲不作為ヲ目的トスルモノニシテ他人カ代リテ之ヲ爲スコトヲ得ル債權ノ強制執行ニ關スル規定ナリ而シテ此場合ニ於テハ其債務名義ノ内容ニ從ヒ受訴裁判所ノ爲スヘキ決定ヲ異ニス

(一) 債務者ノ爲スヘキ行爲ニシテ第三者カ代テ之ヲ爲シ得ヘキモノナルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ民法第四百十四條第二項ノ規定ニ從ヒ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムヘキ決定ヲ爲スヘキモノトス而シテ如何ナル作爲ノ義務カ第三者代テ之ヲ爲シ得ヘキヤハ義務ノ性質ニ因リテ定マルヘキモノニシテ畢竟事實上ノ問題ナリトスルモ要スルニ第三者カ之ヲ爲スモ債權者ヲシテ債務者カ自ラ爲シタルト同一ノ效果ヲ享有セシムルモノハ之ニ該當スルモノト謂フコトヲ得ヘシ

(二) 債務名義ノ内容カ債務者ニ不作為ノ義務ヲ命シタルモノナルトキハ受訴裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ民法第四百十四條第三項ノ規定ニ從ヒ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタルモノヲ除却セシメ且ツ將來ノ爲メ適當ナル處分ヲ命スルノ決定ヲ爲スヘキモノトス  
債權者ハ決定ノ申請ヲ爲スト同時ニ其行爲ヨリ生スル費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定アラシコトヲ申立ツルコトヲ得ヘク尙ホ其豫定額ヨリ實際ニ多額ヲ要シタルトキハ其行爲完了後ニ於テ其不足額ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス  
本條ニ依テ爲シタル決定ハ直チニ債務名義ト爲ル



強制履行  
ヲ許ス債  
權ノ強制  
執行方法

債務者ノ  
意思表示  
ヲ目的ト  
スル債權  
ノ執行方  
法

**第七百三十四條** 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遅延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス（民法施行法第五十五條ヲ以テ改正）

**意解** 本條ハ強制履行ヲ許スモノニシテ而カモ第三者カ代テ爲スコトヲ得サル行爲ヲ目的トスル債權ノ強制執行ニ關スル手續ヲ定メタルモノナリ而シテ本條ノ規定ニ依リ受訴裁判所ノ爲シタル決定モ亦前條ノ決定ト等シク直チニ執行シ得ヘキ債務名義ト爲ルモノトス

**第七百三十五條** 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

**意解** 本條ハ受訴裁判所カ前二條ノ決定ヲ爲スノ手續ヲ規定シタルモノニシテ別ニ説明ノ必要ナカルヘシ

**第七百三十六條** 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

**意解** 本條ハ債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾スヘキ義務又ハ其他ノ意思表示ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔ス

債務者ノ  
意思表示ノ  
效力ハハ  
キ判決ノ  
効力

假差押及  
ヒ假處分  
ノ意義及  
ヒ之ヲ設  
ケタル由  
法ノ理由

ル場合ニ於ケル執行手續ヲ定メタルモノニシテ此場合ニ於ケル債務者ノ義務ハ其意思ノミニ係ルモノニシテ第三者カ代テ之ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論債務者ニ對シテモ亦直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得サルカ故ニ債權者ハ民法第四百十四條第二項後段但書ノ規定ニ從ヒ訴ヲ提起シテ債務者ノ意思表示ニ代ハルヘキ判決ヲ受ケサルヘカラス而シテ此判決確定シタルトキハ何等執行機關ノ關與ヲ要スルコトナク債務者カ自ラ認諾其他ノ意思表示ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス然レトモ若シ債權者カ反對給付ヲ爲シタル後債務者カ其意思表示ヲ爲スヘキモノナルトキハ判決ノ確定ト同時ニ效力ヲ生スルモノニアラスシテ債權者カ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ受ケタルトキ始メテ其效力ヲ生スルモノトス蓋シ斯ク爲ササルニ於テハ債權者ハ自己ノ義務ヲ履行セサルニ債務者ヲシテ其義務ヲ履行セシムルカ如キ不公平ナル結果ヲ生スレハナリ

### 第四章 假差押及ヒ假處分

假差押及ヒ假處分ナルモノハ眞ノ強制執行ニアラスシテ他日權利ノ確定シタルトキ之カ強制執行ヲ爲サンカ爲メノ未來ノ執行保全ノ方法ナリトス而シテ法律カ斯ル手續ヲ設ケタル所以ノモノハ蓋シ強制執行ハ確定判決若クハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決及ヒ第五百五十九條ニ規定スル債務名義ニ基キテ之ヲ爲スヲ本則トス然レトモ債權者カ此債務名義ヲ得ルニハ多クノ日數ヲ要スルカ故ニ其間ニ於テ債務者ノ財産若クハ係争物ニ變更ヲ生シ爲メニ債務者ヲシテ其義務ヲ履行セシムルニ困難ヲ生シ又

假差押及  
假處分ノ  
性質

假差押及  
假處分ト  
ノ差異

ハ其履行ヲ不能ニ屬セシムル虞ナキニアラサルヲ以テ法律ハ此場合ニ於ケル債權者ノ利益ヲ保護スル  
カ爲メニ其未來ニ於ケル執行ヲ保全セシムルノ必要アルニ因ル  
假差押及假處分ノ性質ノ主要ナルモノヲ分析説明スレハ左ノ如シ

- (一) 假差押及ヒ假處分ハ強制執行ノ保全ヲ以テ其目的ト爲スモノナリ 故ニ訴訟ノ提起前又ハ其  
進行中ニ於テ一時假ノ處分ヲ爲スモノナリ
- (二) 假差押及ヒ假處分ハ未來ノ強制執行ヲ保全スルヲ目的トス 故ニ執行シ得ヘキ債務名義ヲ有  
シ直チニ執行シ得ヘキ場合及ヒ既ニ強制執行ニ著手セル場合ハ此手續ニ依ルコトヲ得サルモノト  
ス
- (三) 假差押及ヒ假處分ハ本訴訟ノ前程トシテ其完結ヲ待ツ能ハサルトキニ適用アルモノナリ故ニ  
本訴訟ト相牽連シテ其申出ヲ爲ササルヘカラス然レトモ必スシモ既ニ本訴訟ノ提起アリタルコト  
ヲ要セス但シ第七百四十六條ニ依リ相手方ヨリ訴訟ノ提起ヲ強要セラルルコトアルヘシ
- (四) 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ債權ノ執行保全ノ方法ニシテ假處  
分ハ主トシテ金錢ヲ目的トスル債權以外ノ權利ヲ實行スルカ爲メノ保全方法ナリ

**第七百三十七條** 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又  
ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請  
求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

急解

以上二箇條ハ假差押ノ條件ヲ規定シタルモノニシテ之ヲ略述スレハ左ノ如シ

(一) 金銭ノ債權若クハ金銭債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ基クコトヲ要ス 蓋シ假差押ハ金銭債權ノ執行保全ヲ目的トスルモノナレハナリ而シテ苟クモ此要件ニ該當スル請求ハ未タ期限ニ至ラサルモノト雖モ尙ホ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(二) 假差押ヲ爲スニハ左ノ理由ノ一カ存在スルコトヲ必要トス

(イ) 判決ノ執行ヲ爲ス能ハサルニ至ル虞アルトキ 例ヘハ債務者カ其財産ヲ浪費シ又ハ其所有ノ財産ヲ他人ニ讓渡シ若クハ贈與シテ判決アルニ至ルマテニ其執行ノ目的タルヘキ財産ヲ總テ失フニ至ルヘキ虞アルカ如キ場合ヲ云フ

(ロ) 判決ノ執行ヲ爲スニ付キ著シキ困難ヲ生スル虞アルコト 例ヘハ債務者カ外國ニ轉任シ爲メニ現住地ニ於テ強制執行ヲ爲ス能ハサルニ至ルカ如キ又ハ債務者カ財産ヲ隠匿セントスル虞アル場合ノ如シ

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押ヲ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

假差押命令ノ管轄裁判所

意解 本條ハ假差押命令ノ管轄裁判所ヲ規定シタルモノニシテ其管轄裁判所ハ差押フヘキ財産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所ナリトス而シテ此管轄ハ專屬ナルモ債權者ハ右二箇ノ裁判所中其何レカラ選擇シテ其申請ヲ爲スコトヲ得ヘシ(本案ノ管轄裁判所ノ何タルヤニ付テハ第七百六十二條ニ規定アリ)

第七百四十條

假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ノ申請ニ掲クヘキ條件

意解 本條ハ假差押ノ申請ノ方式竝ニ其申請ニ掲クヘキ要件ヲ定メタルモノトス即チ假差押ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ申請スルコトヲ得ルモ其申請ニハ必ス左ノ二箇ノ要件ヲ掲ケ且ツ之ヲ説明セサルヘカラサルモノトス

(イ) 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニアラサルトキハ其價額

(ロ) 假差押ノ理由タル事實ノ表示 即チ第七百三十八條ニ規定スル理由ノ事實ヲ謂フ

以上ノ外法律ニ規定ナシト雖モ差押ヲ爲サントスル目的物即チ有體動産、債權、不動産等ヲ特定のニ表示セサルヘカラス然ラサレハ如何ナル財産ニ對シテ假差押ヲ爲スヘキヤハ不明ナレハナリ

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得  
請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生スコキ損害ノ爲メ債  
權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコ  
トヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコ  
トヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假  
差押ノ命令ニ記載ス可シ

假差押ノ  
申請ニ付  
テノ審理  
手續

意解

本條ハ假差押ノ申請ニ付テノ審理手續ヲ規定シタルモノナリ即チ假差押ノ申請ニ付テハ裁判所  
ハ其管轄、申請ノ方式及ヒ疏明方法等ノ如何ヲ調査シ然ル後其申請ノ當否ヲ調査スヘキモノニシテ  
其裁判ハ書面審理ニ依リ若クハ口頭辯論ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク書面審理ニ依ル場合ハ債務者  
ヲ審訊スルコトヲ要セサルモ口頭辯論ニ依ルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ期日ヲ定メ辯論ヲ爲サシム  
ヘキモノトス

第二項以下ハ裁判所カ債權者ニ保證ヲ立テシメテ假差押ヲ許スヘキ場合ノ規定ニシテ特ニ説明ノ必  
要ナシ

第七百四十二條

假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之  
ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ニ付テノ裁判ノ方式ノ通知ノ通

假差押ノ執行停止ノ又ハ取消ノ爲メニ債務者ノ供託金額

**假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス**  
**意解** 本條ハ假差押ノ申請ニ付テノ裁判ノ方式竝ニ其裁判ノ通知ニ關スル規定ナリ即チ假差押ノ申請ニ付テノ許否ノ裁判ハ其審理手續カ口頭辯論ヲ經タルモノナルトキハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判シ其他ノ場合ニ於テハ決定ノ方式ヲ以テ之ヲ裁判スヘキモノトス而シテ其裁判ハ假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシメテ之ヲ許スモノナルトキハ債務者ニ通知スルコトヲ要セサルモ其他ノ場合ハ之ヲ通知セサルヘカラサルモノトス

**第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メニ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ**  
**意解** 本條ニ執行ヲ停止シ又ハ假差押ヲ取消スコトヲ得ルカ爲メニ債務者ヨリ供託スヘキ金額ヲ假差押命令中ニ掲クヘキコトヲ規定シタルハ蓋シ假差押ノ目的ハ債權者ノ爲メニ強制執行ヲ保全シ危険ナカラシムルコトヲ期スルニアリ故ニ債務者ニ於テ之カ擔保ニ十分ナル金額又ハ他ノ保證ヲ立テ其危険ヲ除去スルニ於テハ強テ假差押ヲ爲スノ必要ナケレハナリ故ニ假差押命令ニハ債務者ヲシテ強制執行ヲ免カルル爲メニ供託スヘキ金額ヲ掲クヘキモノト爲シタルナリ

**第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得**  
此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

假差押決定ニ對スル債務者ノ異議申立ノ方式

異議申立ノ效力

異議申立ニ付テノ手續

意解 本條ハ假差押ヲ命スル決定ニ對スル債務者ノ異議ヲ規定シタルモノニシテ假差押ヲ命スル決定ニ對シテハ抗告ノ方法ヲ許ササルカ故ニ債務者ハ直チニ本條ノ規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ此異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ且ツ假差押命令ノ取消ヲ求ムル理由若クハ其變更ヲ申立ツル理由ヲ開示セサルヘカラス

債務者カ右ノ異議ノ申立テヲ爲スモ假差押命令ノ執行ハ之カ爲メニ停止セラルルモノニアラス蓋シ假差押ハ其性質上迅速ヲ要スルモノナレハ一時ノ異議申立ノ爲メニ其執行ヲ妨クヘカラサレハナリ右ノ外判決ヲ以テ假差押ヲ命シタルトキハ債務者ハ之ニ對シテ故障若クハ上訴ノ方法ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘク又裁判長カ命令ヲ以テ爲シタル場合モ亦本條ノ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス

第七百四十五條

異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ  
裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

意解

木條ハ前條ノ異議ノ申立テアリタル場合ニ於ケル裁判ノ手續ヲ規定シタルモノトス  
債務者ヨリ前條ノ異議申立テアリタルトキハ假差押裁判所ハ判決裁判所ノ資格ヲ以テ口頭辯論ノ原則ニ從ヒ辯論期日ヲ定メ異議ノ申請書ヲ相手方ニ送達シ相手方ヲ辯論ノ爲メニ呼出スヘキモノトス而シテ其口頭辯論ハ本請求ノ當否ニ關涉スヘキモノニアラスシテ單ニ假差押ノ當否ニ付キ審案シ前

ニ發シタル假差押ノ全部若クハ一部ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又ハ保證ヲ立ツヘキ條件ヲ附シテ此言渡ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ其裁判ハ終局判決ヲ以テ爲スモノナリトス

第七百四十六條

本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債務者ニ命ス可シ  
此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

意解

本條ハ假差押命令ニ付テノ訴提起ノ申立ニ關スル規定ナリ抑モ假差押命令ハ既ニ説明シタル如ク未タ本案ノ訴ヲ提起セサル以前ニ於テモ之ヲ申請シ得ヘキモノナルヲ以テ債權者カ假差押命令ヲ受ケタル後訴ノ提起ヲ怠ルコトアルヘシ斯ル場合ニ於テハ債務者ハ自己ノ利益ヲ保護スル爲メ假差押裁判所ニ對シテ債權者ニ訴ノ提起ヲ促カス爲メ期間ヲ定メラレシコトヲ求ムルコトヲ得ヘシ而シテ右ノ申立アルトキハ假差押裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ訴ヲ提起スヘキコトヲ債權者ニ命スヘク若シ其期間内ニ債權者カ訴ヲ提起セサルトキハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ノ爲メニ當事者双方ヲ呼出シ終局判決ヲ以テ其假差押命令ヲ取消スヘキモノトス

第七百四十七條

債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得  
此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫

債務者ハ債權者ニ對シテ訴命セラレシコトヲ申立ツル有ス



債務者ノ申立ニ因リテ假差押ノ取消スヘキ場合

右申立ノ管轄裁判所

右ノ申立ニ對スル裁判ノ方

屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

意解

本條ハ債務者ノ申立ニ因リテ假差押命令ヲ取消ス場合ニ關スル規定ニシテ債務者ハ判決ヲ以テシタルト決定、命令ニ依リタルト問ハス假差押ノ命令アリタル後右ノ理由ノ一存スルトキハ既ニ其執行ニ著手シタルト否トニ拘ハラズ假差押命令ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ

(一) 假差押ノ理由カ全部消滅シタルトキ

(二) 其他假差押ヲ許スヘキ事情ノ變更シタルトキ

(三) 裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ントノ提供ヲ爲シタルトキ

右ノ債務者ノ取消ノ申立ハ本案カ未タ繫屬セサル以前ニ於テハ假差押命令ヲ發シタル裁判所ニ爲スヘク又本案カ既ニ繫屬セル場合ニハ本案ノ裁判所ニ爲スヘキモノトス而シテ此申立アルトキハ管轄裁判所ハ口頭辯論ノ爲メニ當事者双方ヲ呼出シ終局判決ヲ以テ假差押命令ヲ取消スヘキ理由ノ存スルヤ否ヤヲ裁判スヘキモノニシテ此裁判ニ對シテ上訴若クハ故障ヲ爲スコトヲ得ヘク又假差押命令ヲ取消シタルトキハ之レニ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノトス(第五〇一條第四號)

第七百四十八條

假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

意解

本條ハ假差押ノ執行ニ付テハ如何ナル規定ニ準據スヘキヤヲ定メタルニ過キスシテ深く説明スルノ必要ナキニ付キ之ヲ省ク

假差押ノ命令ニハ如何ナル執行ノ必要トスルヤ

假差押ノ執行ノ時期

意解

本條第一項ノ假差押命令ハ其命令自體ニ於テ執行シ得ヘキ性質ヲ有スルヲ以テ特ニ執行文ノ附

第七百四十九條

假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第二項ハ假差押命令ノ效力存續ノ期間ヲ制限シタルモノニシテ急速ニ保全行爲ヲ盡スヲ目的トスル命令ノ性質ヨリ生スル結果ナリ

第三項モ亦假差押ハ極メテ急速ヲ要スルノミナラス其裁判ヲ債權者ニ知ラシムルニ於テハ差押ノ目的物ヲ隱匿シ爲メニ假差押ノ目的ヲ達スル能ハサルニ至ルナキヲ保セサルニ因ル

第七百五十條

動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

有體動産  
及ヒ債權  
ニ對スル  
假差押ノ  
執行方法

不動産ニ  
對スル假  
差押ノ執  
行方法

假差押ノ  
強制管理  
方法

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サ  
ス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費  
用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ得ル賣得金ヲ共託ス可キ旨ヲ執達  
吏ニ命スルコトヲ得

意解 本條ハ有體動産及ヒ債權ニ對スル假差押ノ執行方法ニ付テノ特別規定ヲ設ケタルモノニシテ法  
文明瞭ナルカ故ニ敢テ詳説スルノ必要ナシ

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之  
ヲ爲ス

意解 本條ハ不動産ニ對スル假差押ノ執行方法中登記ノミニ因リテ爲ス手續ヲ規定シタルモノトス

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金  
額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

意解 本條ハ假差押ノ執行方法トシテ不動産ノ強制管理ヲ爲スヘキ場合ノ執行手續ヲ定メタルモノニ  
シテ法文ヲ一讀シテ其意義自ラ明瞭ナルヘシ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ  
因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲  
ス

船舶ニ對  
スル假差  
押

假差押ノ  
執行ヲ取  
消ス場合

意解 本條ハ船舶ニ對スル假差押ノ執行方法ヲ特定シタルモノニシテ是亦詳説ヲ要セス

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル  
假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ  
亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得  
假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

意解 本條ハ執行シタル假差押ヲ取消スヘキ場合ニ關スル規定ナリ而シテ本條ニ依リ假差押ノ執行ヲ  
取消ス場合左ノ如シ

(一) 債務者カ假差押命令ニ掲ケタル金額ヲ供託シタルトキ 是假差押命令ノ本質ヨリ生スル所  
ナリ

(二) 假差押命令ノ執行ニ付キ特別ノ費用ヲ要スル場合ニ於テ債權者カ其費用ヲ豫納セサルト  
キ

右二箇ノ場合ニ於テハ執達吏カ爲シタルト執行裁判所カ爲シタル執行ナルトヲ問ハス執行裁判所ニ  
於テ其執行ノ取消ヲ命スヘキモノトス但シ之カ爲メニ假差押ノ命令其モノノ效力ヲ喪ハシムルモノ  
ニアラス

係争物ニ  
關スル假  
處分

右ノ執行ヲ取消ス命令ハ口頭辯論ヲ經又ハ經スシテ總テ決定ノ方式ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノニシテ其決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

七六〇

**第七百五十五條**

係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

意解

本條ハ係争物ニ關スル假處分ノ條件ヲ定メタルモノニシテ其條件左ノ如シ

(一) 係争物ニ關スルコトヲ要ス 係争物トハ金錢ノ給付ヲ目的トセサル請求權ノ目的物ヲ謂フモノニシテ既ニ訴訟ニ於テ争ニ係ルモノハ勿論未タ訴訟前ニ於テモ當事者間ノ争ノ目的タルモノヲ包含ス

(二) 係争物ノ現狀ノ變更ニ因リ權利ノ實行不能ト爲リ又ハ之ヲ實行スルニ付キ著シキ困難ヲ生スルノ虞アルコトヲ要ス 蓋シ假處分ハ未來ノ執行保全ノ爲メニスルモノナレハ斯ル狀態ノ生セザルニ於テハ豫メ之ヲ爲サシムルノ必要ナケレハナリ

**第七百五十六條**

假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ適用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

意解

本條ハ假處分ノ命令ヲ發スル手續及ヒ其命令ヲ執行スルノ手續ハ如何ナル規定ニ準據シテ之ヲ爲スヘキヤヲ定メタルモノニシテ深ク之ヲ解説スルノ必要ナシ

**第七百五十七條**

假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

假處分ノ  
管轄裁判  
所

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

意解

本條ハ假處分ノ管轄裁判所及ヒ其裁判ノ方式ヲ定メタルモノトス

(一) 假處分命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄スルヲ原則トス但シ第七百六十一條ノ例外アリ又本案ノ管轄裁判所ノ何タルヤニ付テハ第七百六十二條ノ説明ヲ參照スヘシ

假處分命  
令ノ申請  
ニ對スル  
裁對ノ手  
續

(二) 假處分命令ノ申請ニ付テハ口頭辯論ヲ經テ終局判決ヲ以テ其許否ヲ裁判スルヲ原則トス然レトモ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ決定ノ形式ヲ以テ之ヲ裁判スルコトヲ得ルモノナリ而シテ其判決ヲ以テ爲シタルモノハ上訴若クハ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘク其決定ノ形式ニ因リ假處分ヲ許シタルトキハ債務者ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得又假處分ヲ許ササル決定ニ對シテハ債權者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第七四四條第(四五五條參照))

**第七百五十八條**

裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

意解

本條ハ裁判所カ假處分トシテ命スヘキ内容ヲ定メタルモノニシテ假處分ニ於テハ假差押ノ如ク單ニ假差押ヲ命スルト云フカ如キ裁判ヲ爲スコトヲ得システ金錢以外ノ債權ニ付キ其係争物又ハ係

民事訴訟法通義

第六編 強制執行 第四章 假差押及ヒ假處分

七六一

假處分ニ  
ハ如何ナ  
ル處分方  
法ヲ命ス  
ヘキヤ

保證ヲ立  
テシメテ  
假處分ヲ  
取消スル  
合取場

争ノ法律關係ニ付キ相當ノ保全方法ヲ命スヘキモノナレハ裁判所ハ此命令ヲ爲スニ當リテハ其事情  
ニヨリ假處分ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ命スヘキモノニシテ其範圍ニ付テハ當事者カ如何ナ  
ル假處分ヲ求ムルヤノ申立ヲ爲シタルト否トニ關セス假處分ノ基ク請求竝ニ假處分ヲ必要トスル理  
由ヲ斟酌シテ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス而シテ其命スヘキ方法ニ至リテハ  
場合ニ依リテ一様ナルコト能ハサルヘシト雖モ今本條ノ例示スル所ヲ舉示スレハ  
(一) 係争物件ノ保管ヲ命スルコト 即チ係争物カ動産ナルト不動産ナルトヲ問ハス裁判所ニ於テ  
相當ナリト認ムルトキハ保管人ヲ置キ之カ保管ヲ命スルコトヲ得  
(二) 申立人ノ相手方ニ對シ行爲ヲ命シ又ハ給付ヲ命シ若クハ或行爲ヲ禁止スルコト  
(三) 假處分命令ニシテ不動産ノ讓渡又ハ抵當ヲ禁止シタルモノナルトキハ假處分行爲トシテ裁判  
所ノ職權ヲ以テ其旨ヲ登記簿ニ記入スヘキコトヲ囑託スルコト

七六二

第七百五十九條

特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

意解 本條ハ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許ス場合ニ關スル規定ナリ元來假處分命令ハ假差押命  
令ノ如ク金錢ノ給付請求權執行保全ニアラサルカ故ニ債務者ニ保證ヲ立テシメテ其命令ノ取消ヲ許  
スヘキニアラス然レトモ假處分命令ノ取消ニ因リテ債權者ノ被ルヘキ損害カ金錢ヲ以テ賠償シ得ヘ  
キモノナルトキハ債務者ニ其損害ニ對スル保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スモ何等ノ實害ヲ生  
セサルヘキヲ以テ本條ニ於テハ例外トシテ斯ル特別ノ事情アル場合ニ限り債務者ノ申請ニ因リ保證

係争ノ法  
律關係ニ  
付キ假處  
分ヲ定ム  
ルハ假處  
分ノ要件  
トスルニ  
依ル

ヲ立シメテ假處分命令ノ取消ヲ許スヘキモノト爲セリ而シテ其特別ノ事情ノ存スルヤ否ヤハ全ク裁  
判所ノ判斷ニ依ルヘキモノトス

第七百六十條

假處分ハ争アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但  
其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ  
其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

意解 本條ハ係争ノ法律關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムルノ假處分ノ條件ヲ定メタルモノニシテ左ノ如  
シ

(一) 繼續セル法律關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムルモノナルコトヲ要ス 即チ此假處分ハ財産上ノ法  
律關係ナルト身分關係ナルトヲ問ハス其法律關係ニ付キ假ニ權利ヲ行使セシメ若クハ假ニ其權利  
ヲ行使セシメサルカ如キ權利狀態ヲ假定スルモノナリ故ニ此命令ハ給付請求權ノ執行保全ヲ目的  
トスル手續ニアラス

(二) 著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ假ノ地位ヲ定ムルヲ  
必要トスル狀況ノ存在スルコトヲ要ス

右二箇ノ條件ヲ具備スルトキハ假ノ地位ヲ定ムル假處分ヲ許サルヘキモノトス而シテ其條件ノ存否  
ハ管轄裁判所ノ自由判斷ニ依ルモノナリ

第七百六十一條

急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ